山形県埋蔵文化財調査報告書　第132集

原の内A遺跡
第3次発掘調査報告書

1988

東北農政局
山形県教育委員会

原の内A遺跡
第3次発掘調査報告書

昭和63年3月

東北農政局
山形県教育委員会

図―1

図―2

Ｇ１～４　　南から
フラスコ状土壙
配石遺構

G40・41　　西から

図一3　　ＳＫ87フラスコ状土壙　東から

有孔土器　62
ＲＰ120

図－4

同上
ＳＫ69内出土状況

序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和62年度に実施した国営村山北部農業水利事業にかかる、原の内A遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

尾花沢盆地は朧気川・丹生川・野尻川などの流域に開けた三角形をしており、また段丘の発達が著しく数多くの遺跡が発見されています。

本遺跡はこれまでに2次の発掘調査を経てきています。今回の発掘調査においても、多大な成果を上げることができました。遺構では多数のフラスコ状土壙や、配石遺構、竪穴住居跡を検出したことが上げられます。遺物においても多量の縄紋土器が出土しました。

これら遺構遺物が土中より姿をあらわしては、我々に埋もれたる過去の生活の有り様を彷彿と再現させてくれます。しかしながら遺跡は一度壊してしまえば、二度と元には戻らないものです。今日に残る埋蔵文化財という文化遺産は、私達の祖先が長い歴史の中で創造し、育んできたものの痕跡です。これら祖先の歴史を知ると同時に愛護し、子孫へ伝達していくことが現在に生きている私達の重要な責務と言えるでしょう。

埋蔵文化財が地中に埋め込まれた我々祖先の歴史である以上、土地開発事業とのかかわりを避けて通ることは現在難しい状況下にあります。近年県内各地で開発事業が増加するのに伴って、埋蔵文化財とのかかわりも増加する一方です。したがって、県民生活の文化向上、地域社会の整備などとの調整を求めながら、今後とも埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存です。本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねて、皆様の御理解の一助となれば幸と存じます。

終わりに、調査にあたって御協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に、心から感謝申し上げます。

昭和63年3月

山形県教育委員会

教育長　小野　孝

例　　言

1　本書は山形県教育委員会が、東北農政局の委託を受け昭和62年度に実施した、国営村山北部農業水利事業にかかわる、原の内A遺跡の緊急発掘調査の報告書である。

2　遺跡の所在地は、山形県尾花沢市大字鶴子字中原である。

3　発掘調査は、昭和62年7月6日から同年10月9日までの延べ62日間行った。

4　発掘調査の体制は下記のとおりである。

調査主体	山形県教育委員会	
調査担当	山形県埋蔵文化財緊急調査団	
調査担当者	主任調査員	佐々木洋治・佐藤庄一
	現場主任	安部　実
	調査員	渋谷孝雄・月山隆弘
事務局	事務局長	後藤茂彌
	事務局長補佐	土門紹穂
	事務局員	菅原徳嘉・佐藤大治・長谷部恵子・氏家修一

5　本書の作成は安部　実と月山隆弘が担当した。編集は阿部明彦が、全体を佐々木洋治が総括した。

6　発掘調査にあたっては、東北農政局村山北部農業水利事業所、尾花沢市教育委員会、北村山教育事務所の協力が得られました。ここに記して感謝申し上げます。

凡　　例

1　本書で使用した遺構の分類記号は下記のとおりである。

SD……溝　跡　　SK……土　壙　　SM……配石遺構　　ST……住居跡

EL……炉

2　発堀調査で遺構に付した番号は、１番から132番まで使用した。

3　土層観察においては、遺跡を覆う基本層序をローマ数字で表し、遺構の埋土等については「F」にアラビア数字を付して区別した。

4　報告書執筆の基準は下記のとおりである。

(1)　遺構実測図等の方位記号は真北を示している。

(2)　遺構実測図は1/40・1/100・1/160縮尺で採録し、各々にスケールを付けた。

(3)　土器実測図・拓影図・土偶実測図は1/2・1/3・1/4縮尺で採録し、各々にスケールを付けた。

(4)　遺物観察表中にある「計測値」欄の（　）内の数値は、図上復元による推定値で、〈　〉内の数値は残存長である。

「出土地点」欄の「F」は遺構内埋積土を現す。「G」はグリッドの略記である。「色調」の記載については、昭和45年版農林省農林水製産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

(5)　遺物番号は、土器・土製品・土偶別に各々１番から付けた。なお遺物番号は実測図・観察表・図版に共通のものである。

(6)　図版中遺物写真の縮尺は任意である。

目　　次

第Ⅰ章　調査の経過
1　これまでの調査経過 …… 1
2　調査の方法と経過 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の概要
1　遺跡の立地と環境 …… 2
2　遺構と遺物の分布 …… 2
第Ⅲ章　検出遺構
1　層　序 …… 10
2　遺　構 …… 10
第Ⅳ章　出土遺物
1　土　器 …… 31
2　土製品 …… 32
3　土　偶 …… 32
4　石　器 …… 32
第Ⅴ章　調査のまとめ …… 66

挿　　図

第１図　原の内A遺跡位置図 …… 3
第２図　遺跡概要図 …… 4
第３図　調査区概要図 …… 5
第４図　遺跡全体図 …… 7
第５図　調査区土層柱状図 …… 9
第６図　G40.41遺構図 …… 16
第７図　ST123住居跡SD130溝跡 …… 17
第８図　ST70住居跡SK100土壙 …… 18
第９図　石囲い炉 …… 19
第10図　SK２土坑EL８石囲い炉 …… 20
第11図　SK116.92.4フラスコ状土壙 SK3.5土壙 …… 21
第12図　SK13.44.51.52フラスコ状土壙 …… 22
第13図　SK80.45.60.81フラスコ状土壙 …… 23
第14図　SK69.88.90フラスコ状土 …… 24
第15図　SK87.80フラスコ状土壙 …… 25
第16図　縄紋土器(1) …… 33
第17図　縄紋土器(2) …… 34
第18図　縄紋土器(3) …… 35
第19図　縄紋土器(4) …… 36
第20図　縄紋土器(5) …… 37
第21図　縄紋土器(6) …… 38
第22図　縄紋土器(7) …… 39
第23図　縄紋土器(8) …… 40
第24図　縄紋土器(9) …… 41
第25図　縄紋土器(10) …… 42
第26図　縄紋土器(11) …… 43
第27図　縄紋土器(12) …… 44
第28図　縄紋土器(13) …… 45
第29図　縄紋土器(14) …… 46
第30図　縄紋土器(15) …… 47
第31図　縄紋土器(16) …… 48
第32図　縄紋土器(17) …… 49
第33図　縄紋土器(18) …… 50
第34図　縄紋土器(19) …… 51
第35図　土器紋様展開図(1) …… 52
第36図　土器紋様展開図(2) …… 53
第37図　土器底部拓影図(1) …… 58
第38図　土器底部拓影図(2) …… 59
第39図　土製円盤 筒状土製品 …… 60
第40図　土偶(1) …… 61
第41図　土偶(2) …… 62
第42図　土偶(3) …… 63
第43図　土偶(4) …… 64

表・カラー図版

表　1　石囲い炉(EL)観察表 …… 19
表　2　石囲い炉(EL)観察表 …… 20
表　3　遺構土層観察表(1) …… 26
表　4　遺構土層観察表(2) …… 27
表　5　遺構土層観察表(3) …… 28
表　6　遺構土層観察表(4) …… 29
表　7　遺構土層観察表(5) …… 30
表　8　土器観察表(1) …… 54
表　9　土器観察表(2) …… 55
表　10　土器観察表(3) …… 56
表　11　土器観察表(4) …… 57
表　12　土製円盤 筒状土製品観察表 …… 60
表　13　土偶観察表 …… 65

図　1　土偶 15
図　2　G1～4 フラスコ状土坑 配石遺構
図　3　G40.41,SK87フラスコ状土壙
図　4　有孔土器 62同SK69内出土状況

図　　版

図版　1　原の内A遺跡遠景　G40.41調査状況
図版　2　G2～8調査状況　G1～3調査状況
図版　3　G3～8調査状況　G12～16調査状況
図版　4　調査区近景,SM131配石遺構,SM132配石遺構,G40.41調査区北壁土層,
EL72,74,76,73,77石囲い炉
図版　5　EL107石囲い炉,SM6配石遺構,SD130溝跡,ST123住居跡
G1.2遺構検出状況.フラスコ状土壙
図版　6　G6.7.8.9.63.14,SK2土坑,ST70住居跡
図版　7　埋設土器,SK13.45.58.169.80フラスコ状土壙
図版　8　SK81.86.87.88.69.88.89.890.92フラスコ状土壙
図版　9　土器(1)
図版　10　土器(2)
図版　11　土器(3)
図版　12　土器(4)
図版　13　土器(5)
図版　14　土器(6)
図版　15　土器(7)
図版　16　土器(8)
図版　17　土器(9)
図版　18　土器(10)
図版　19　土器(11)
図版　20　土器(12)
図版　21　土器(13)
図版　22　土器(14)
図版　23　土器(15)
図版　24　土器(16)
図版　25　土偶(1)
図版　26　土偶(2)
図版　27　土製円板,筒状土製品
図版　28　石器(1)
図版　29　石器(2)
図版　30　石器(3)
図版　31　石器(4)

第Ⅰ章　調査の経緯

1　これまでの調査経過

山形県遺跡地図』（山形県教育委員会編、昭和53年発行）によれば、尾花沢市管内には100箇所以上に上る遺跡が確認されている。このなかで「原の内Ａ遺跡」は787番として登録されている。なお、遺跡の正式な発見は昭和38年の『山形県遺跡地名表』による。

原の内Ａ遺跡は、昭和48年度に県立博物館が簡易水道建設工事に伴って、現地調査を実施している。また、県教育委員会では、昭和55年度に県営ほ場整備事業で、昭和57年度には県道改良工事に伴い緊急発掘調査を実施している。

過年度までの調査成果によれば、縄紋時代中期・晩期を中心とした、縄紋早期から平安時代まで断続的に営まれた集落跡であることが明らかにされている。

昭和62・63年度に国営村山北部農業水利事業の一環として、幹線用水路造成工事が具体化されることになった。これに伴い県教育委員会では遺跡の規模・内容を明確にしたうえで、遺跡の保護と開発事業との調整を計る必要が生じた。

このため教育委員会では、昭和61年秋に遺跡内の事業区域について、試掘調査を含む遺跡詳細分布調査を行なった。試掘調査の結果縄紋時代中期の土器が多量に出土し、遺跡が良好な状態で残っていることが確認された。さらに縄紋時代中期の集落の広がりが、昭和55・57年度の調査区より更に北東の地域にも広がることが確認できた。

この遺跡詳細分布調査結果をもとにして関係機関との協議調整を行った。その結果県教育委員会が主体となり、昭和62年度に緊急発掘調査を実施する運びとなった。調査の対象区は昭和62・63年度事業実施地区内とした。

2　調査の方法と経過

調査は初めに６ｍ×１ｍの試掘トレンチを14箇所設け、土層堆積状況・遺構・遺物の遺存状況を再度確認した。

調査区内の幅６ｍの長さが240mにおよぶ管水路埋部設分には、６ｍ×６ｍ方形を一単位とする地区割（グリッド）を39箇所設けた。また、分水口部分では２グリットの地区割りを行った。地区割の呼称は管水路埋設部分は１～39グリッドとし、分水口部分は40・41グリッドとした。

調査区全域約1,600㎡の表土を重機械を使用して除去した。この後、人力より順次掘り下げ作業を行い遺構・遺物の検出に努めた。

検出された遺構・遺物については土層断面実測図・土層註記・平面実測図・写真撮影等の記録保存作業を行った。

第II章　遺跡の概要

1　遺跡の立地と環境

原の内A遺跡のある尾花沢市は、山形県の北東部、村山地方の北東端に位置している。東・南・北部の山岳地帯で、中央部から西北部にかけては、尾花沢盆地が広がっている。

尾花沢盆地は、奥羽山脈を水源とする朧気川・丹生川・野尻川などの流域に開けた三角形をしている。この地域は段丘の発達が著しく、玉野原台地・荻袋台地・野黒沢台地の段丘が盆地面積の約6割を占めている。

気候は内陸性気候を呈している。年間の平均気温は10℃前後で、日照時間が短く低温・多湿・多雪地域である。冬の季節風は、月山・御所山などの稜線にさえぎられて豪雪を起こしやすく、平野部でも積雪が2mを越すこともまれではない。

原の内A遺跡は、丹生川左岸の河岸段丘に位置し、標高235～240mを測る。

今次の調査地区は縁辺部に近く、南から北側に向かって傾斜しといる。現在の地目は水田であり、近効を流れる丹生川との標高差は約10mを測る。昭和55年度の調査地区から約200mほど北東へ行った所である。遺跡の周辺は、玉野原段丘の西端にあたり、この段丘や台地上に遺跡が数多く発見されている。

2　遺構と遺物の分布

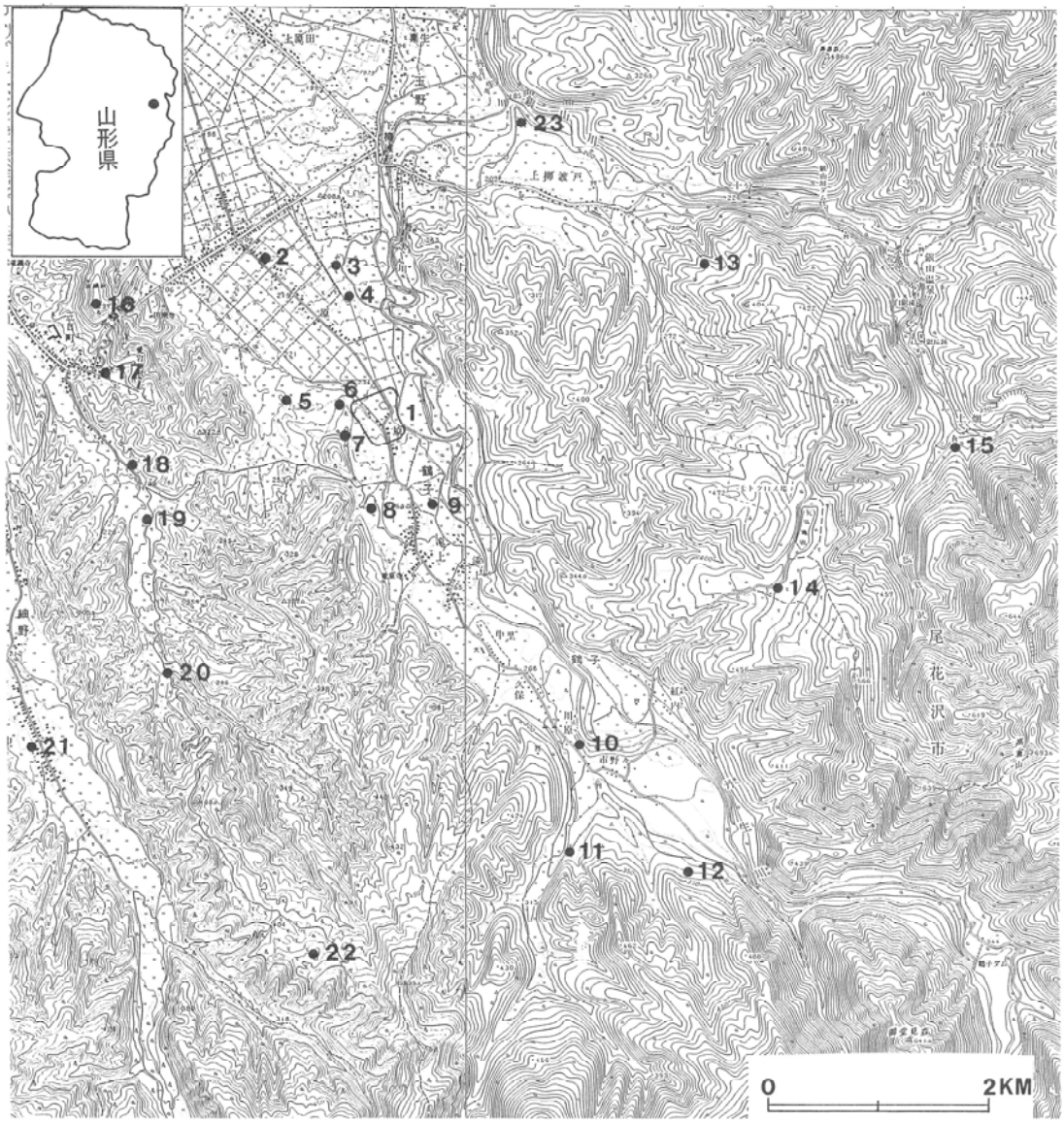
調査区は、幅6m長さ240mという限られた範囲であったため、遺跡の全体像をつかむまでには至っていない。

遺物包含層の黒ボク層は、1～16グリットにかけて約50mの厚さで堆積している。この上面では赤く焼けた焦土、及び石囲い炉が多数検出されている。包含層中からは多数の縄紋土器が出土している。

現況で約1mほどの落差がある25グリッド以北では、遺構遺物の検出は見られなかった。遺跡範囲の北限と考えられる。

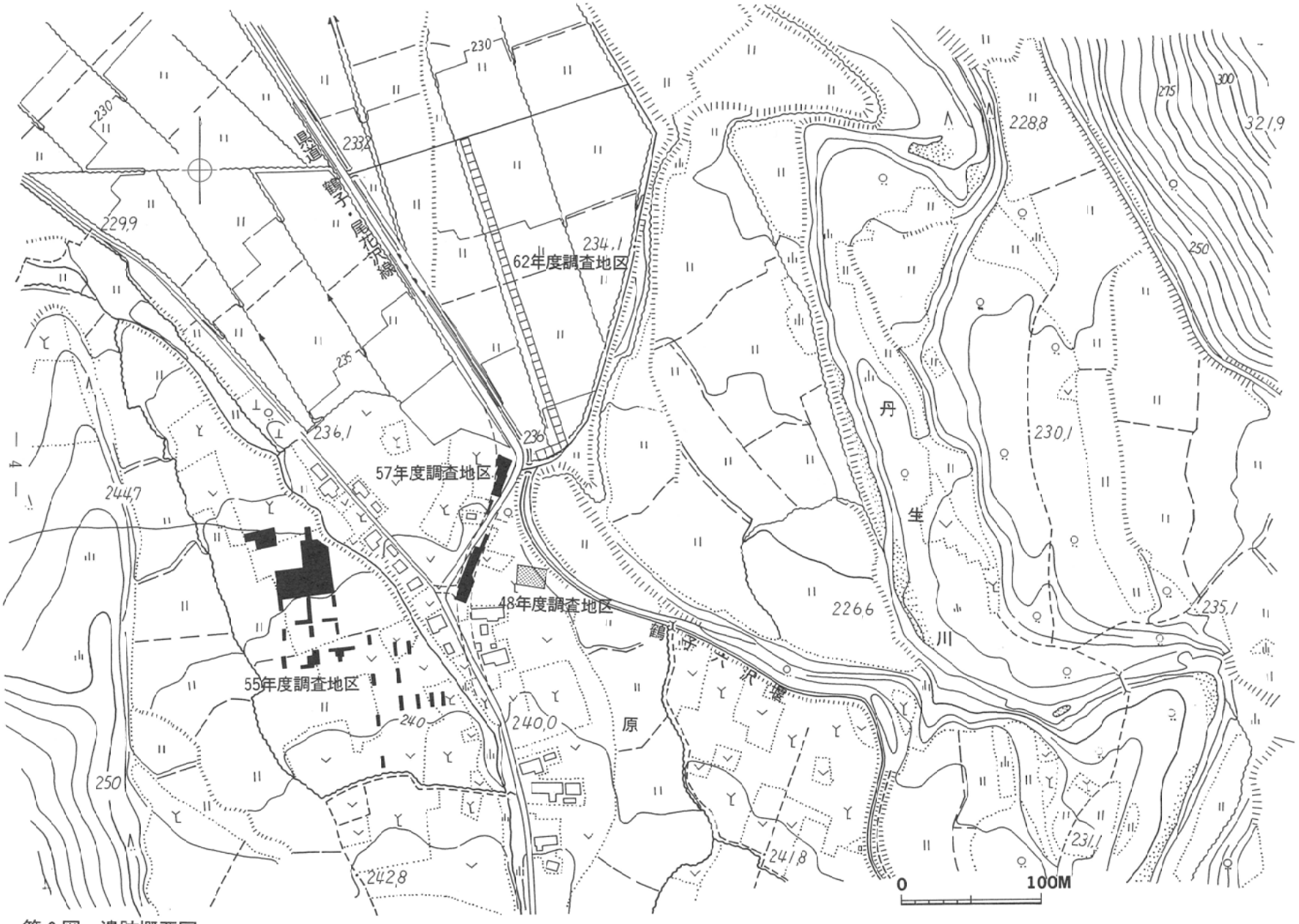
遺構は住居跡・炉跡・フラスコ状土壙・土壙・墓壙・配石遺構などが1～24グリッドにかけて検出されている。遺物はこの遺構検出地区に伴い、縄紋土器・石器が出土している。

過年度調査における遺跡の年代は縄紋時代早期から晩期、さらに平安時代までとはばがあるが、今次調査区の年代は、土器から縄紋時代中期に限定される。



第１図　原の内Ａ遺跡位置図（５万分の１）

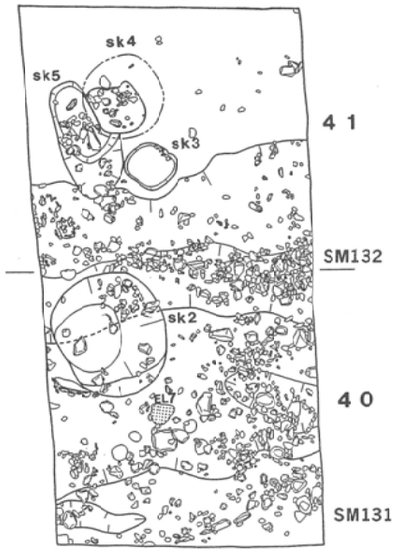
1	原の内Ａ遺跡	2	六沢遺跡	3	玉野原Ｂ遺跡	4	玉野原Ａ遺跡
5	原の内Ｂ遺跡	6	原の内Ｃ遺跡	7	原の内Ｄ遺跡	8	堀の内遺跡
9	八面遺跡	10	川原遺跡	11	市野々遺跡	12	いるかい遺跡
13	八幡山遺跡	14	大谷地沼遺跡	15	上ノ畑窯跡	16	野辺沢城跡
17	坊の入遺跡	18	カマツ坂遺跡	19	田の沢遺跡	20	宮田原遺跡
21	幅遺跡	22	雨沼遺跡	23	高橋館跡		

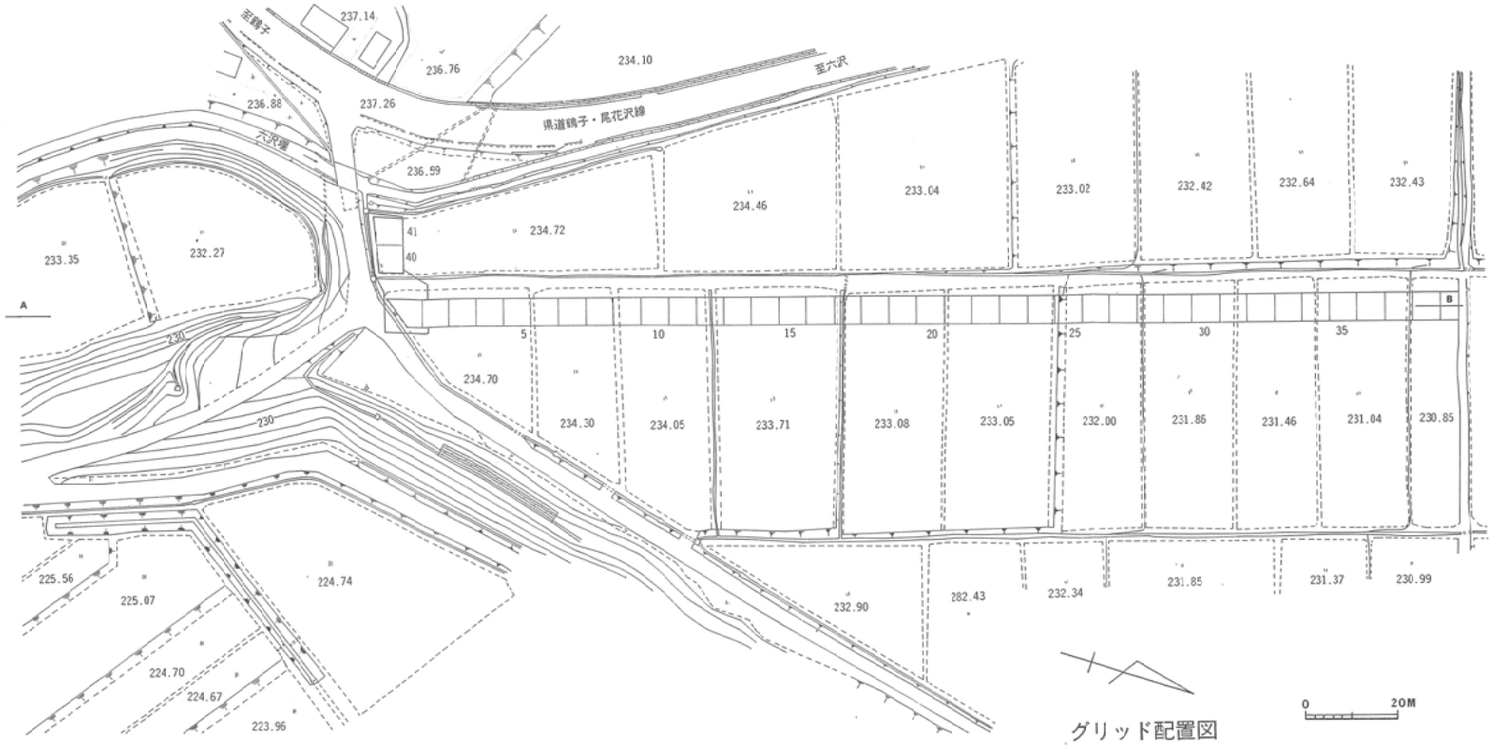

62年度調査地区
57年度調査地区
48年度調査地区
55年度調査地区
230
233.2
229.9
234.1
236.1
236
244.7
240
240.0
250
242.8
241.8
231.1
235.1
230.1
226.6
228.8
321.9
275
300
丹
生
川
原
0
100M

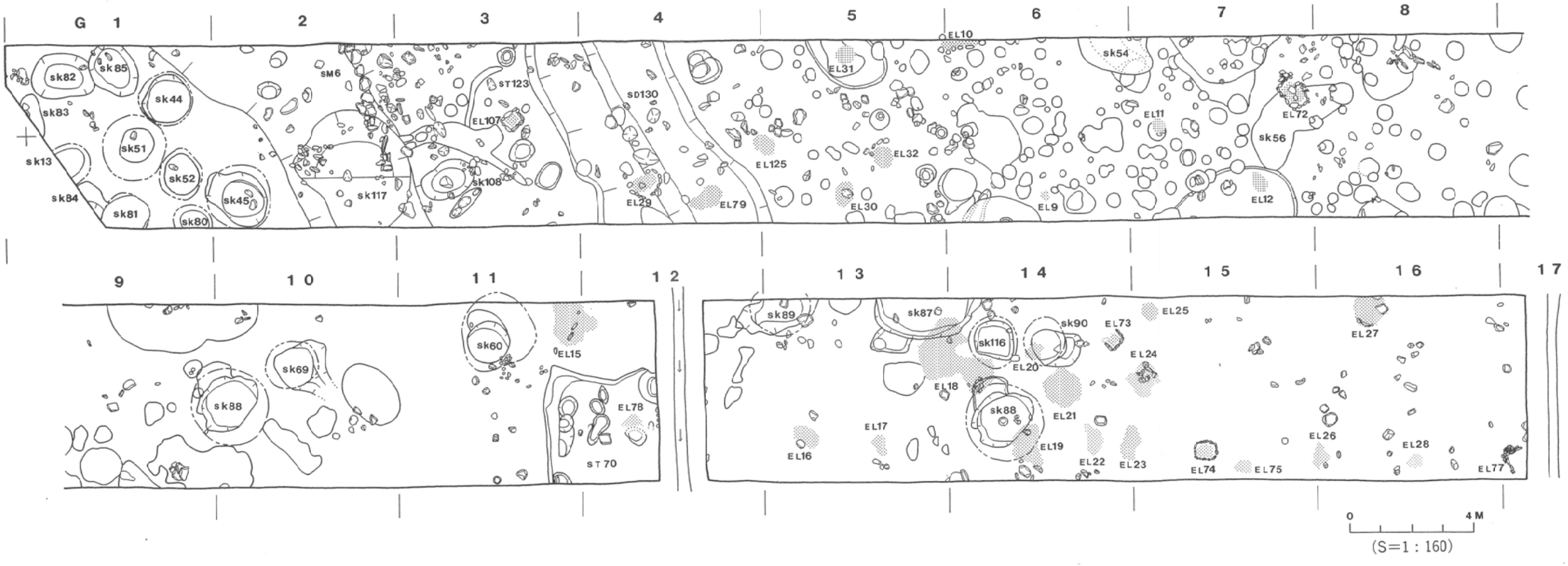
第2図　遺跡概要図

至鶴子
237.14
236.76
234.10
至六沢
236.88
237.26
県道鶴子・尾花沢線
六沢堰
236.59
233.35
232.27
41
40
234.72
234.46
233.04
233.02
232.42
232.64
232.43
A
B
5
10
15
20
25
30
35
234.70
230
234.30
234.05
233.71
233.08
233.05
232.00
231.86
231.46
231.04
230.85
225.56
225.07
224.74
232.90
282.43
232.34
231.85
231.37
230.99
224.70
224.67
223.96
0
20M
235.00

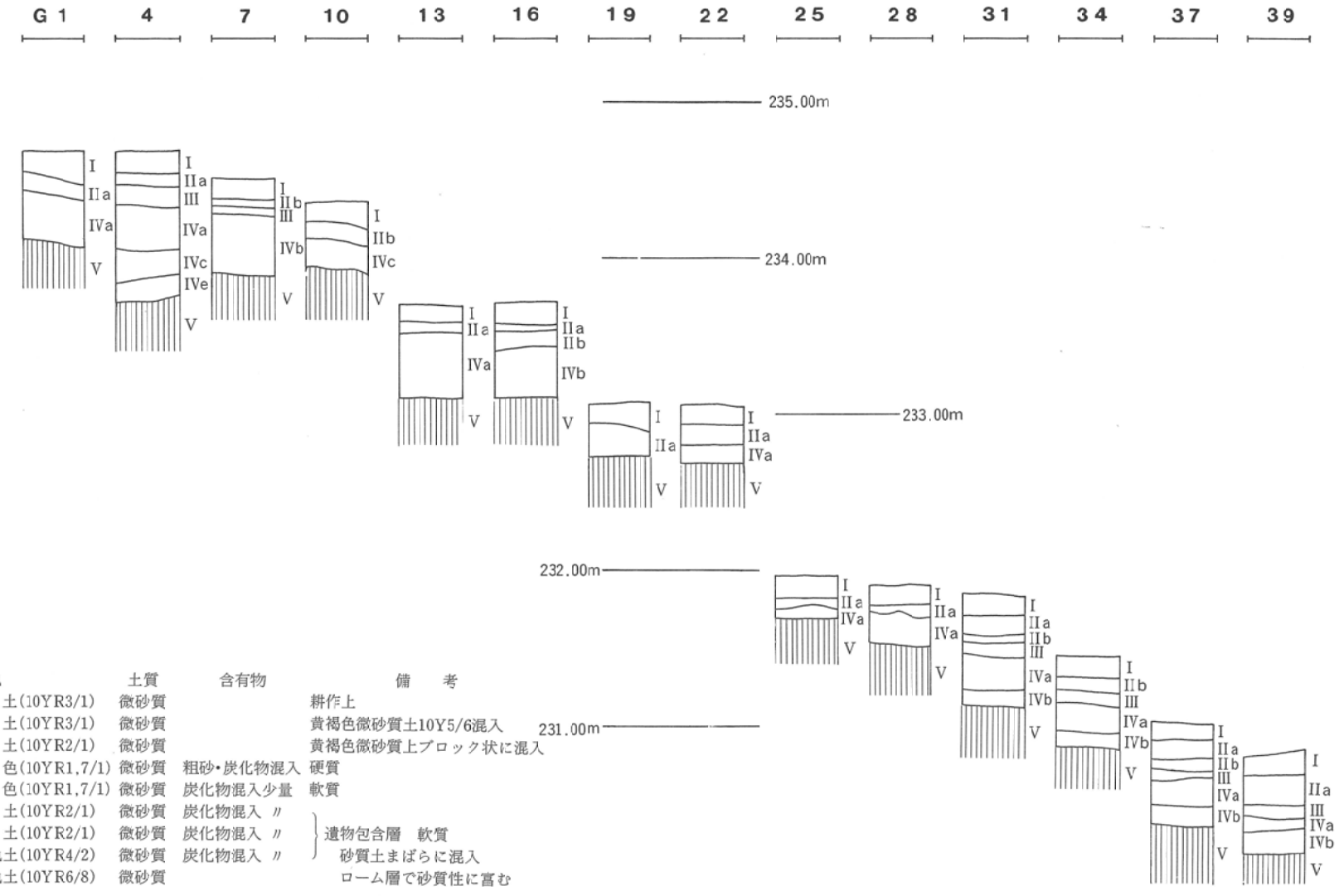
第3図　調査区概要図


sk4
sk5
sk3
41
SM132
sk2
40
SM131


至鶴子
至六沢
県道鶴子・鳥花沢線
六沢線
237.14
236.76
234.10
236.88
237.26
236.59
234.72
234.46
233.04
233.02
232.42
232.64
232.43
233.35
232.27
234.70
234.30
234.05
233.71
233.08
233.05
232.00
231.86
231.46
231.04
230.85
225.56
225.07
224.74
224.70
224.67
223.96
232.90
282.43
232.34
231.85
231.37
230.99
A
B
5
10
15
20
25
30
35
0
20M
グリッド配置図


G 1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
sk82
sk85
sk44
sk83
sk51
sk13
sk52
sk84
sk81
sk80
sk45
SM6
sk117
ST123
EL107
sk108
SD130
EL29
EL79
EL125
EL31
EL10
EL32
EL30
EL9
sk54
EL11
EL12
sk56
EL72
sk69
sk88
sk60
EL15
EL78
ST70
sk89
sk87
sk116
sk90
EL73
EL25
EL24
EL20
EL18
EL21
EL17
EL16
EL19
EL22
EL23
EL74
EL75
EL26
EL27
EL28
EL77
0
4M
(S=1：160)

第４図　遺跡全体図



層位	土色	土質	含有物	備考
I	黒褐色土(10YR3/1)	微砂質		耕作上
IIa	黒褐色土(10YR3/1)	微砂質		黄褐色微砂質土10Y5/6混入
IIb	黒褐色土(10YR2/1)	微砂質		黄褐色微砂質上ブロック状に混入
III	黒　土　色(10YR1.7/1)	微砂質	粗砂・炭化物混入	硬質
IVa	黒　土　色(10YR1.7/1)	微砂質	炭化物混入少量	軟質
IVb	黒褐色土(10YR2/1)	微砂質	炭化物混入 〃	
IVc	黒褐色土(10YR2/1)	微砂質	炭化物混入 〃	遺物包含層　軟質
IVd	灰黄褐色土(10YR4/2)	微砂質	炭化物混入 〃	砂質土まばらに混入
V	明黄褐色土(10YR6/8)	微砂質		ローム層で砂質性に富む

第5図　調査区土層柱状図

第Ⅲ章　検出遺構

1　層　　序

調査区は、過去２回の発掘調査が実施されている調査区より100～200m北東部にあたる。現況は南西側から北東側に下る階段上の水田になっており、丹生川左岸の河岸段丘縁辺部に位置する。調査区の層序はＧ１～39の西壁によって観察した。土層は南側から北側に約６度と緩やかに堆積している。第１・２次調査での土層は、Ⅰ～Ⅳ層を基本としている。今次の調査ではⅠ～Ⅷ層まで確認している。Ⅰ層（耕作土）～Ⅴ層（地山）に分けられ、Ⅵ～Ⅷ層はフラスコ状土壙の掘り込みにより確認しており、礫層である。Ⅰ～Ⅲ層までは遺構の検出はみられず、Ⅳ層及びⅤ層上面において遺構を確認した。

基本的な層序は第５図に示している。層序の観察は以下の通りである。

Ⅰ　層	黒褐色微砂質土	厚さ15～20cmでほぼ均一に堆積する耕作土である。
Ⅱ　層	黒褐色微砂質土	黄褐色微砂質土を全域にまばらに含む。
Ⅲ　層	黒色微砂質土	酸化鉄を含み硬質である。
Ⅳ　層	褐色微砂質土	厚さ30～50cmある遺物包含層。炭化粒を含む。遺構確認面。
Ⅴ　層	明黄褐色微砂質土	遺構確認面。
Ⅵ　層	礫層	小礫がおもで、しまりのある土である。
Ⅶ　層	褐色粘質土	礫層の間にあり、しまりのある土である。
Ⅷ　層	礫層	礫（径20～30cm）の河川石がおもで、褐色粘質土を含む。

2　遺　　構

検出した遺構のおもだったものは、竪穴住居跡２棟・フラスコ状土壙16基・溝跡２条・炉跡47基・（石囲い炉９基を含む）・配石遺構３基・埋設遺構（土器）５基である。

遺構は調査区南側（Ｇ１～17・40・41）に多数検出しており、北側（Ｇ18～39）では検出していない。標高233mのラインより高い地域が遺構を検出している面である。

検出した遺構には住居跡・土壙・溝跡・炉跡等があるが、今次調査で検出した遺構ではさらに、フラスコ状土壙・配石遺構を検出している。県内でフラスコ状土壙を多く検出した遺跡には、吹浦遺跡（遊佐町）があり、配石遺構の類例には小林Ｂ遺跡（東根市）・窪遺跡（山形市）・谷地遺跡（小国町）等がある。以下、検出された遺構毎に記述する。

（ａ）住居跡　ST

検出した住居跡は、調査区で遺構を検出している中でも高い地域（Ｇ３、ST123）・（Ｇ

11・12、ST70）で確認している。２棟の住居跡は重複関係や、調査区外におよぶ未調査の部分がある。ここでは、確認できた内容を記述する。

ST70住居跡　（第８図　図版６）

検出地区：G11・12。測定値：検出長、東西3.8m・南北3.75m・深さ18～23cm。遺構の確認面：Ⅴ層上面。重複関係：旧ST70→新SK100。平面形：不整方形。北側と東側は未検出で全体の約２分の１の検出である。壁：Ⅴ層を約20cm掘り込む。急な傾斜。北・東壁は未検出。柱穴：７基検出。径30～100cm・深さ25～35cm。床面：ほぼ平坦で若干堅くしまっている。炉跡：地床炉（EL28)、北側中央部に位置する。東側は削られている。登録遺物：RP105・109・111・112。出土状況、散乱。備考：床面に数個の礫を確認している。

ST123住居跡　（第7図　図版５）

検出地区：Ｇ３。推定長４～５ｍと考えられる。遺構の確認面：Ⅴ層上面。重複関係：旧ST123→新SD130。平面形：円形か楕円形と推定される。北側・東西は未検出で全体の約３分の１の検出である。壁：未検出。柱穴：5基検出。径21～60cm・深さ10～23cm。床面：平坦で若干堅くしまっている。炉跡：矩形の石囲い炉（EL107)。溝跡：Ⅴ層を掘り込む。EL107を囲むように弧を描き、東西に走っている。長さ2.5m・幅（上面）15～25cm・深さ10～15cm。

（ｂ）炉　跡　EL

炉跡は地床炉と石囲い炉の２種類を検出している。検出した石囲い炉については第９図・表１にまとめている。ここでは炉跡について記述する。

２棟の住居跡に伴って検出したのは地床炉・石囲い炉の各々１基ずつである。他の炉跡は住居跡と伴って確認していないことから屋外炉として使用していたものと推察される。

炉跡全体の検出地区はG13～15付近に密集て検出している。G13～15付近の地床炉EL18～25・Ｇ４のEL29石囲い炉・EL79地床炉等は各々フラスコ状土壙・溝跡の確認面上部Ⅳ層に多い。フラスコ状土壙が集中して検出している。Ｇ１・２・９～10付近での確認面及び上部では検出していない。確認面はⅣ層・Ⅴ層上面であり、Ⅳ層における検出が全んどである。Ⅴ層上面より検出した炉跡は、住居跡に伴って検出したEL78地床炉(ST70)・EL107石囲い炉（ST123）の２基である。

地床炉の計測値は長径30～260cm・短径30～100cmを測り、大きさは不規則である。焼土は２～５cmの厚さをもち、土質は軟質のものが多い。色調は全体的に橙色を帯びている。

石囲い炉の平面形は矩形・楕円形・不整楕円形を呈す。計測値は長径65～137cm・短径50～101cmを測る。炉床面には焼土（橙色）がみられるものと、焼土はみられないが粒子状

の炭化物を含むものがある。囲いを形成している礫はおもに、偏平な河川石（10～40cm）を使用している。礫の配置は、礫を横に縦てた状態に埋め込んだものが多い。中には部分的に礫を二重・三重に囲んでいるものがある。ただし礫は、整然としているものは少なく、不整いで検出しているものが多い。中には熱により焼けているものがある。

（c）土　壙　SK

土壙は多数検出しているがここではSK２・３について記述する。

SK２土壙　（第10図　図版６）

検出地区：G40・41。確認面：IVa層。平面形：開口部・底面、楕円形。計測値：開口部245～290cm・底面150～155cm・深さ55～65cm。壁：約45度の傾斜。緩やか。底部：鍋底状。重複関係：旧SK２→新EL８。登録遺物：№12（RP27）・№13（RP24）・№14（RP17）出土状況、横位。RP25・26・28・35・36・43出土状況、散乱。備考：RP17・24（深鉢）は、東側３層より完形で出土している。双方とも口縁部が北側を向き約45度に傾き出土している。RP17内部、口縁部付近に約10cmの礫１個を確認している。また土器内部より骨片を確認しており、埋設土器と考えられる。

SK３土壙　（第11図　図版１）

検出地区：G14。確認面：V層上面。平面形：開口部・底部、楕円形。計測値：開口部110～120cm・底面94～108cm・深さ28～37cm。壁：約80度の傾斜。ほぼ垂直。底部：平坦。重複関係：なし。登録遺物：№61。備考：SK４（フラスコ状土壙）の北東に位置する。

フラスコ状土壙については全て記述する。土壙の深さは確認面より基底部まで、壁の掘り込み状態の角度及び形態は土層断面測定位置、平面形は推定形を含む。計測値については完掘長を基本としているが、調査区外におよぶ遺構については検出長を記す。

SK116フラスコ状土壙　（第11図）

検出地区：G14。確認面：V層上面。平面形：開口部、不整円形・底面、円形。計測値：開口部104～150cm・底面159～172cm・深さ126～133cm。壁の掘り込み状態：63～65度の傾斜。フラスコ状。底部：平坦。重複関係：旧SK116→新EL18。

SK4フラスコ状土壙　（第11図　図版１）

検出地区：G41。確認面：VIII層上面。平面形：開口部、不整楕円形・底面、円形。計測値：開口部177～191cm・底面186～192cm・深さ109～123cm。壁の掘り込み状態：約70度の傾斜。フラスコ状。底部：平坦。東側に若干の起伏有り。中央に河川石（径約35cm）出土。重複関係：旧SK５→新SK４。登録遺物：№45（RP69）出土状況、横位。
№43（RP70）出土状況、倒立。

SK92フラスコ状土壙　（第11図　図版８）

検出地区：G14。確認面：V層上面。平面形：開口部、円形・底面、不整楕円形。計測値：開口部155～180cm・底面160～234cm・深さ330cm。壁の掘り込み状態：南側約80度の傾斜。南西側袋状。北西側袋状に張り出す。底部：平坦。重複関係：旧SK92→新EL22。

SK13フラスコ状土壙　（第12図　図版７）

検出地区：Ｇ１。確認面：Ⅳ層上面。平面形：開口部・底面、楕円形。計測値：開口部125cm・底面150cm・深さ128～149cm。壁の掘り込み状態：73～80度の傾斜。袋状。
底部：北側に若干の窪み有り。南側はほぼ平坦。重複関係：なし。登録遺物：RP76出土状況、倒立。

SK44フラスコ状土壙　（第12図）

検出地区：Ｇ１。確認面：V層上面。平面形：開口部・底面、円形。計測値：開口部146～168cm・底面168～177cm・深さ153cm。壁の掘り込み状態：80～83度の傾斜。袋状。底部：鍋底状。重複関係：旧SK44→新SK51。

SK51フラスコ状土壙　（第12図）

検出地区：Ｇ１。確認面：V層上面。平面形：開口部・底面、円形。計測値：開口部103～123cm・底面205～215cm・深さ143cm。壁の掘り込み状態：67～71度の傾斜。緩やか。底部：平坦。重複関係：旧SK44→新SK51。登銀録遺物：№26（RP119）出土状況、横位。

SK52フラスコ状土壙　（第12図）

検出地区：Ｇ１。確認面：V層上面。平面形：開口部・底面、円形。計測値：開口部110～150cm・底面120～168cm・深さ106cm。壁の掘り込み状態：東側は82度と垂直に近く急な傾斜。西側は79度の傾斜。底部：平坦。重複関係：なし。

SK80フラスコ状土壙　（第13図　図版７）

検出地区：Ｇ１。確認面：Ⅳ層上面。平面形：開口部・底面、円形。計測値：開口部96cm・底面127cm・深さ73cm。壁の掘り込み状態：約68度の傾斜。緩やか。底部：平坦。重複関係なし。

SK81フラスコ状土壙　（第13図）

検出地区：Ｇ１。確認面：Ⅳ層上面。平面形：開口部・底面、円形。計測値：開口部41cm・底面149cm・深さ96cm。壁の掘り込み状態：南側は約85度と垂直に近い傾斜。北側は袋状。底部：平坦。重複関係：旧SK44→新SK81。登録遺物：№5（RP126）・№7（RP125）・RP127出土状況、散乱・№6（RP123）出土状況、横位。

SK60フラスコ状土壙　（第13図）

検出地区：G11。確認面：V層上部。平面形：開口部、不整楕円形・底面、円形。計測値：開口部130～182cm・底面235～239cm・深さ185cm。壁の掘り込み状態：北西側は55度と

緩やかな傾斜。底部：南東側は平坦。北西は隆起している。重複関係なし。備考：土壙内部より骨片が出土している。

SK45フラスコ状土壙　（第13図　図版７）

検出地区：Ｇ２。確認面：Ｖ層上面。平面形：開口部、不整形楕円形・底面、楕円形。計測値：開口部146～225cm・底面204～210cm・深さ142cm。壁の掘り込み状態：65～75度の傾斜。フラスコ状。底部：平坦。重複関係：なし。登録遺物：RP101出土状況、散乱。RP121出土状況、倒立。

SK69フラスコ状土壙　（第14図　図版７）

検出地区：G10。確認面：Ｖ層上面。平面形：開口部、不整楕円形・底面、楕円形。計測値：開口部125～154cm・底面147～176cm・深さ178～182cm。壁の掘り込み状態：約77度の傾斜。袋状。底部：平坦。重複関係：なし。登録遺物：№８（RP130）・
№62（RP120）・RP116出土状況、横位。RP117出土状況、散乱。RQ118。

SK90フラスコ状土壙　（第14図　図版８）

検出地区：G14。確認面。：Ｖ層上面。平面形：開口部、不整楕円形・底面、円形。計測値：開口部119～161cm・底面136～163cm・深さ138～140cm。壁の掘り込み状態：78～86度の傾斜。フラスコ状。底部：平坦。重複関係：旧SK90→新EL20。登録遺物：№17(RP132)出土状況、横位。

SK88フラスコ状土壙　（第14図　図版８）

検出地区：Ｇ４。確認面：Ｖ層上面。平面形：開口部、不整楕円形・底面、円形。計測値：開口部200～218cm・底面245～255cm・深さ167～176cm。壁の掘り込み状態：62～75度の傾斜。フラスコ状。底部：平坦。中央南側に径30cm・深さ13cmの掘り込み有り。重複関係：旧SK88→新EL19。登録遺物：RP31出土状況、横位。RP133・134出土状況、散乱。備考：11～13層及び底部より径25～45cmの礫が出土。

SK87フラスコ状土壙　（第15図　図版８）

検出地区：G13。確認面：Ⅶ層上面。平面形：開口部・底面、不整楕円形。計測値：開口部348cm・底面165～284cm・深さ214cm。壁の掘り込み状態：78～86度の傾斜。袋状。重複関係なし。備考：11～13層に焼土がブロック状に混入する。

SK89フラスコ状土壙　（第15図　図版８）

検出地区：Ｇ３。確認面：Ｖ層上面。平面形：開口部、不整楕円形・底面、楕円形。計測値：開口部147cm・底面200cm・深さ124～127cm。壁の掘り込み状態：64～67度の傾斜。フラスコ状。重複関係：なし。登録遺物：RP129出土状況、散乱。

（ｄ）溝状遺構　SD

SD130溝跡　（第７図）

検出地区：Ｇ３・４。確認面：Ⅳｂ層上面。検出状況：南西から南西側から北東方向に走っている。東壁側において若干の蛇行をみる。底面状況：西壁の断面から、南・北側の掘り込みは約50度の傾斜をもつ。計測値：検出長、長さ6.5m・幅（上面）4.2～4.5m・（下面）3.5～4.2m・深さ70～80cm。方向：N－63°－E。重複関係：旧EL29＝EL79→ST123・EL107→新SD130。備考：最下層（ⅦＣ層）から40～85cmの河川石が数個出土。内１個は四角形の棒状を呈し、立った状態で出土している。

（ｅ）配石遺構　SM

SM６配石遺構　（第５図　図版５）

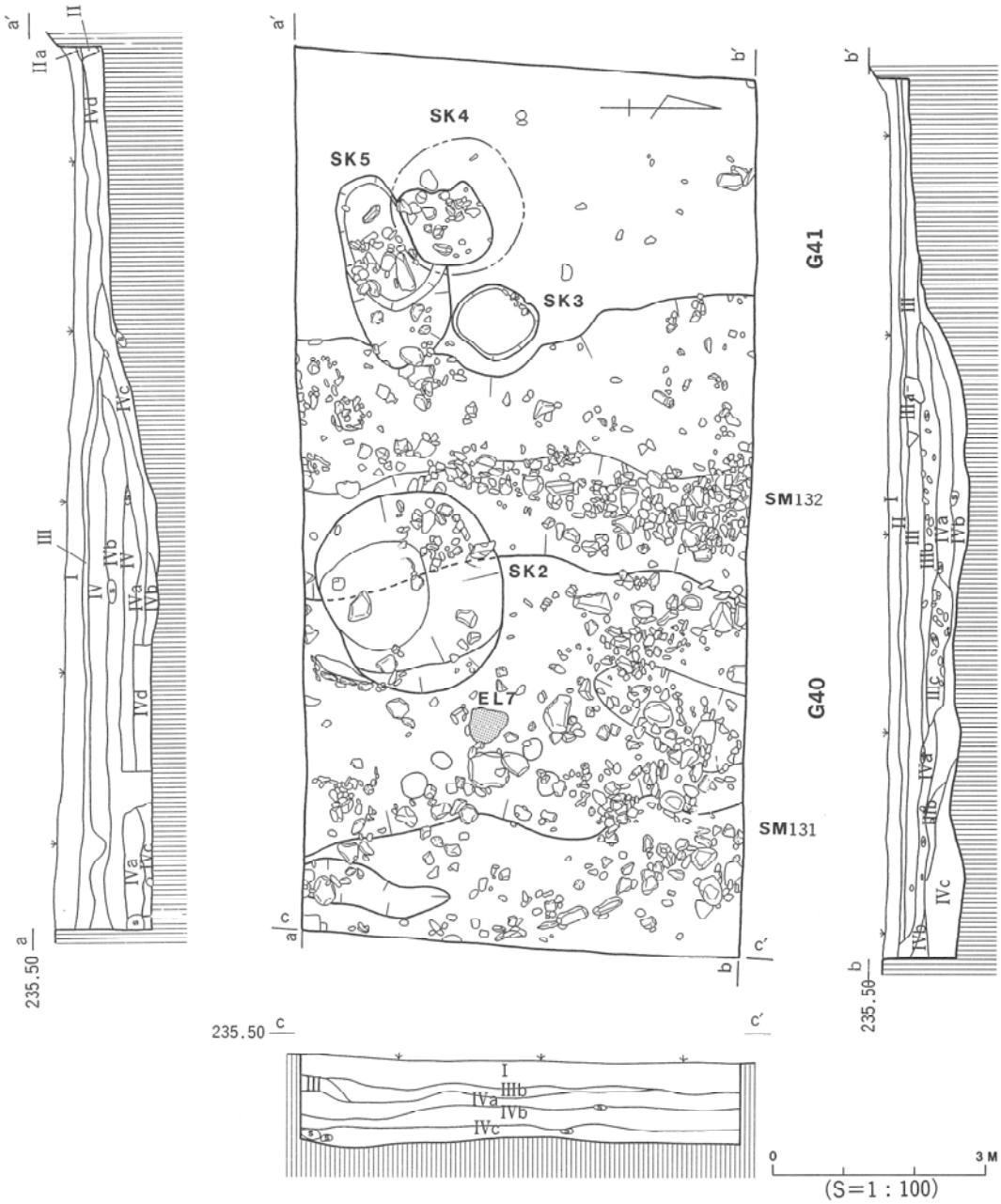
検出地区はＧ２・３、Ⅳb層で確認している。平面的は西壁（Ｇ２）から東壁（Ｇ３）にかけて直線的な配石である。西側は大礫（30～40cm）をおもに並べ、おおむね規則正しく配置されている。東側は大礫が数個あり、周辺に礫がまばらになって確認されている。礫の最上部は西側が東側より約10cm程低い。礫は偏平な河川石を横に並べて配置している。計測値：検出長、長軸6.4m・幅0.8～1.5m・深さ（礫の最上部から基底部まで、以下同じ）19～25cmを測る。方向：N－70°－E。備考：配石は東側と西側に延びているものと推定される。

SM131配石遺構　（第５図　図版５）

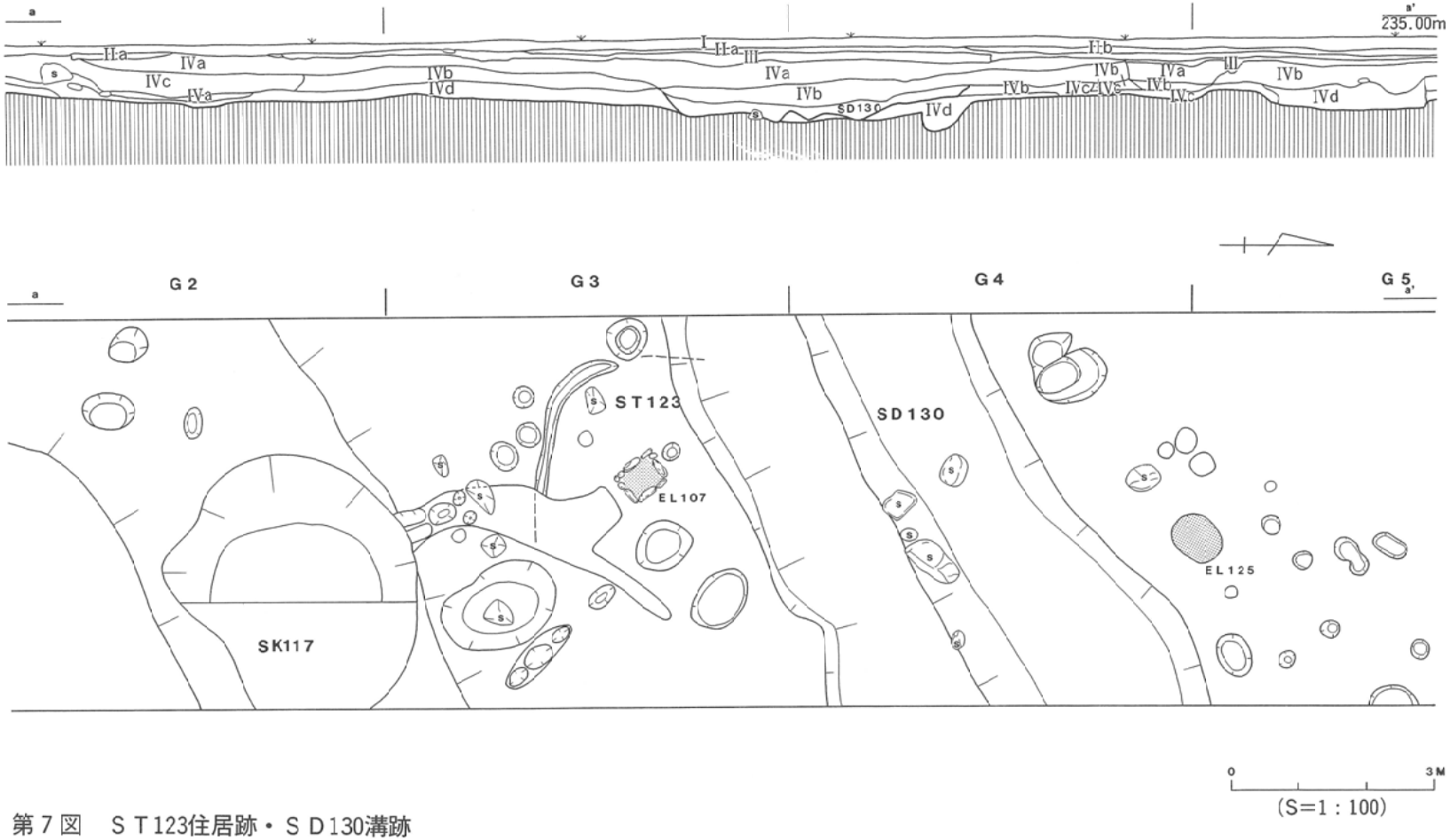
検出地区はＧ40、ⅣC層で確認している。平面形はＧ40東壁中程から北壁にかけて、北の方向に若干弧を描いている。礫は河川石（30～47cm）の長軸を東西方向に並べ、礫を横に立てて配置している。計測値：検出長：長軸4.5cm・幅20～100cm・深さ20～30cmを測る。方向：N－25°－W。

SM132配石遺構　（第５図　図版５）

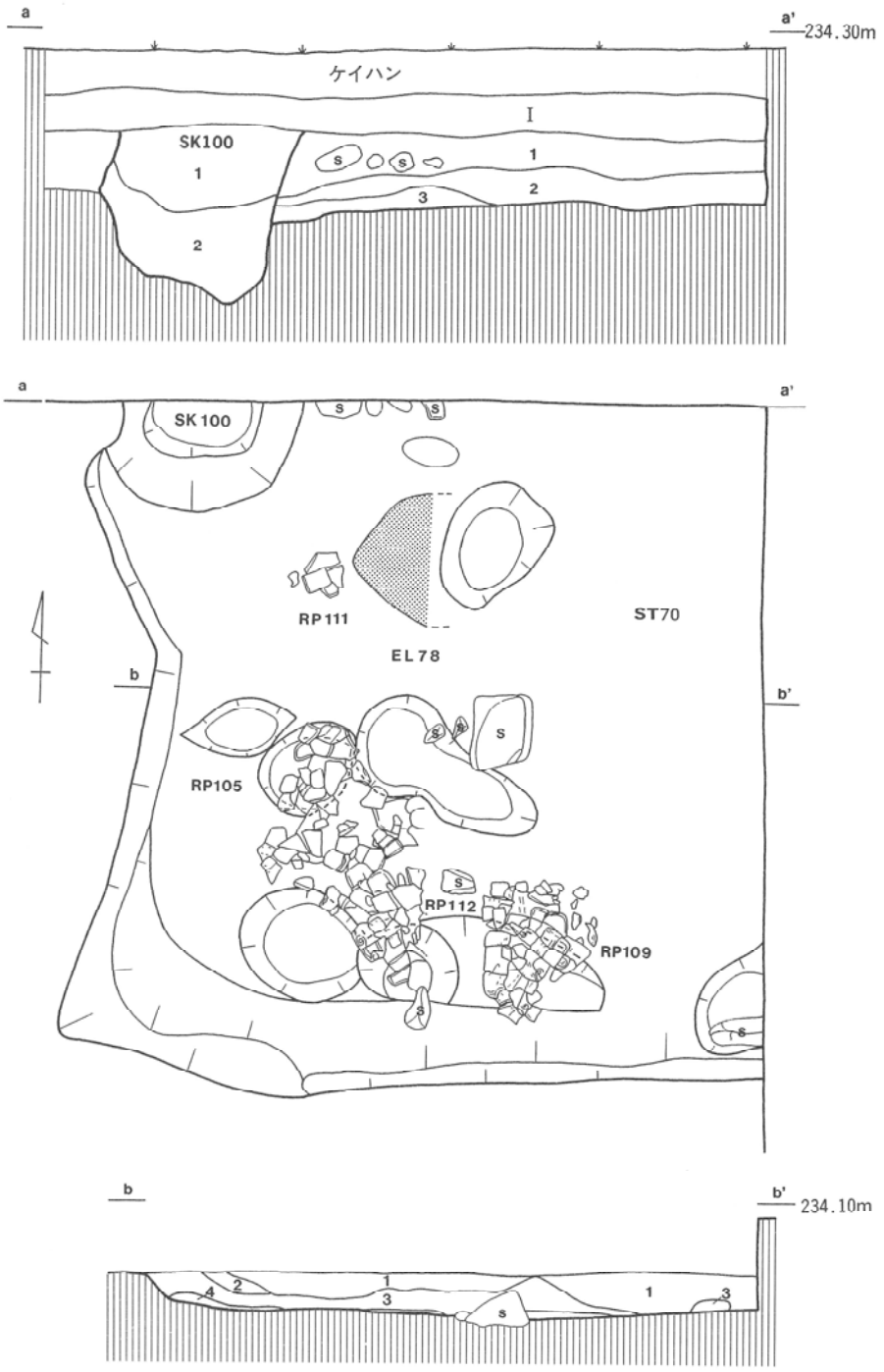
検出地区はＧ40・41、Ⅳａ層で確認している。平面形はＧ40南壁からＧ40・41の北壁にかけての東方向に弧を描いている。礫は河川石（30～40cm）を約50cm前後の間隔に並べ、付近に小礫を多く配置している。特に小礫は北側に多くみられ、配石の幅が広い。配石の最上部は北側が南側より若干底い。計測値：検出長、長軸6.2m・幅70～120cm・深さ22～29cmを測る。方向：N－９°－E



第６図　Ｇ40･41　遺構図

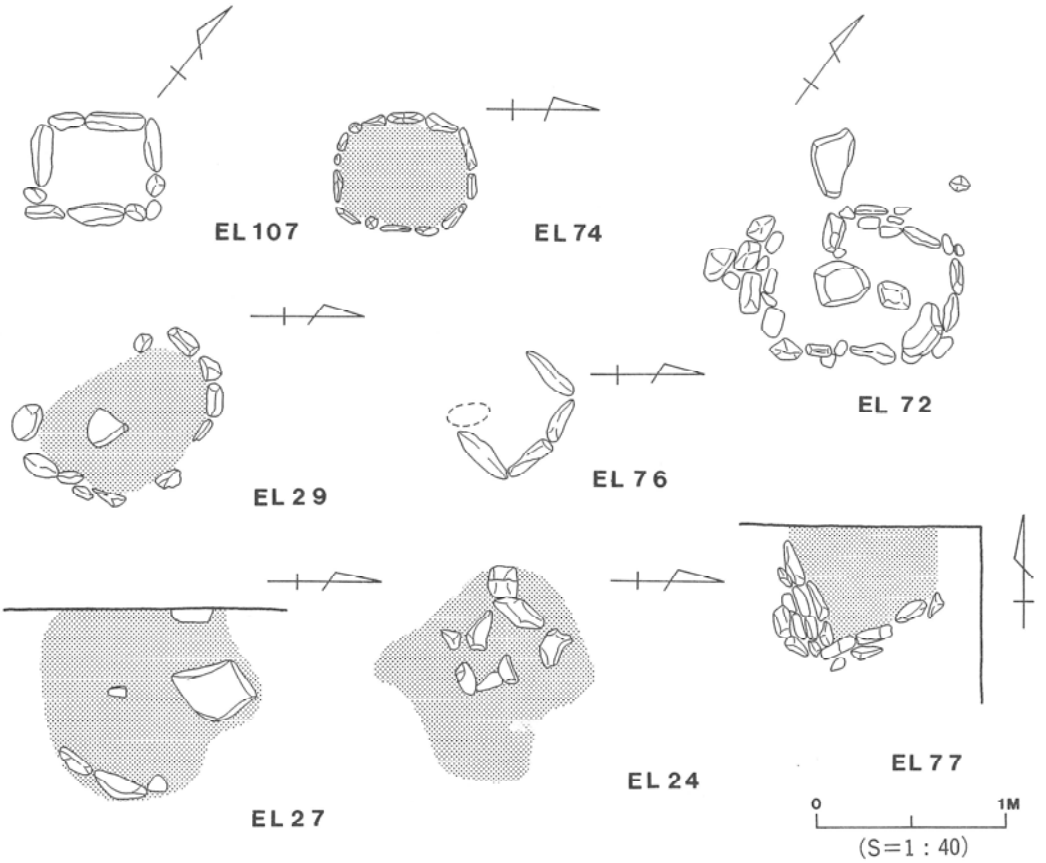


第７図　ＳＴ123住居跡・ＳＤ130溝跡



第８図　ＳＴ70住居跡・ＳＫ100土壙

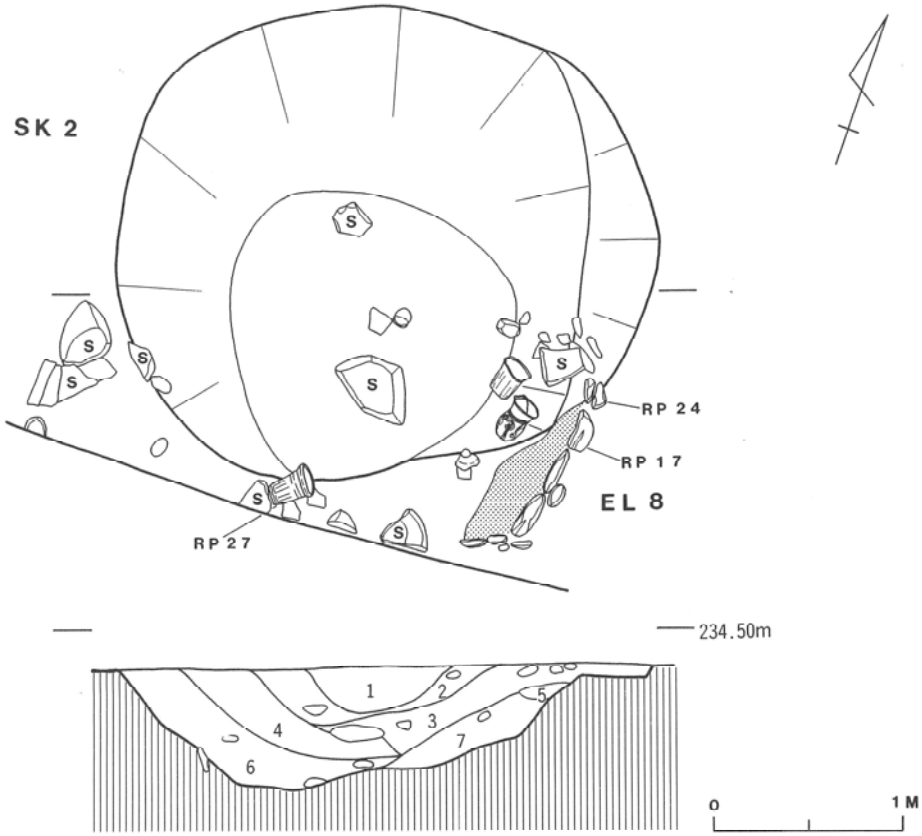
0　2M
(S＝1：40)



第9図　石囲い炉

表1　石囲い炉（EL）観察表

No.	検出地点	確認面	平面形	焼土状況	石組状況	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	方向(長軸)	備考
EL 8	40	IVa層上	楕円形	有	丸・偏平な礫(6～27cm)を縦てに埋めている。	115	36	11～14	(N－20°－E)	EL 7をSK 2が切っている。
EL24	14・15	V　層	不整楕円形	有	礫(13～30cm)は8個現存しているが、原形をとどめていない。	105	100	9～13	(N－83°－W)	EL19～23・25(地床炉)・76(石組炉)に隣接する
EL27	16	III層上	不整楕円形	有	礫(10～46cm)は6個現存し、石組の原形をとどめているのは3ヶのみである。	117	101	11～18	(N－89°－W)	EL26・28(地床炉)に隣接する。
EL29	4	IV　層	楕円形	有	礫(11～26cm)は、主に楕円形の平偏な石を縦てに埋めている。	113	80	5～7	(N－36°－W)	SD130覆土層にある。
EL72	7	IVa層上	楕円形	無	主に楕円形の大小(7～46cm)さまざまな石を縦てに埋めている。礫の表面は焼けただれている。	137	87	5～14	(N－59°－E)	EL12(地床炉)に隣接する 炉床面は炭化物を多く含む。

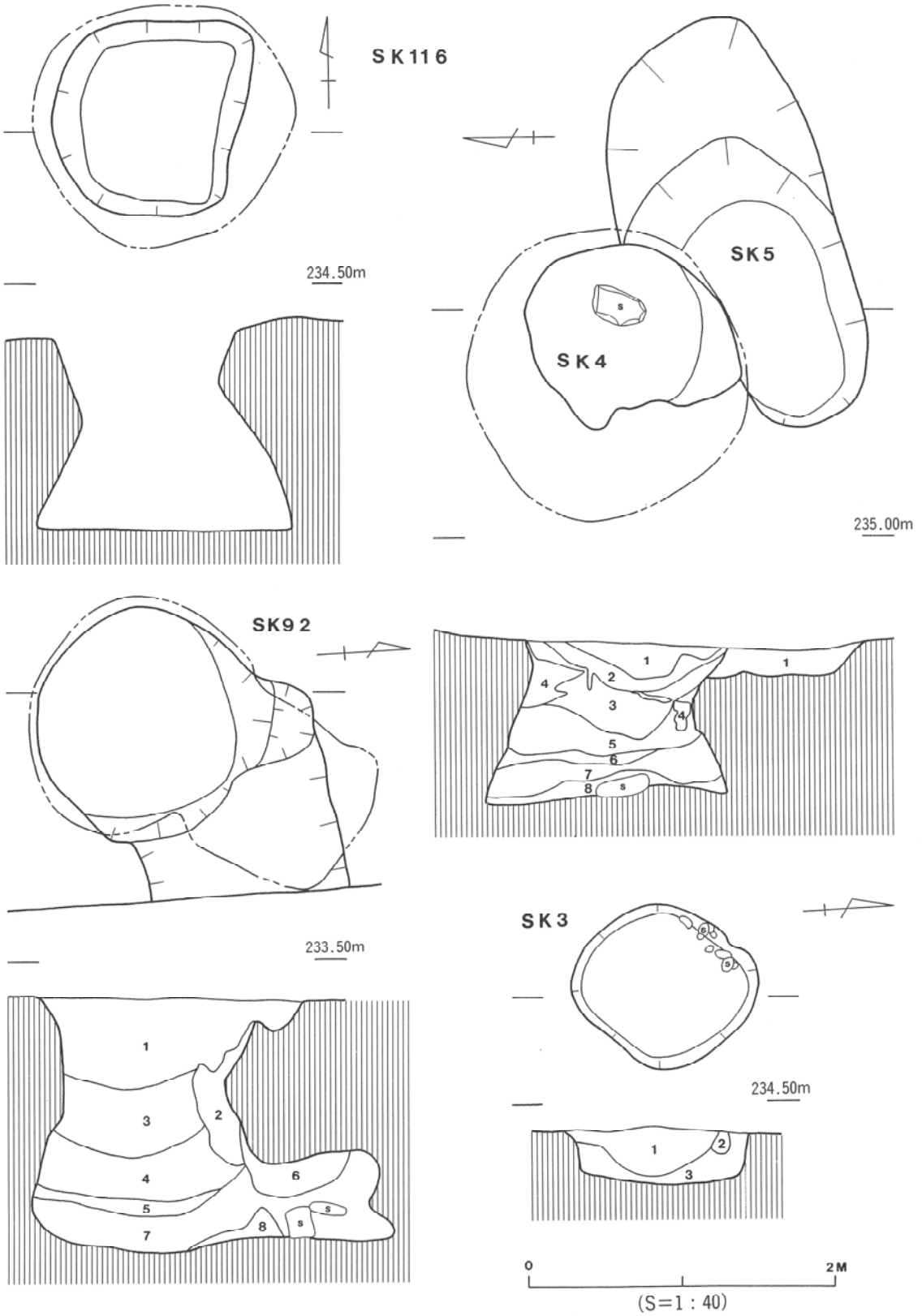


(S=1：40)

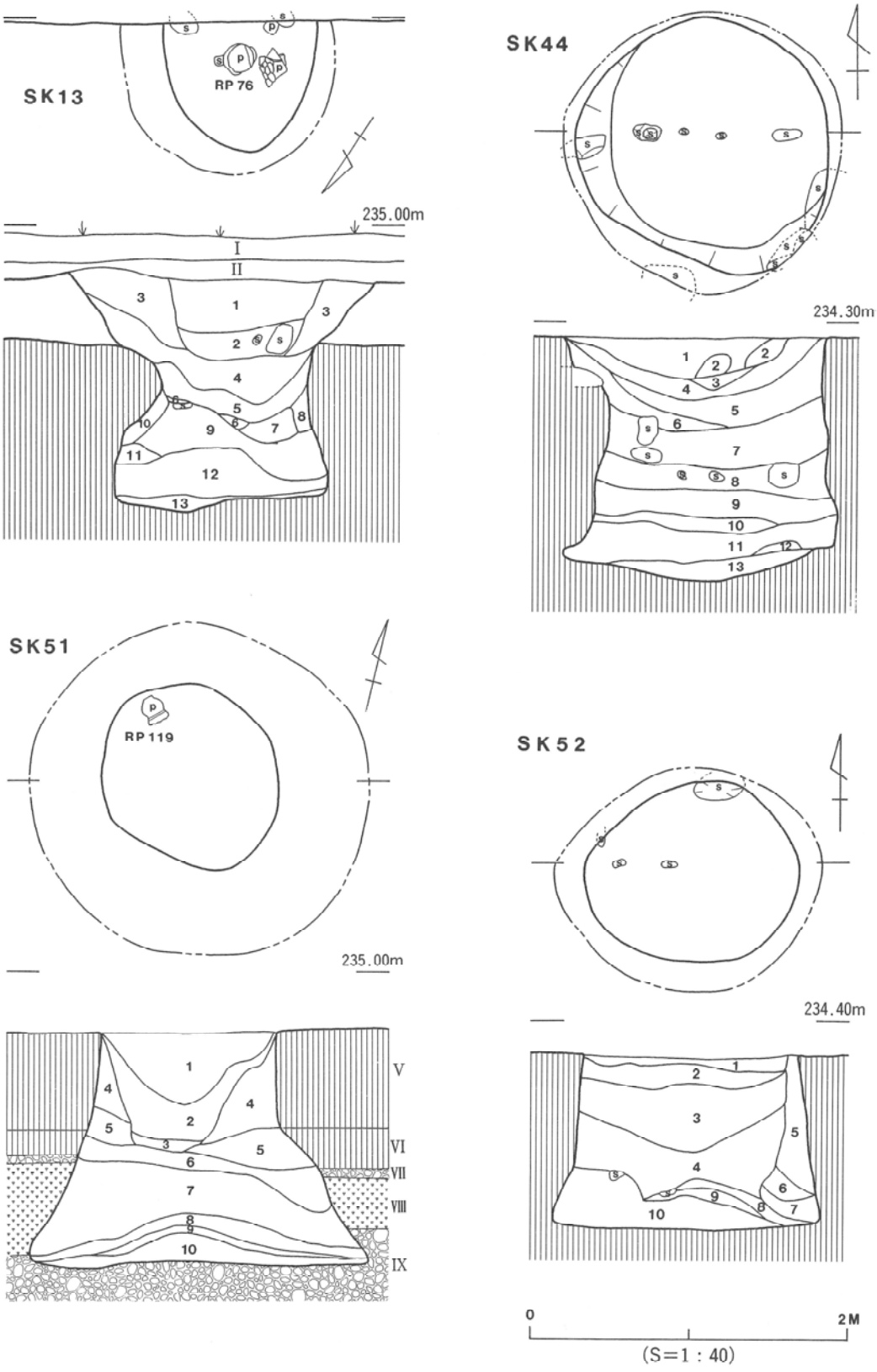
第10図　ＳＫ２土壙・ＥＬ８石囲い炉

表２　石囲い炉（EL）観察表

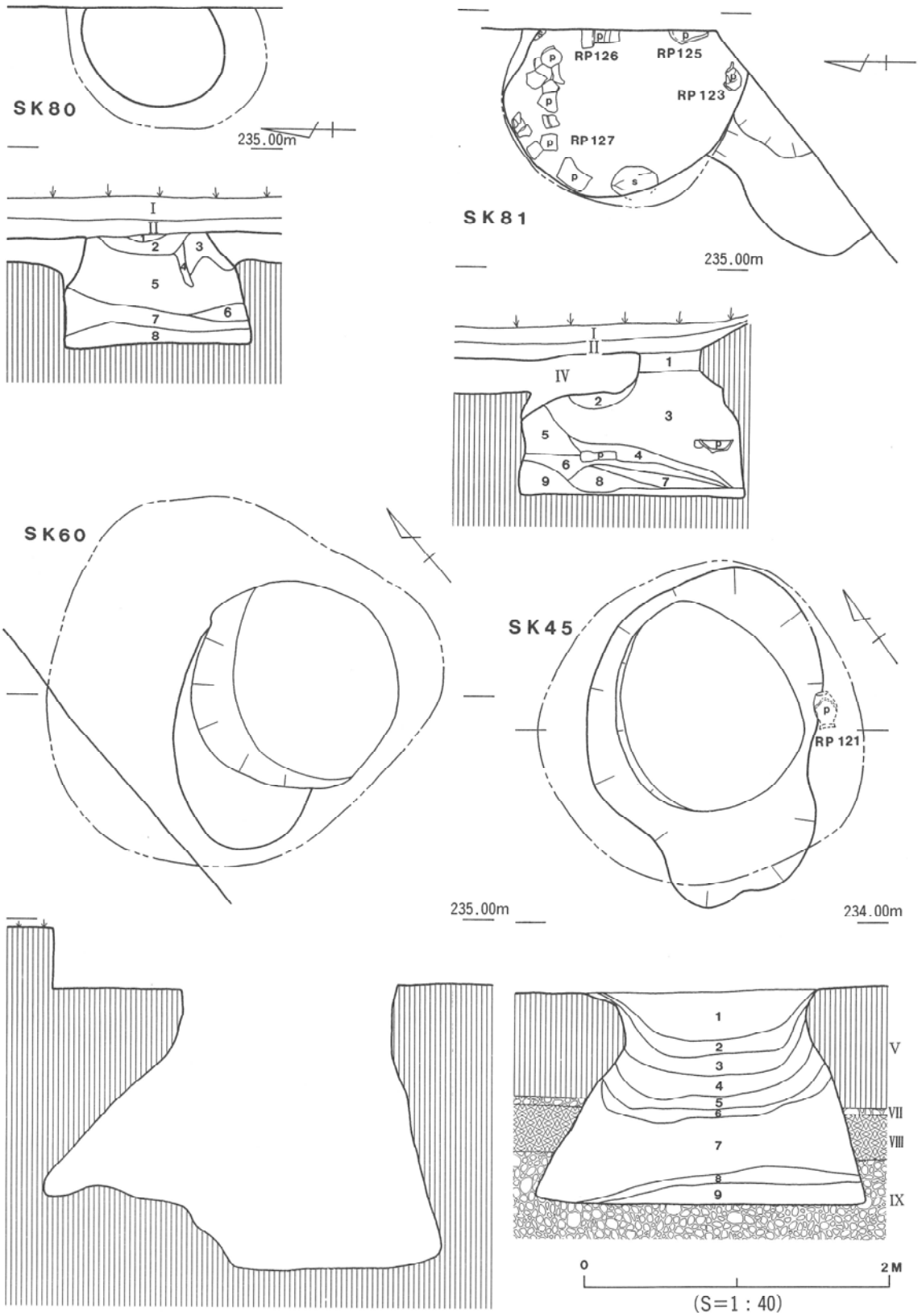
No.	検出地点	確認面	平面形	焼土状況	石組状況	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	方向(長軸)	備考
EL74	15	V層上	楕円形	有	丸・楕円形の偏平な16個の礫（５～22cm）を縦てに埋めている。	76	64	16～23	(N－２°－E)	EL23・75(地床炉)・24(石組炉)に隣接する。
EL76	14	V層上	矩　形	無	楕円形で偏平な礫(25～35cm) 4個を縦てに埋めている。	65	50	9～11	(N－40°－W)	石組の南側に石抜き痕（１基)が確認されている。EL73(石組炉)に隣接する。
EL77	17	V層上	矩　形	有	主に楕円形の礫を縦てに埋めている。西側は三重ないし四重に礫が組まれている。	100	82	8～12	(N－59°－E)	北・東側は調査域外にあたる。
EL107	3	V層上	矩　形	無	楕円形の偏平な礫(10～33cm)を区画よく配置し縦てに埋めている。石の表面は勝けただれている。	75	60	7	(N－51°－E)	ST123(住居跡)内に検出する。



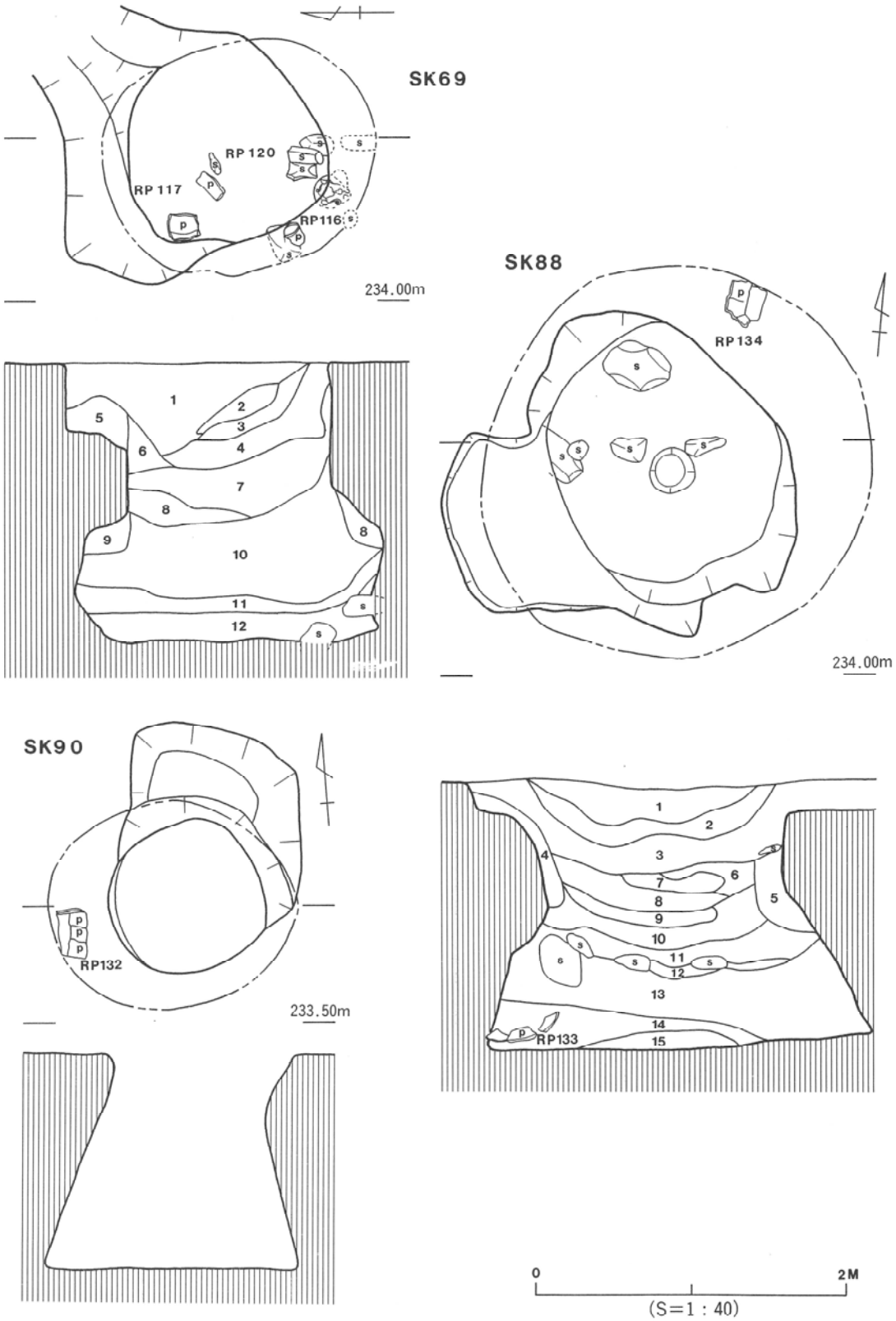
第11図　ＳＫ116・92・4フラスコ状土壙　ＳＫ3・5土壙



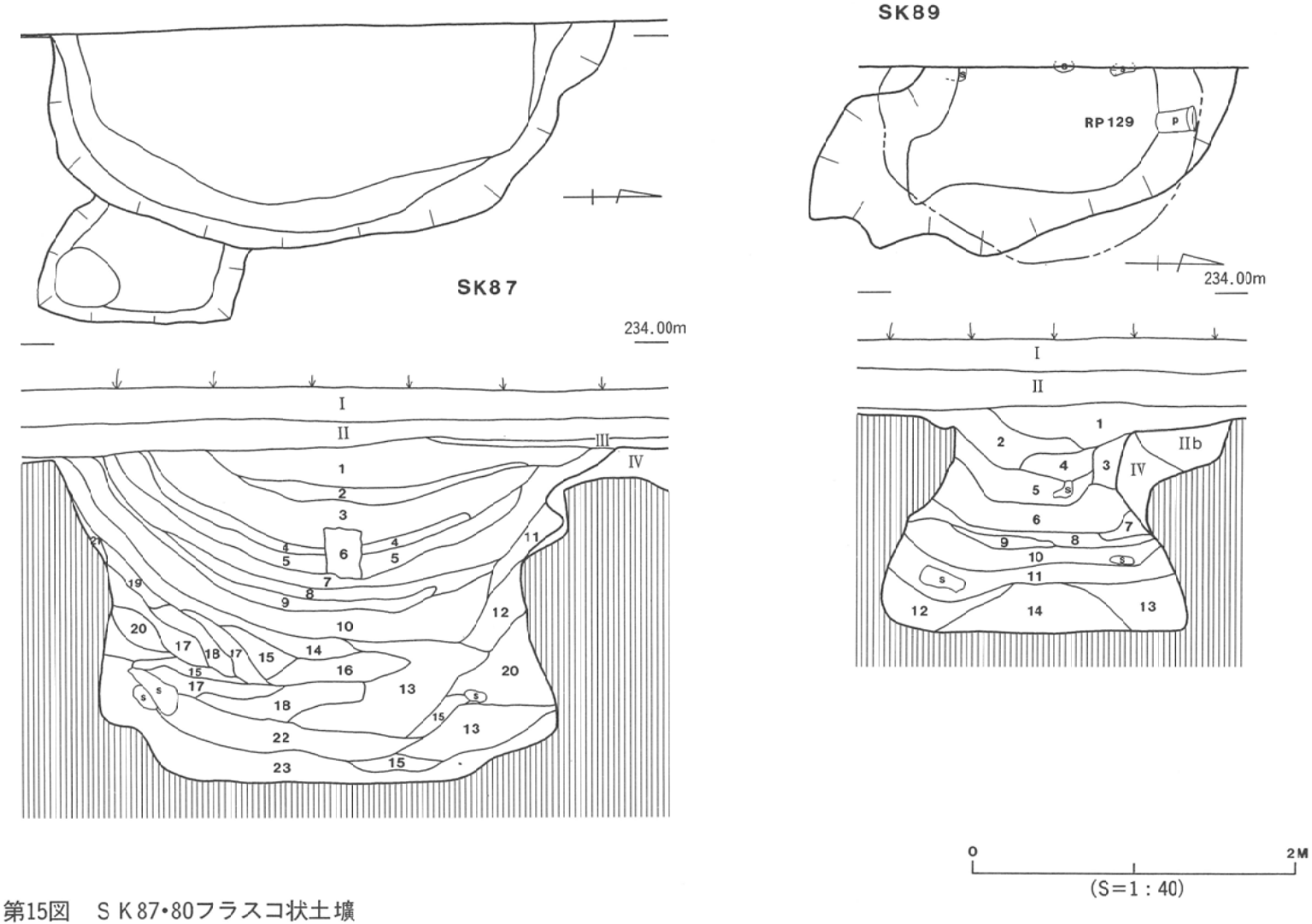
第12図　ＳＫ13･44･51･52フラスコ状土壙



第13図　ＳＫ80・45・60・81フラスコ状土壙



第14図　ＳＫ69･88･90フラスコ状土壙



第15図　ＳＫ87･80フラスコ状土壙

表３　遺構土層観察表（１）

SK２土壙　第10図

層　位	土　　色	土　質	含　有　物	備　　考
1	オリーブ褐色（2.5Y　4/6）	微　砂　質	炭化物大量	オリーブ黒色微砂質土（5YR2/2）が混入
2	オリーブ黒色（5Y　2/2）	微　砂　質		
3	黒　　色（5Y　2/1）	微　砂　質		
4	黄　褐　色（10YR5/6）	砂　　質		軟　質
5	明　黄　褐　色（10YR6/8）	粘　　質		
6	オリーブ黒色（5Y　3/1）	微　砂　質		
7	黒　褐　色（10YR2/2）	微　砂　質		PR17・25出土

SK３土壙　第11図

層　位	土　　色	土　質	含　有　物	備　　考
1	黒　褐　色　土（2.5Y3/1）	微　砂　質	炭化物混入少量	
2	明黄褐色土（10YR6/6）	砂　　質		軟　質
3	黒　褐　色　土（2.5Y3/2）	微　砂　質	炭化物混入多量	

SK４フラスコ土壙　第11図

層　位	土　　色	土　質	含　有　物	備　　考
1	黒　　色（2.5Y2/1）	微　砂　質	炭化物多量	硬　質
2	黒　褐　色（10YR2/2）	微　砂　質	炭化物若干	硬　質
3	黒　褐　色（10YR2/3）	微　砂　質	炭化物若干	
4	明　黄　褐　色（2.5Y6/8）	砂　　質		軟　質
5	暗　褐　色（10YR3/3）	微　砂　質		軟　質
6	暗　褐　色（10YR3/4）	微　砂　質		軟　質
7	黒　褐　色（10YR3/2）	微　砂　質		軟　質
8	黒　　色（10YR1.7/1）	微　砂　質	炭化物多量	軟　質

SK５土壙　第11図

層　位	土　　色	土　質	含　有　物	備　　考
1	黒　褐　色（10YR1.7/1）	微　砂　質	炭化物若干	

SK13フラスコ状土壙　第12図

層　位	土　　色	土　質	含　有　物	備　　考
1	黒　褐　色（10YR2/2）	微　砂　質		軟　質
2	黒　褐　色（10YR3/1）	微　砂　質	炭化物・小礫多量	
3	褐　　色（10YR4/4）	微　砂　質		
4	褐　　色（10YR4/6）	微　砂　質	炭化物少量	
5	黒　褐　色（10YR3/2）	微　砂　質	炭化物少量	
6	黄　褐　色（10YR5/8）	粘　　質		
7	黒　褐　色（10YR2/3）	微　砂　質	炭化物少量	
8	にぶい黄褐色（10YR5/4）	微　砂　質		
9	黄　褐　色（10YR5/6）	砂　　質		軟　質
10	にぶい黄褐色（10YR4/3）	粘　　質	炭化物少量	
11	黒　褐　色（10YR3/1）	微　砂　質	炭化物若干	
12	暗　褐　色（10YR3/4）	微　砂　質	炭化物若干	
13	黒　褐　色（10YR2/3）	微　砂　質	炭化物若干	軟　質

表4　遺構土層観察表(2)

SK44フラスコ状土壙　第12図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	黒褐色 (10YR2/3)	微砂質		
2	黄褐色 (10YR5/8)	粘質		
3	黒褐色 (10YR2/2)	微砂質	焼土少量	
4	褐色 (10YR4/4)	微砂質		
5	暗褐色 (10YR3/3)	微砂質	炭化物少量	
6	黒褐色 (10YR2/2)	微砂質		
7	黄褐色 (10YR5/6)	微砂質		
8	暗褐色 (10YR4/3)	微砂質	炭化物・小礫若干	
9	黄褐色 (10YR5/8)	微砂質		
10	褐色 (10YR4/6)	粘質		
11	黄褐色 (10YR5/6)	微砂質		
12	黒褐色 (10YR2/2)	微砂質		
13	黒褐色 (10YR2/1)	微砂質	炭化物多量	

SK45フラスコ状土壙　第13図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3)	微砂質		
2	暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3)	微砂質		黄褐色微砂質土(2.5YR5/6)が混入
3	黄褐色 (2.5YR5/6)	微砂質		
4	黒褐色 (2.5YR3/2)	微砂質		
5	黄褐色 (2.5YR3/3)	微砂質		黒褐色微砂質土(2.5YR3/2)が混入
6	黒褐色 (2.5YR3/1)	微砂質		
7	褐色 (7.5YR4/6)	微砂質		
8	黒褐色 (7.5YR3/2)	微砂質		
9	褐色 (7.5YR4/4)	微砂質		

SK51フラスコ状土壙　第12図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	黒褐色 (2.5Y3/2)	微砂質		
2	黒褐色 (2.5Y3/1)	微砂質	炭化物若干	
3	黄褐色 (2.5Y5/6)	粘質		
4	オリーブ褐色 (2.5Y4/6)	微砂質		
5	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	微砂質		
6	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	微砂質		
7	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	微砂質		
8	褐色 (10YR4/4)	粗砂・粘質	炭化物若干	
9	黒褐色 (10YR3/2)	粗砂質	炭化物多量	炭化物がブロック状に入る
10	黄褐色 (10YR5/8)	粘質		粗砂とシルトの混入 一部灰状シルト含む

表5　遺構土層観察表（3）

SK52フラスコ状土壙　第12図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	暗褐色（10YR3/2）	微砂質		
2	褐色（10YR4/6）	砂質		
3	褐色（10YR4/4）	砂質		軟質
4	明黄褐色（10YR6/6）	砂質		黄褐色粘質土(10YR5/6)がまばらに混入
5	にぶい黄褐色（10YR4/3）	砂質		
6	黄褐色（10YR5/6）	粘質		
7	暗褐色（10YR3/4）	砂質		
8	黒褐色（10YR2/3）	砂質	炭化物多量	
9	暗褐色（10YR3/3）	砂質		
10	オリーブ色（5Y　5/4）	砂質		

SK69フラスコ状土壙　第14図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	暗褐色（10YR3/4）	微砂質		
2	黄褐色（10YR5/6）	微砂質		
3	暗褐色（10YR3/3）	微砂質	炭化物少量	
4	黒褐色（10YR3/2）	微砂質		硬質
5	明黄褐色（10YR6/6）	砂質		
6	褐色（10YR4/6）	砂質		軟質
7	黒褐色（10YR3/2）	微砂質		軟質
8	オリーブ色（5Y　5/4）	砂質		
9	黒褐色（10YR2/3）	砂質		
10	暗褐色（10YR3/2）	微砂質		
11	黒褐色（10YR2/1）	微砂質	炭化物多量	
12	黒褐色（10YR3/2）	微砂質		粘質土が少量混入

SK80フラスコ状土壙　第13図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	暗褐色（10YR3/3）	微砂質		黄褐色粘質土(10YR5/3)がブロックに混入
2	暗褐色（10YR3/3）	微砂質	炭化物若干	
3	褐色（10YR4/6）	微砂質	炭化物若干	
4	暗褐色（10YR3/4）	微砂質	炭化物若干	
5	黄褐色（10YR5/6）	微砂質	炭化物若干・小礫少量	硬質
6	にぶい黄褐色（10YR5/4）	微砂質		黄褐色粘質土(10YR5/8)がブロック状に混入
7	黒褐色（10YR2/2）	微砂質	炭化物多量	
8	黒褐色（10YR3/2）	微砂質	炭化物少量	

表6　遺構土層観察表（4）

SK81フラスコ状土壙　第13図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	褐色（10YR4/6）	微砂質		硬質
2	黄褐色（10YR5/8）	砂質		暗褐色微砂質土（10YR3/4）が混入
3	暗褐色（10YR3/4）	微砂質	炭化物少量・小礫多量	
4	褐色（10YR4/4）	微砂質	炭化物少量	軟質
5	黄褐色（10YR5/6）	砂質	焼土少量	
6	黄褐色（10YR5/8）	砂質		
7	暗褐色（10YR3/3）	微砂質	炭化物少量	
8	暗オリーブ褐色（5Y　4/3）	砂質		
9	黒褐色（10YR2/1）	微砂質	炭化物多量	

SK87フラスコ状土壙　第15図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）	微砂質		
2	オリーブ褐色（2.5Y4/4）	微砂質		
3	オリーブ黒色（2.5Y3/2）	微砂質		
4	オリーブ黒色（5Y　3/2）	微砂質		
5	暗褐色（2.5Y3/4）	微砂質		
6	オリーブ色（10YR2/2）	微砂質		
7	黒色（10YR2/1）	微砂質	炭化物多量	
8	黒褐色（10YR3/2）	微砂質		
9	暗褐色（10YR3/4）	微砂質		
10	暗オリーブ黒色（2.5Y3/3）	微砂質		
11	オリーブ褐色（2.5Y4/4）	微砂質		
12	オリーブ褐色（2.5Y4/3）	微砂質		
13	黒褐色（10YR2/3）	微砂質		黄褐色砂質土（10YR5/6）と明黄褐色微砂質（10YR6/6）が混入
14	黒褐色（10YR2/3）	微砂質		
15	黄褐色（10YR5/6）	砂質		
16	黒褐色（10YR2/3）	微砂質		黄褐色砂質土（10YR5/6）が混入
17	黒褐色（10YR2/2）	微砂質		
18	明黄褐色（10YR6/6）	粘質		
19	褐色（10YR4/6）	微砂質		
20	オリーブ褐色（2.5Y4/4）	微砂質		
21	黒褐色（10YR2/2）	微砂質		黄褐色砂質土（10YR2/3）が混入
22	オリーブ黒色（5Y3/1）	微砂質		
23	暗オリーブ色（5Y4/3）	砂質		

SK89フラスコ状土壙　第15図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	オリーブ褐色（2.5Y4/4）	微砂質		
2	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）	微砂質	炭化物少量	
3	オリーブ褐色（2.5Y4/6）	微砂質		黄褐色粘質土（10YR5/8）がブロック状に混入
4	黒褐色（2.5Y3/2）	微砂質		
5	暗灰黄色（2.5Y4/2）	微砂質		
6	黒褐色（2.5Y3/2）	微砂質	炭化物多量	炭化物横にライン状に入る
7	黒褐色（2.5Y3/2）	微砂質		黄褐色粘質土（2.5Y5/4）が混入
8	黒色（2.5Y2/1）	微砂質	炭化物多量	
9	黄褐色（2.5Y5/4）	粘質		
10	暗褐色（10YR3/4）	微砂質		
11	黒褐色（10YR2/2）	微砂質	炭化物多量	
12	黒褐色（10YR3/2）	微砂質		
13	黒褐色（10YR3/3）	微砂質		
14	黒褐色（10YR2/3）	微砂質		

表7　遺構土層観察表(5)

SK88フラスコ状土壙　第14図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	褐色 (10YR4/4)	微砂質		
2	暗褐色 (10YR3/4)	微砂質		
3	暗褐色 (10YR3/3)	微砂質		
4	黄褐色 (2.5Y5/4)	砂質		
5	明黄褐色 (2.5Y6/6)	砂質		
6	黄褐色 (10YR5/6)	微砂質		
7	黒褐色 (10YR3/1)	微砂質	炭化物多量	
8	黒褐色 (10YR3/2)	微砂質		
9	黒褐色 (10YR2/3)	微砂質	炭化物多量	
10	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	微砂質		
11	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	微砂質		オリーブ褐色粘質土(2.5Y4/6)がブロック状に混入
12	黒褐色 (10YR2/1)	微砂質		
13	黒褐色 (10YR2/2)	微砂質		オリーブ褐色粘質土(2.5Y4/6)が混入
14	黒褐色 (2.5Y3/2)	微砂質	炭化物少量	
15	オリーブ褐色 (2.5Y4/6)	微砂質		

SK92フラスコ状土壙　第11図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	褐色 (10YR4/4)	微砂質		
2	黄褐色 (2.5Y5/4)	砂質		軟質
3	暗褐色 (10YR3/4)	微砂質		
4	暗褐色 (10YR3/3)	微砂質		
5	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	微砂質		
6	明黄褐色 (10YR3/3)	微砂質		軟質
7	黒褐色 (10YR2/2)	微砂質	炭化物少量	
8	オリーブ褐色 (2.5Y4/6)	微砂質		

ST70住居跡　第8図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	微砂質		
2	暗褐色 (10YR3/4)	微砂質		
3	黒色 (10YR2/1)	微砂質	炭化物多量	
4	黄褐色 (10YR5/6)	微砂質		

SK100土壙(ST70内)　第8図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	微砂質		
2	暗褐色 (10YR3/4)	微砂質		

SD130溝跡　第8図

層位	土色	土質	含有物	備考
1	黒褐色 (10YR2/1)	砂質土	微砂質土	黄褐色砂質土(10YR5/8)が50%混入

第Ⅳ章　出土遺物

1　土　器　（第16～38図）

土器は整理箱にして390箱ある。遺構内出土のものより、包含層出土の割合が多い。遺構からは一個体となりうる土器が多く出土している。器種には深鉢形土器・浅鉢形土器・台付鉢・注口土器がある。土器の時期は縄紋時代中期のものに限られる。編年から大木７ｂ・８ａ・８ｂ式期の３期に分けられる。

大木７ｂ式は撚糸圧痕文が装飾要素の部分的特徴としてあげられる。深鉢形土器には、口縁部が４個の台形状突起により形作られるもの、器形が円筒状を呈するものがある（17～19、46～48）。

大木８a式は、短線撚糸圧痕文が口縁部に見られるもの（32・42）、粘土紐貼付文・体部に沈線による渦巻文が主体となるもの（12・13・29～32・35・～37・42～45）、口縁部に粘土紐による意匠文があり器形がキャリパー形を呈するもの（２～４・28・31）がある。大木８ｂ式は、文様帯が頚部の無文により２分されるものが代表的である。文様は隆線と沈線によるもの、沈線のみによるものの２種類ある（８・９・14・15・23・26）。33は火焔型土器の胴部である。文様は頚部と同じ胴部を分ける隆帯が巡り、以下同じ縦割りの構成となる。懸垂隆帯が４単位ある。渦巻文隆帯は３本１組で中央のものに刻み目が加えられている。火焔型土器の分布は新潟県の中越地方を中心に見られる。県内での出土例は、小国町谷地遺跡、鶴岡市岡山遺跡、最上町水木田遺跡がありいずれも胴部である。古手の火焔型土嫉は長岡市岩野原遺跡で大木８ａ式土器と伴出していることが確認されている。

有孔土器は62～65の４点がある。62はSK69フラスコ状土壙の底から出土している。底部はそっくり欠損している。器表面には微量であるが赤色顔料を塗布した痕跡が残る。内部は幅太のヘラによる磨きが行われた後、炭素吸着による黒色化処理が行われている。65は口縁部と胴部間に隆起帯を持つ有孔鍔付土器である。

土器底部には、木葉痕（１・２）及び編物圧痕（３～20）がみられる（第37・38図）。木葉痕（１・２）は広葉樹の葉を使用している。葉脈の交差から土器製作の際に幾度か置場所を変更していることが解る。編物圧痕には、全体に痕跡をそのまま残しているもの、全面が磨きにより消されているもの、中央部が円い平坦なものに置かれたため、周縁にのみ編物圧痕を残すもの（７・８）がある。編物圧痕の種類には、「１本越え、１本潜り」（３～６）、「１本越え、３本潜り、１本送り」（11～13）、「２本越え、３本潜り、１本送り」（14）、「４本越え、４本潜り」（９）がある。15～18は簀状のもので縄目が平行してみられ

る。6はカゴなど容器を土器製作時の敷物として利用したのかもしれない。

2　土製品　(39図)

土製円板と筒状土製品がある。円板は土器体部の破片を円く加工したものである。大きさは約5cmのものが5点、4cmと3cmのものが各1点である。

8は筒状で両端が欠損している。棒に粘土を巻に付けて製作したもので、外面がなでられている。片端が潰され偏平している。9も破損品でリング状を呈する。

3　土　偶　(第40～43図)

土偶は35点出土している。このうち図示したものは17点である。遺構内出土のものは6点で、他は包含層からの出土である。いずれも破損品である。

4は頭部破片で、後頭部にあたる部分に2・3とも同様のくぼみがある。5は頭部片で口から首にかけて穴が通じている。10は胸部破片と考えられ、平行する沈線の先端に渦巻き状沈線が描かれている。縄紋が全体に施文され、肩部から胴部にかけ垂直な穴が、焼成以前に穿孔されている。同様な穿孔例は、3にも見られる。

各部における造作の特徴を上げてみる。頭部が偏平で、顔面は逆三角形で誇張され、腕は肩部の誇張された張り出しにより省略されている。胸部から腰部にかけて大きく反りかえり、乳房・尻が平面的にデフォメルされている。背中には幅太の沈線が認められる。脚中央部が開き足となる部分で一つとなっている。横から見た場合上体は偏平で、下半身にボリュームの重点がおかれた造作となっている。

全体像は3の頭部を15につけたような容姿となるものが大半であると考えられる。形姿からも大幅な時期差は感じられない。

4　石　器　(図版28～31)

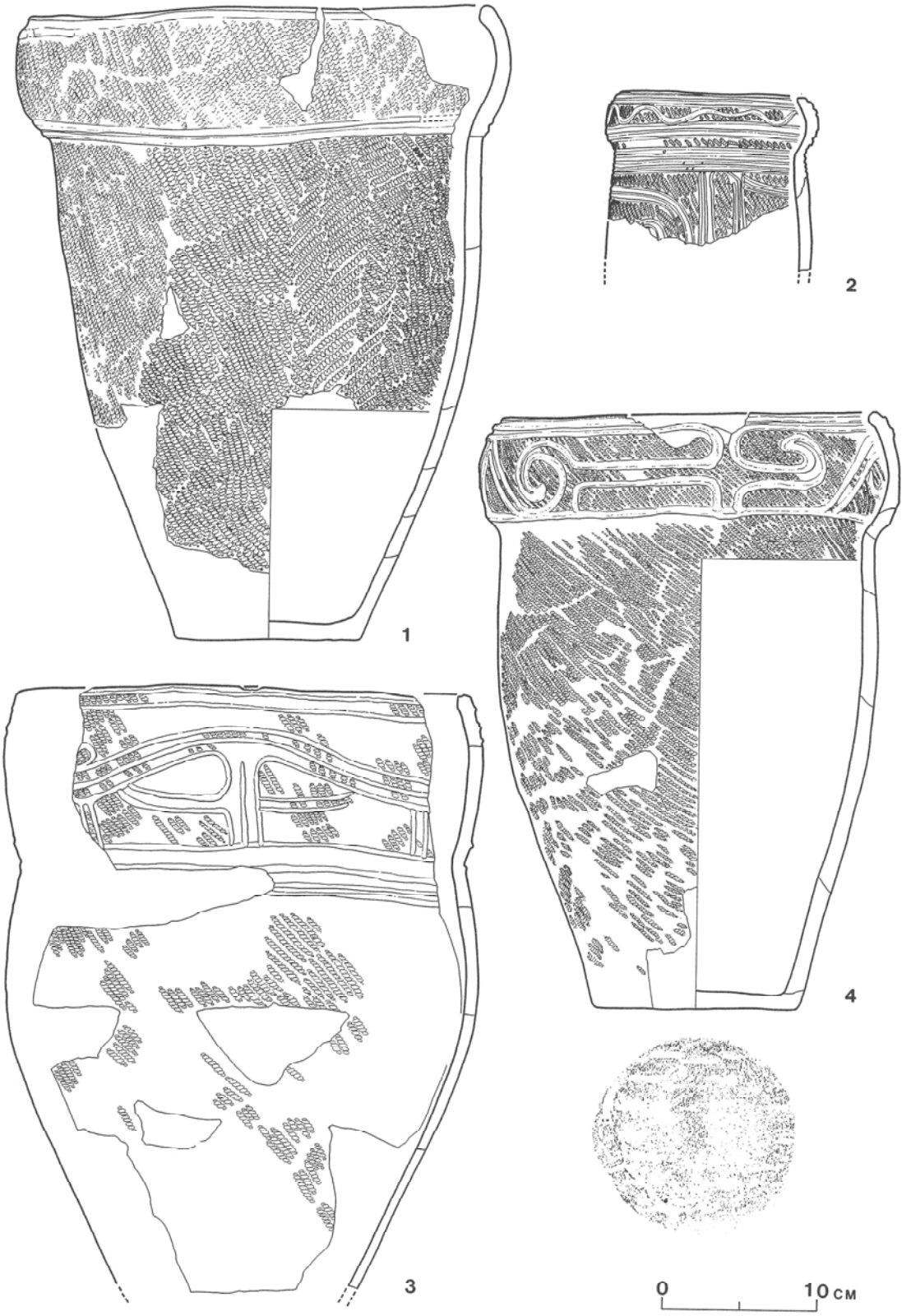
出土した石器には、石磎・石錐・石匙・石篦・磨製石斧・凹石・磨石・石棒・装身具がある。

石磎などの打製剝片石器は微少で、凹石などの磨製石核石器が多い。石皿と認定されるものは出土していない。

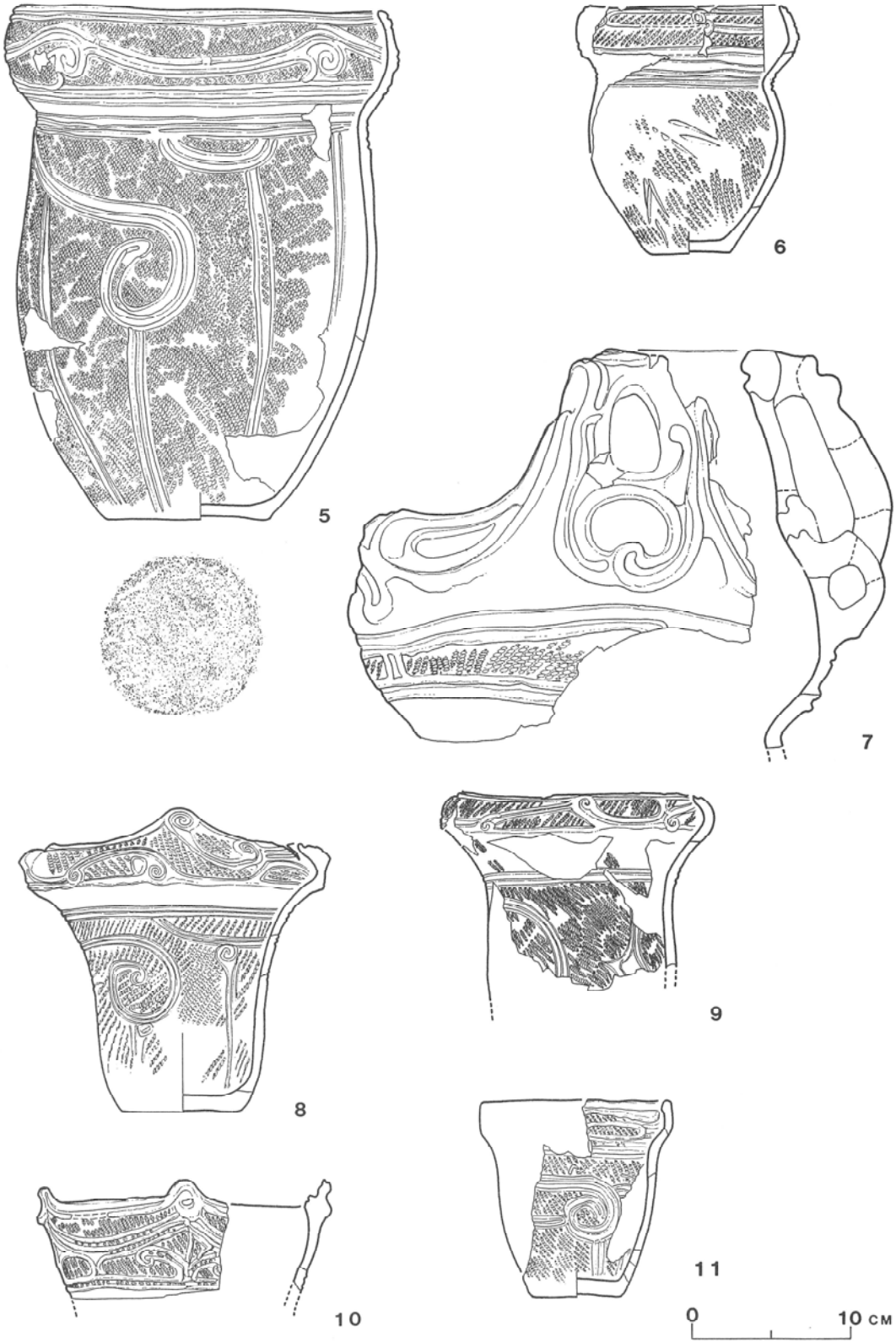
石磎は、凹基の無茎磎が13点、平基無茎磎が1点、尖基磎が2点、円基磎が1点ある。

石錐は欠損品を含めてあ12点ある。錐部断面が菱形をしている。

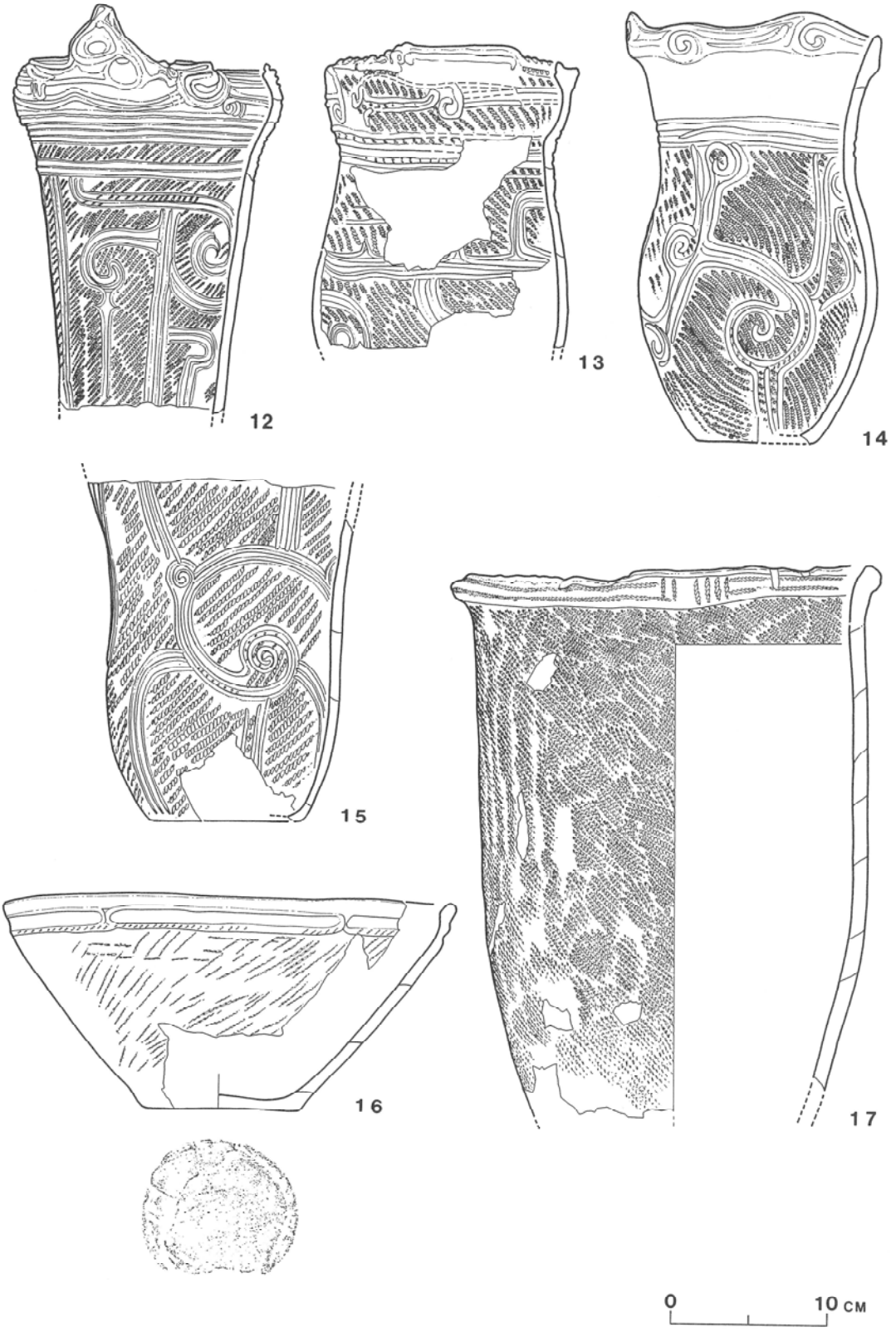
石匙は一般につまみ状の小突起をもつ打製石器をいう。14点出土している。形態は縦型と横型にわけられる。横型のなかに大きく二股に分れるものがある。つまみにひもが巻かれた痕跡を残す、黒色の付着物が認められるものがある。



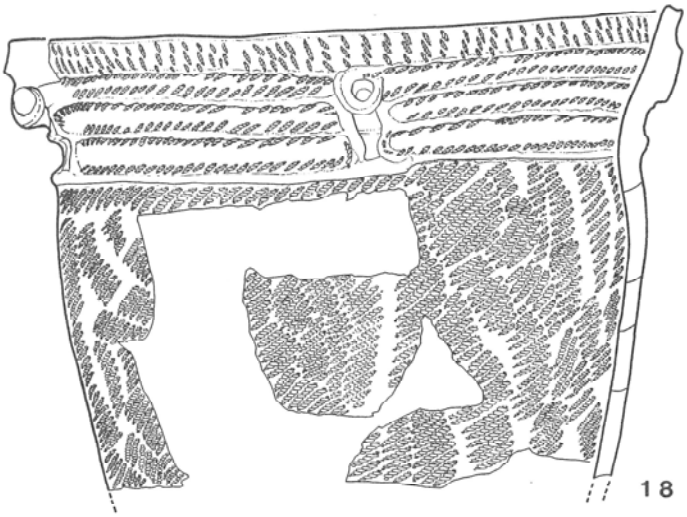
第16図　縄紋土器（1）

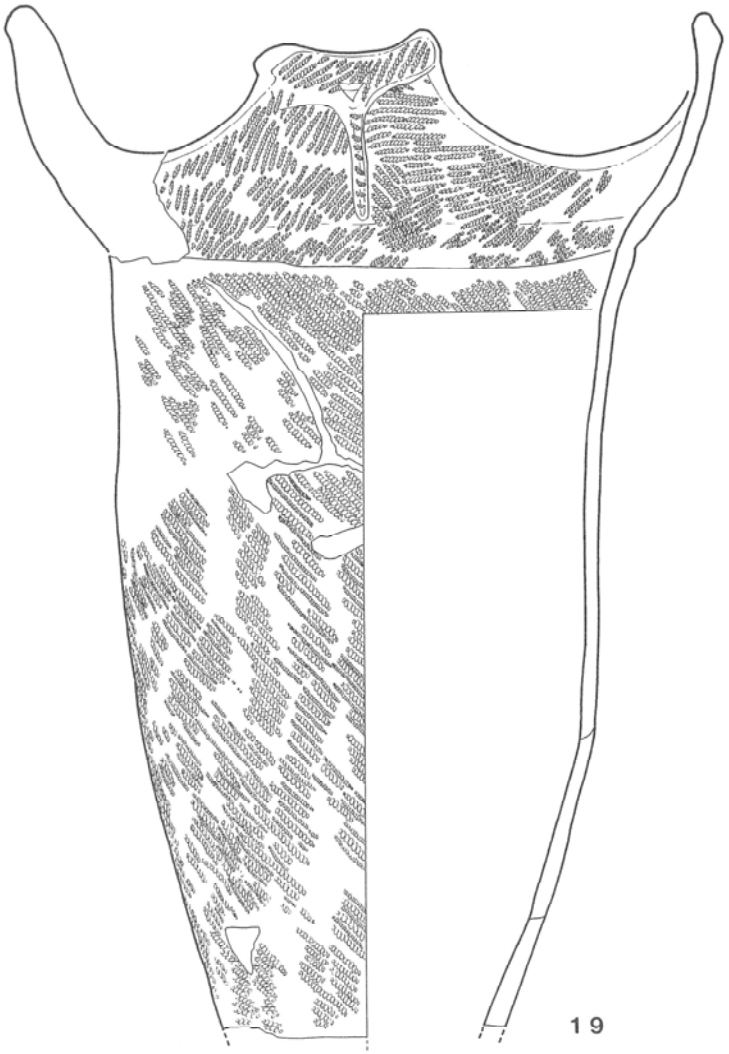


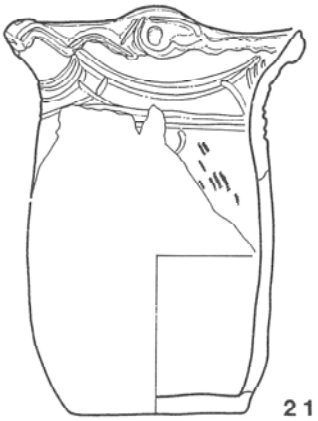
第17図　縄紋土器（2）

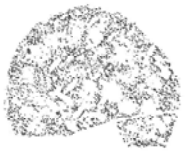


第18図　縄紋土器（3）



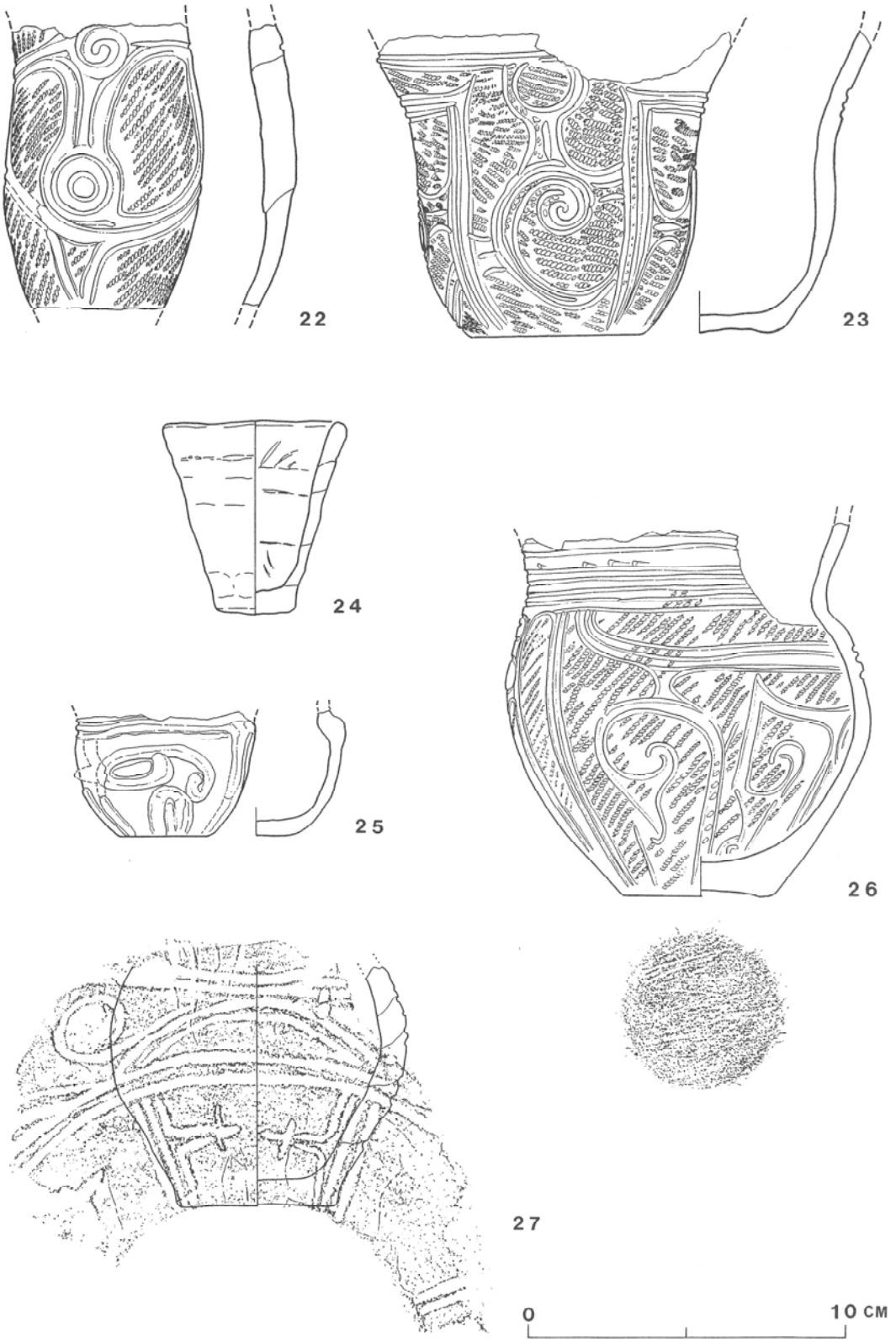




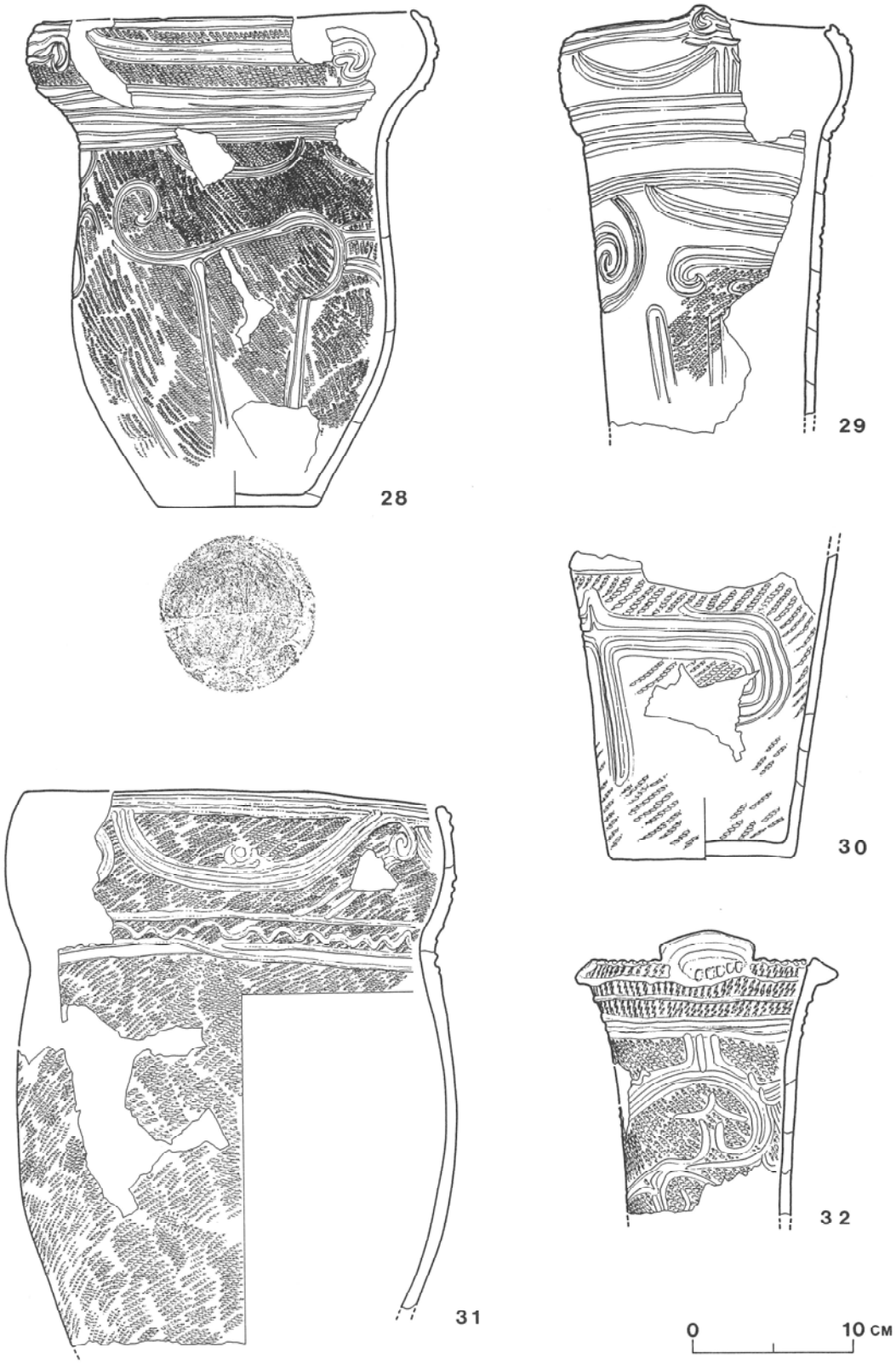


0　10 CM

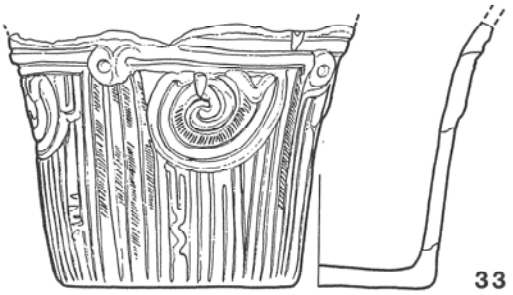
第19図　縄紋土器（4）

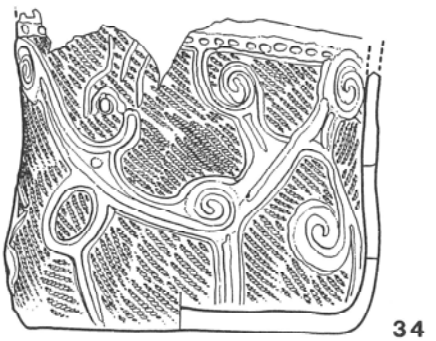


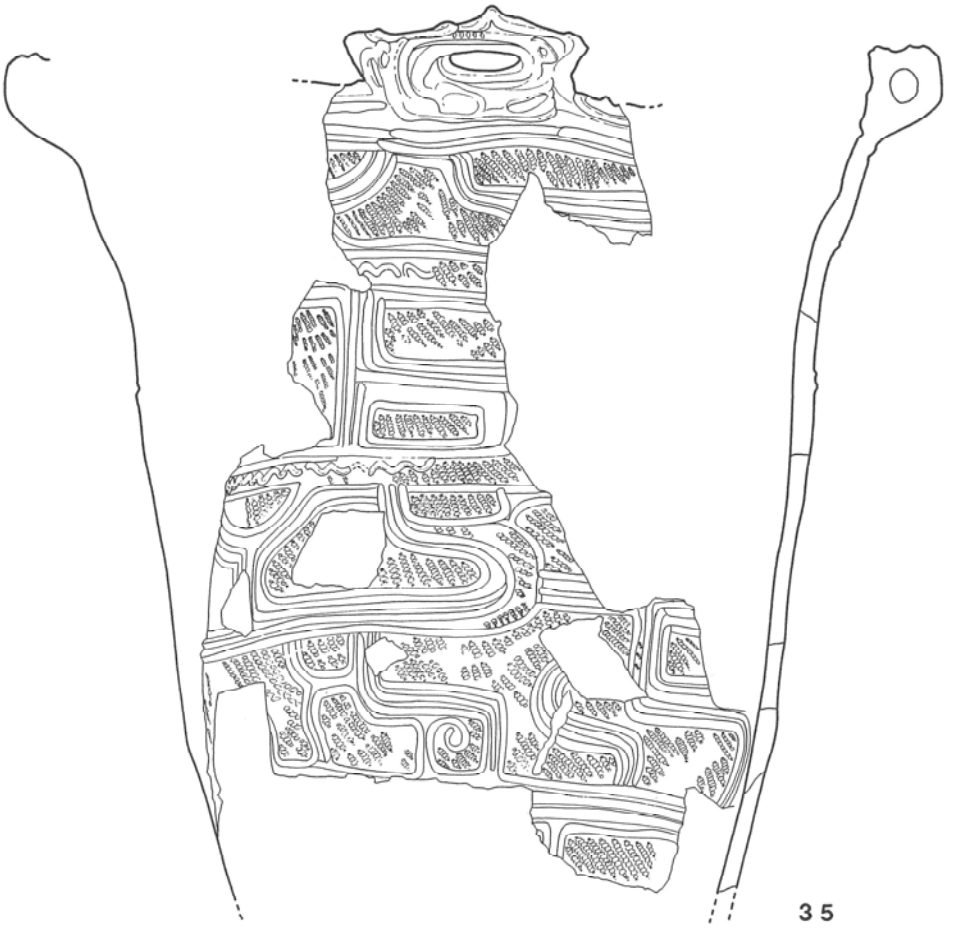
第20図　縄紋土器（5）



第21図　縄紋土器（6）

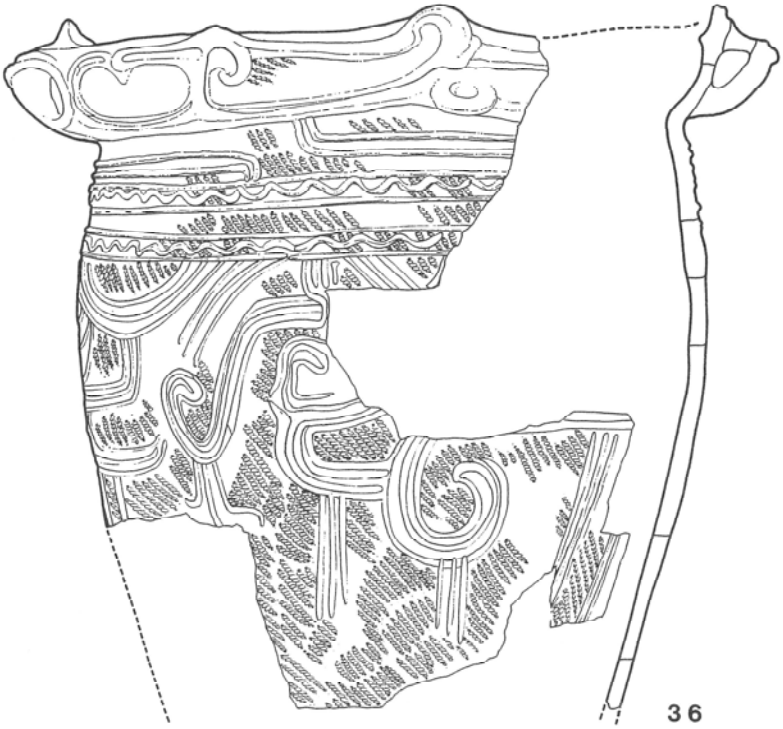


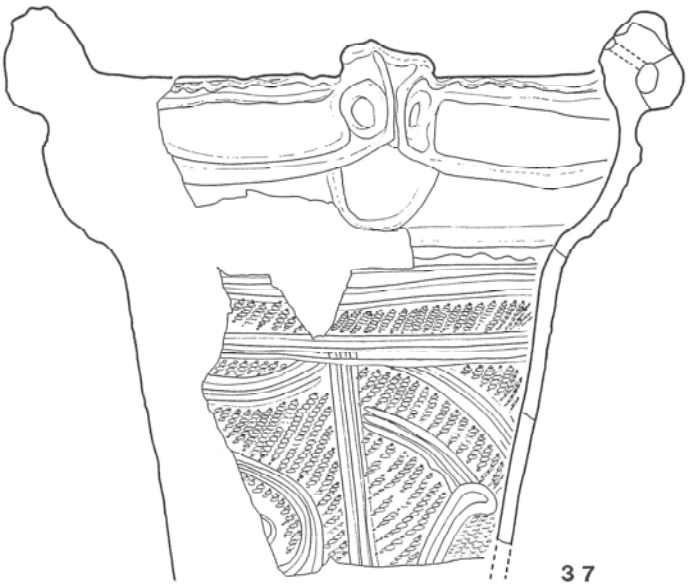




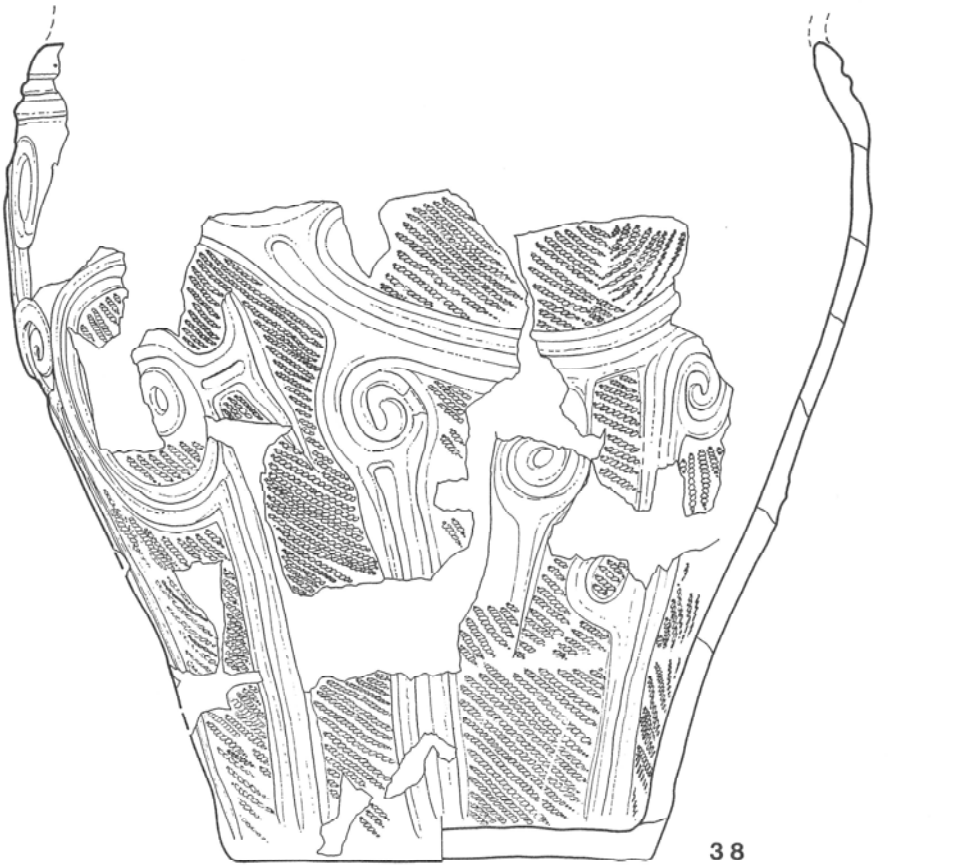
0 10CM

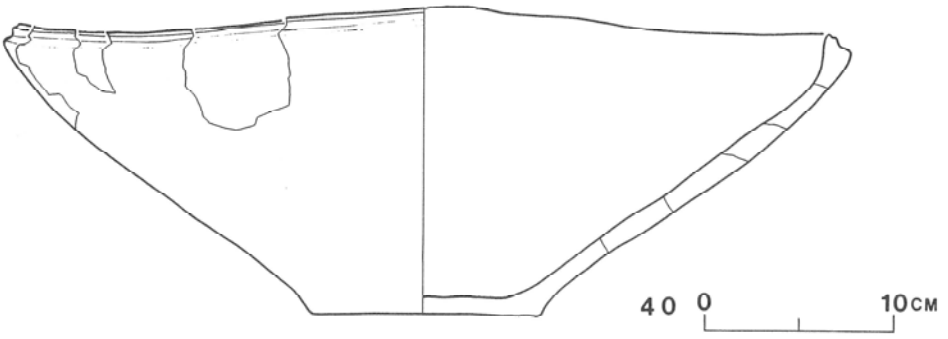
第22図　縄紋土器（7）



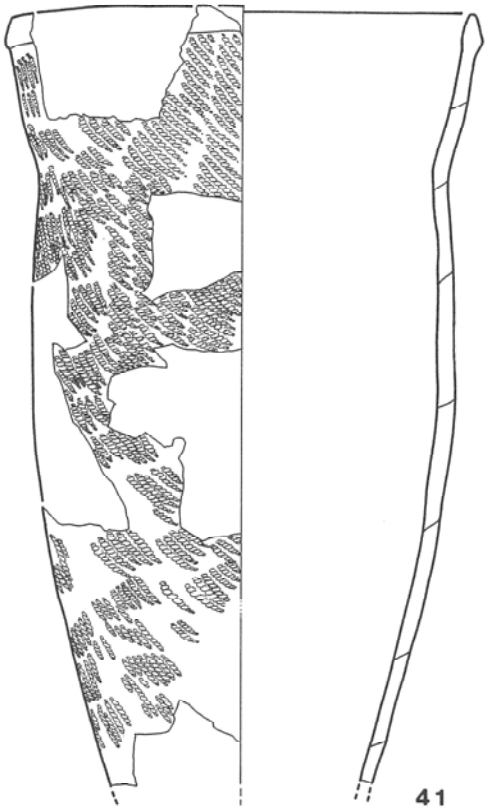


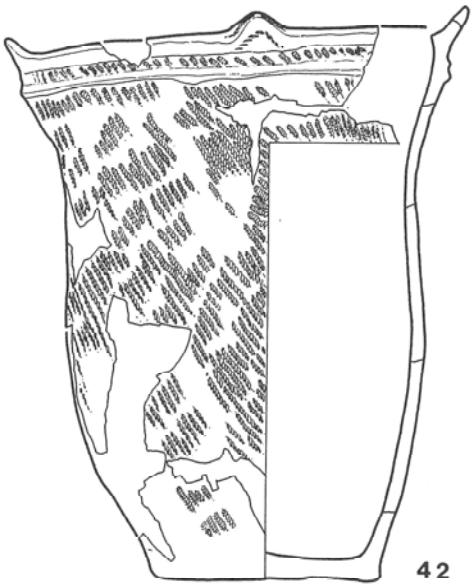
第23図　縄紋土器（8）

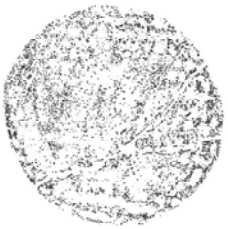


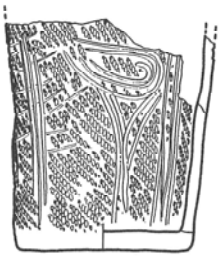


第24図　縄紋土器（9）



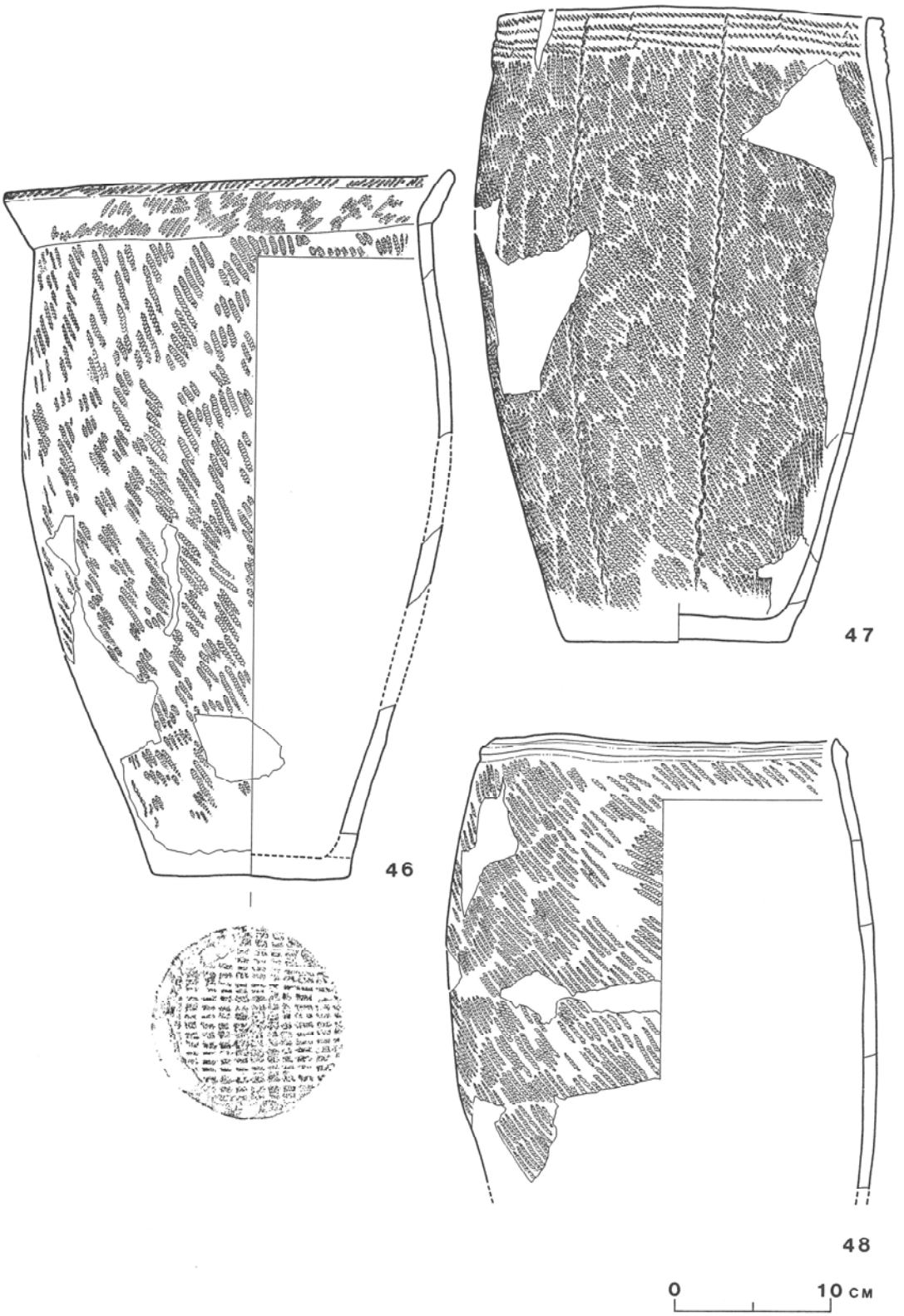




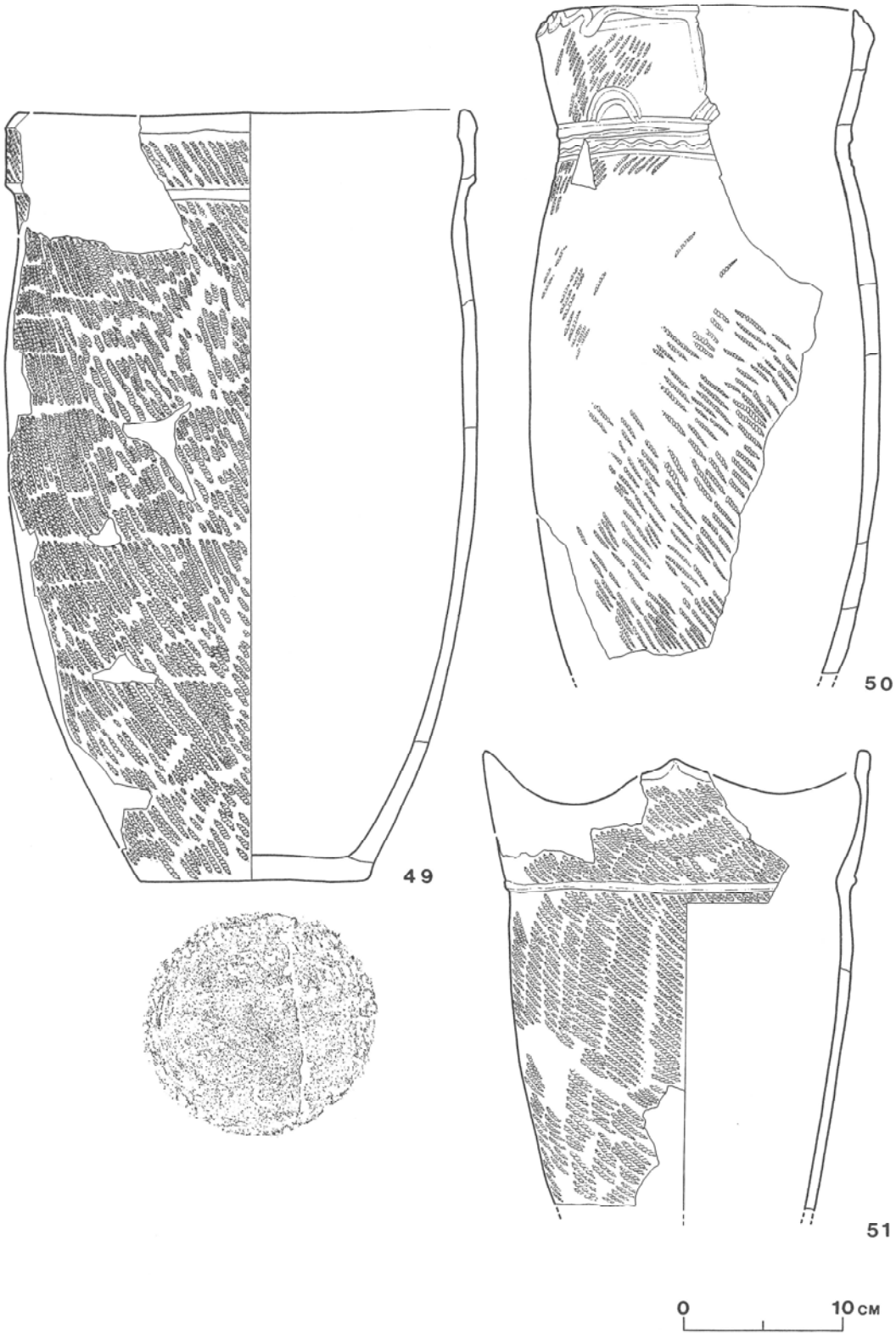


0 10CM

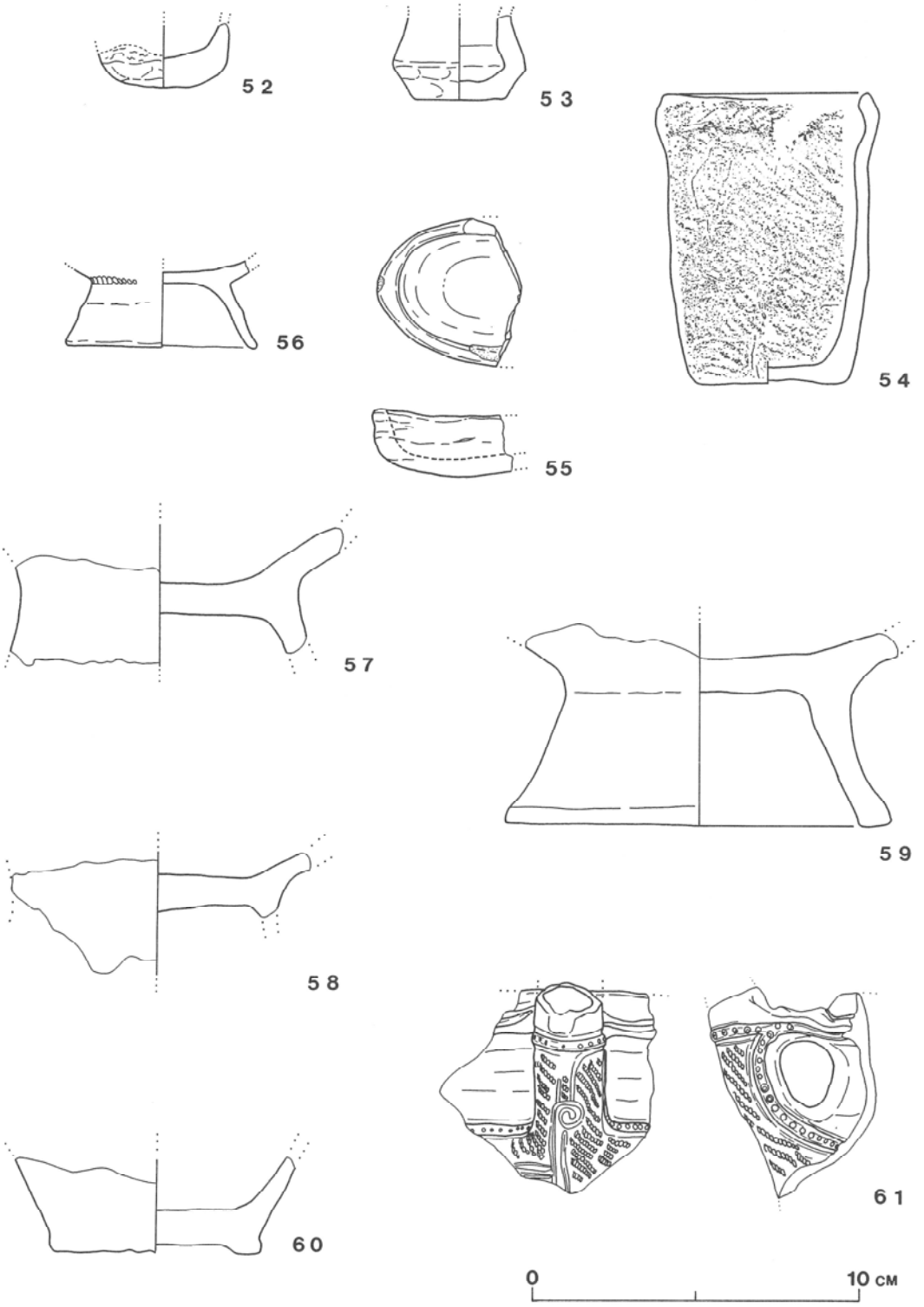
第25図　縄紋土器（10）



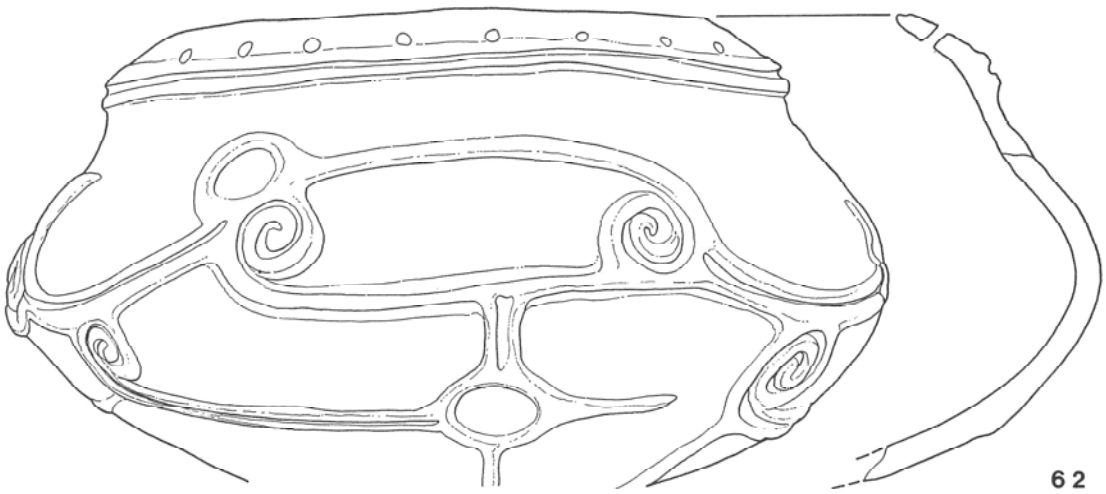
第26図　縄紋土器（11）

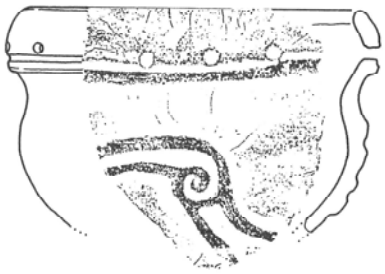


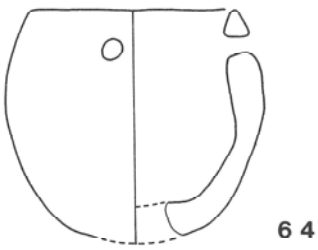
第27図　縄紋土器（12）

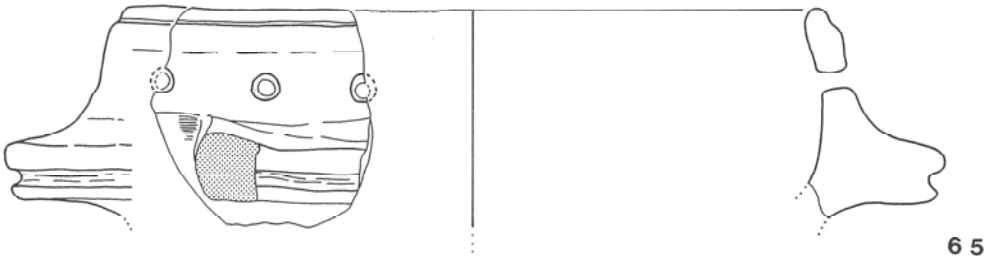


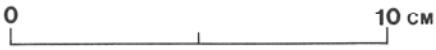
第28図　縄紋土器（13）



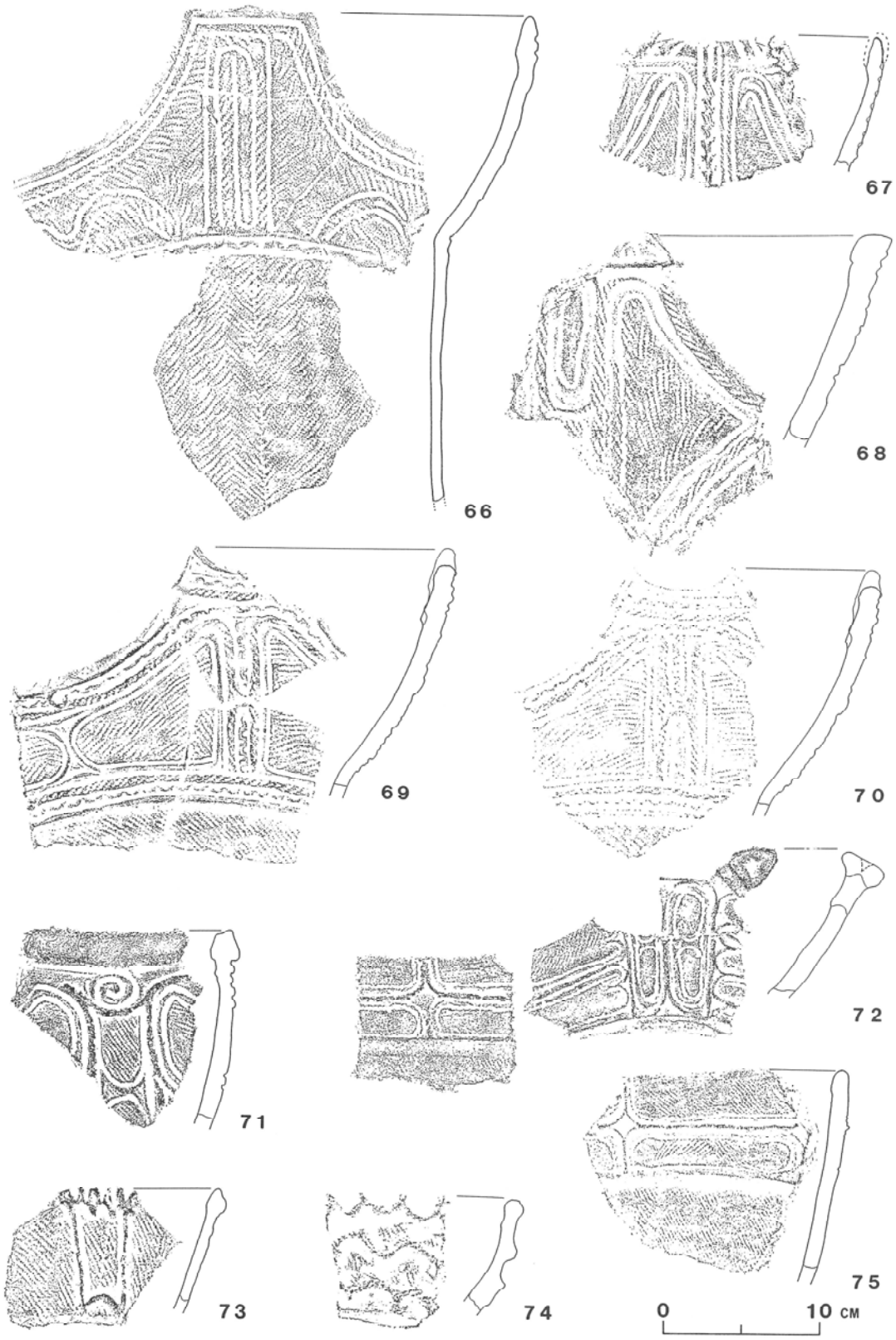




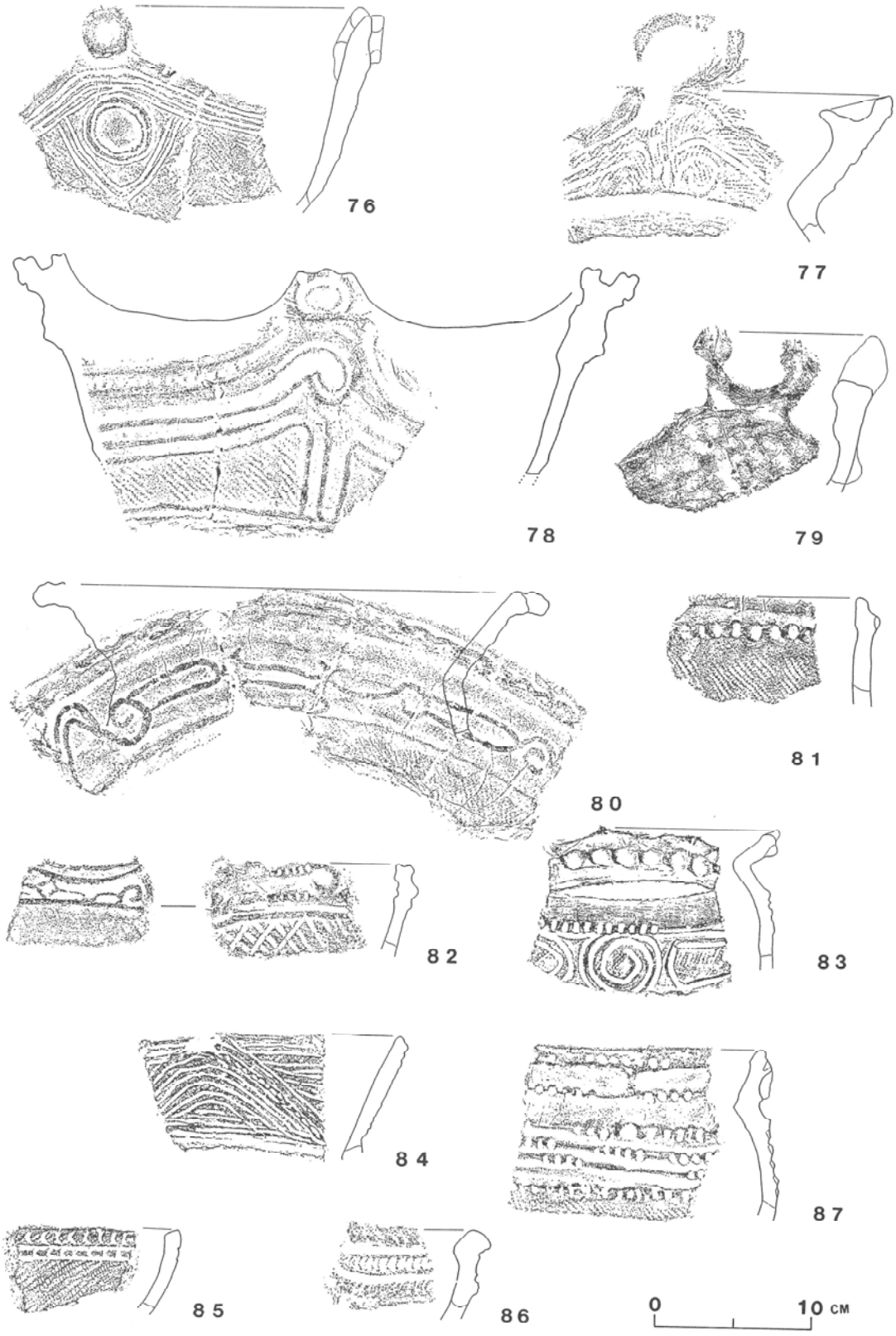




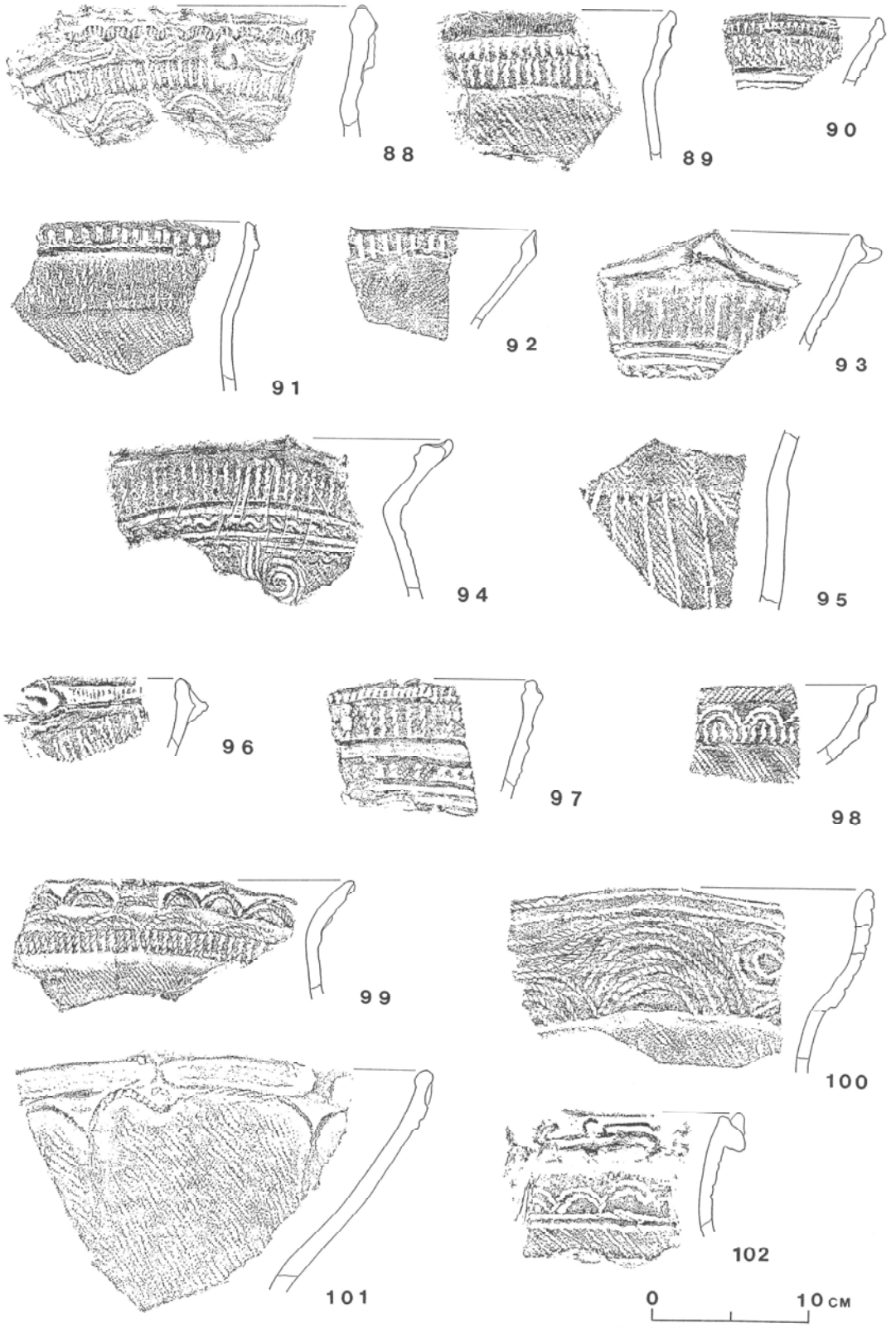
第29図　縄紋土器（14）有孔土器



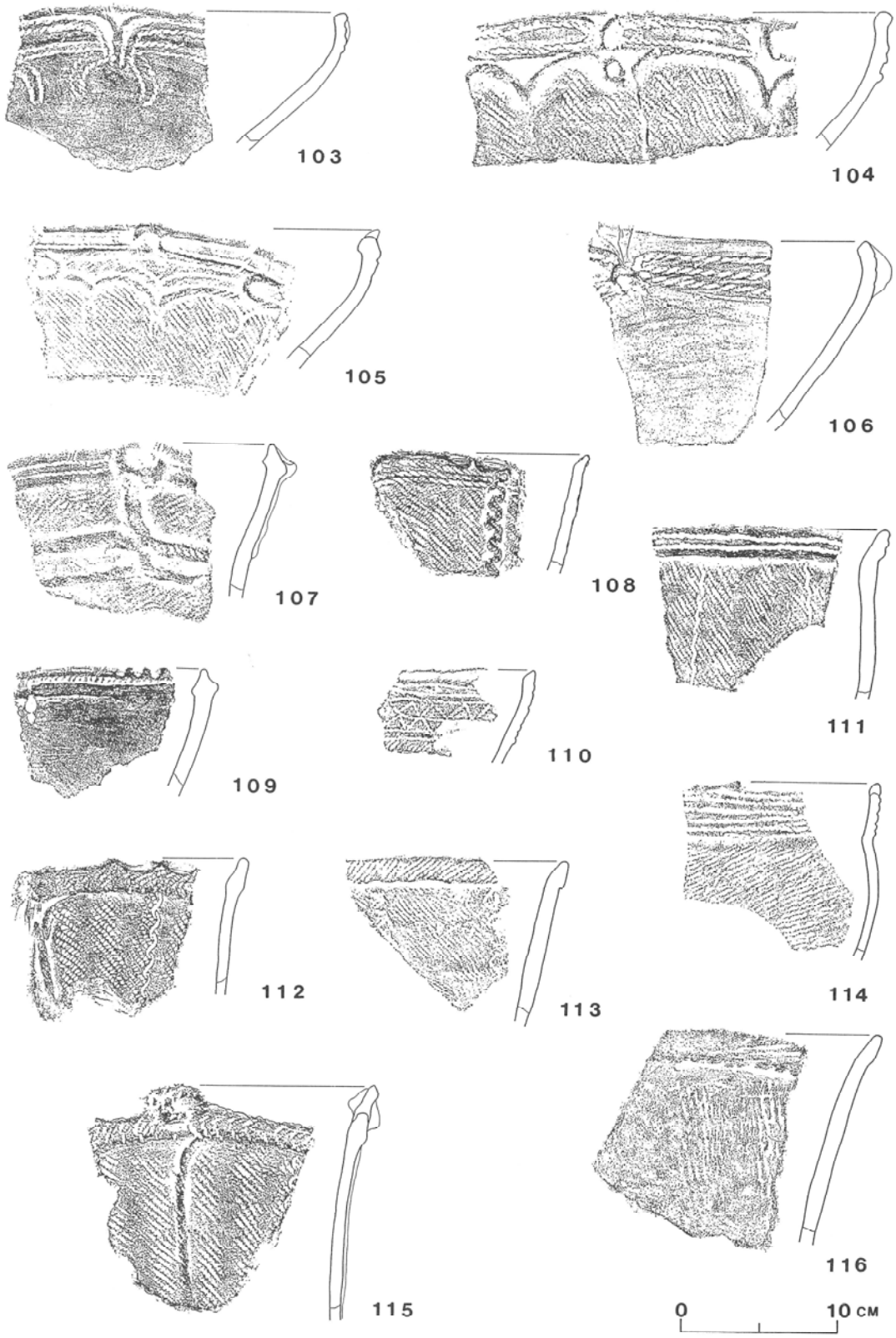
第30図　縄紋土器（15）



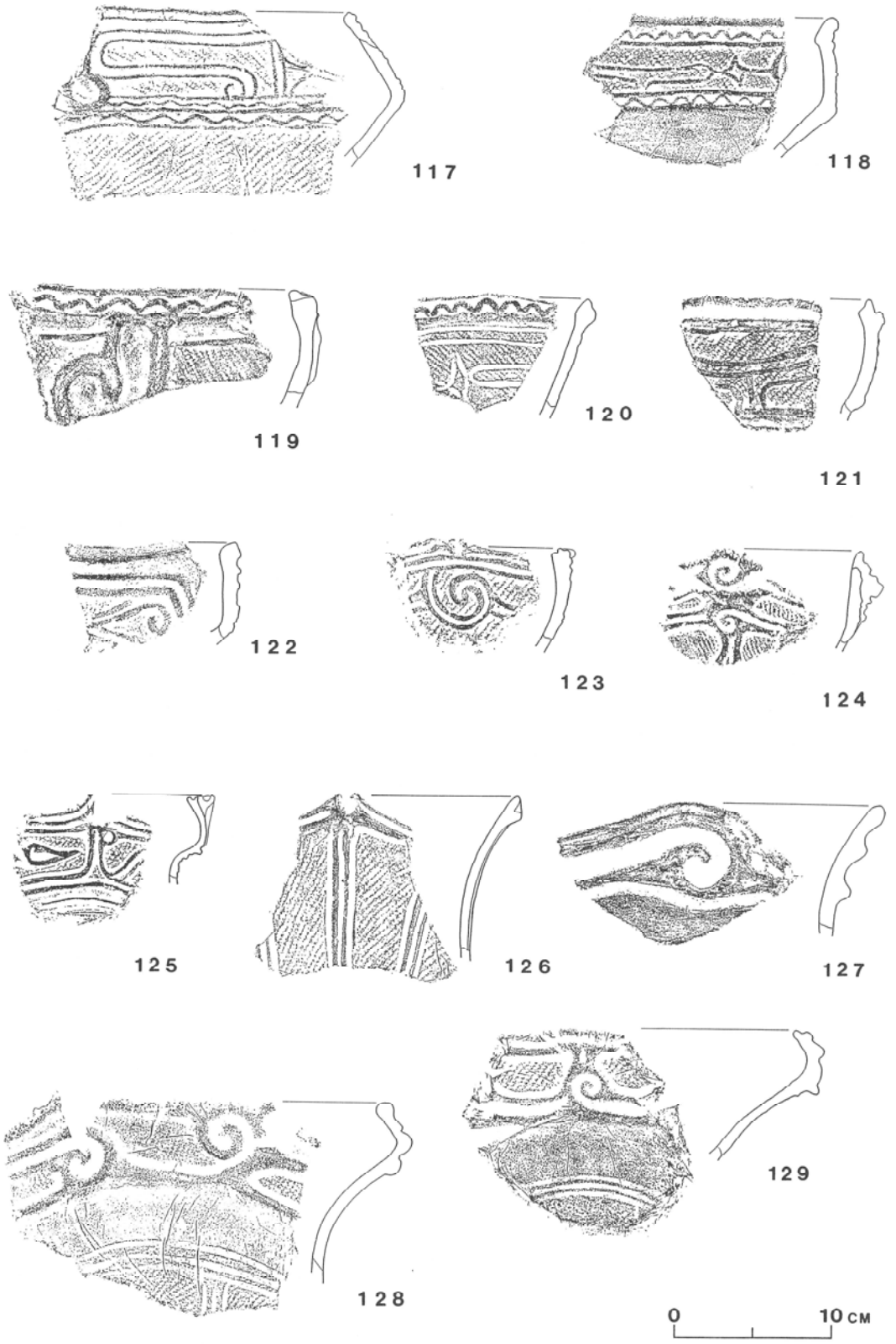
第31図　縄紋土器（16）



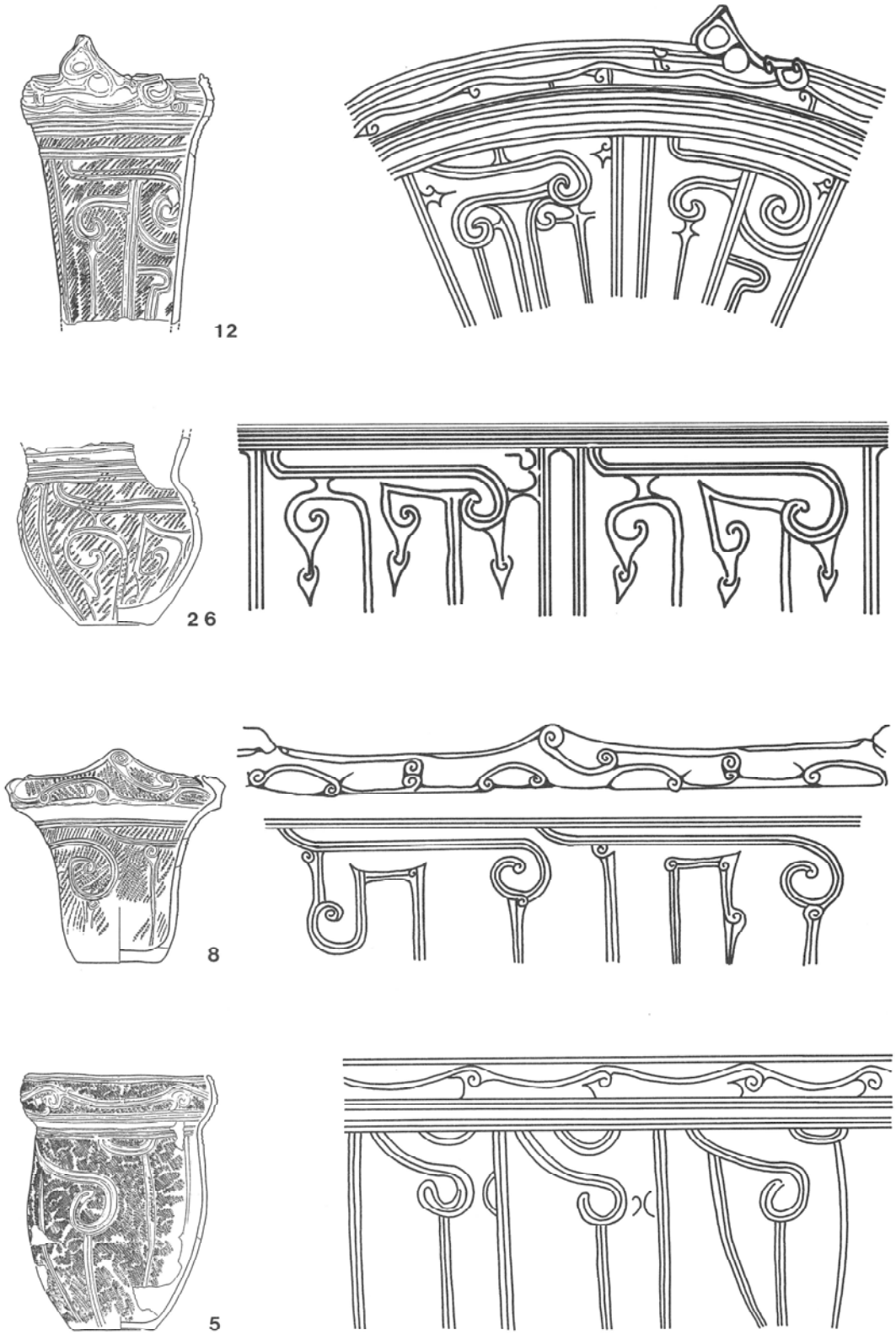
第32図　縄紋土器（17）



第33図　縄紋土器（18）

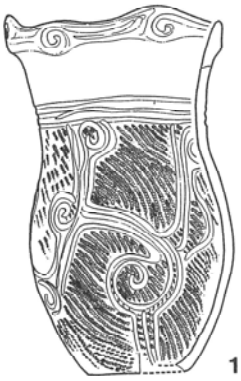


第34図　縄紋土器（19）

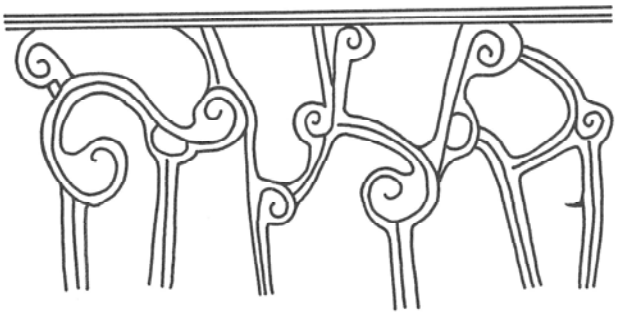


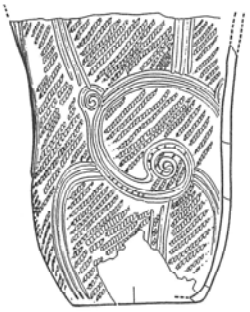
第35図　土器紋様展開図（1）

23

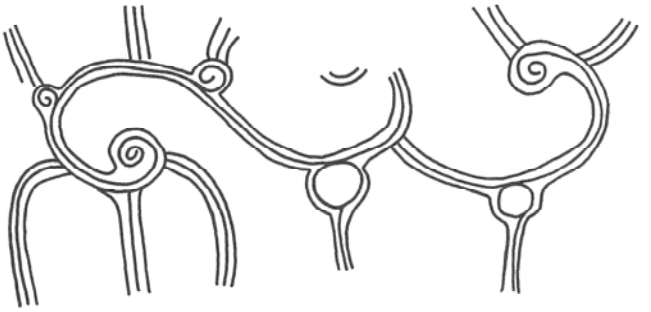


14

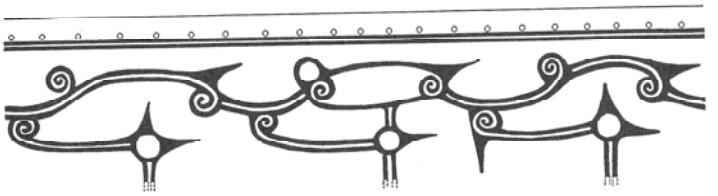




15



62



34

第36図　土器紋様展開図（２）

表8　土器観察表（1）

No.	出土地点 G	出土地点 遺構	RP No.	器種	計測値 m/m 口径	頸径	胴径	底径	器高	色調	胎土	底部
1	41	SK 4		深鉢	286～291	278	268～278	114～115	400～416	10YR 6/4	細砂混	編物圧痕
2	41	SK 4		深鉢	116～120	123～124	130		〈105〉	10YR 6/4	ち密	
3	41	SK 4		深鉢	(284～289)	(280～284)	(298～302)		〈389〉	10YR 7/4	細砂混	
4	41	SK 4		深鉢	214～226	227～240	235～240	128～130	378～387	10YR 6/4	細砂混	編物圧痕
5	1	SK 81	126	深鉢	225～231	200～212	212～224	98～102	319～323	10YR 5/6	細砂混	編物圧痕
6	1	SK 81	123	深鉢	(120～123)	105～108	118～120	52～54	154	10YR 6/4	細砂混	木葉痕
7	1	SK 81	125	深鉢	(128～132)				〈143～237〉	5YR 6/8	粗砂混	
8	10	SK 69	130	深鉢	136～153		102～104	73～75	〈164～190〉	10YR 6/4	細砂混	磨き
9	10	SK 69		深鉢	135～140	118～120			〈125〉	2.5Y 7/4	細砂混	
10	40		79	深鉢	(117～180)				〈61～73〉	10YR 6/2	細砂混	
11	40.4		34	深鉢	(116～119)	(102～105)		56～59	1223	10YR 6/4	細砂混	磨き
12	40.4	SK 2	27	深鉢	(135～150)		141～149		〈217～256〉	10YR 6/3	細砂混	
13	40.4	SK 2		深鉢	134～140	130～134	147～158		〈184～195〉	7.5YR 6.3	細砂混	
14	10	SK 2	17	深鉢	153～156	120～123	148～150		〈273〉	7.5YR 6/6	細砂混	欠損
15	40.4	SK 2	25	深鉢			145～153		〈218〉	7.5YR 7/6	細砂混	欠損
16	14	SK 90		浅鉢	(286～290)			100～101	129～131	7.5YR 4/2	粗砂混	
17	14	SK 90	132	深鉢	260～262		240～250		〈315〉	7.5YR 6/6	粗砂混	
18	13	SK 88		深鉢	342～349	303～305	305～309		〈244～246〉	10YR 7/3	細砂混	
19	13	SK 88	133	深鉢	(362～366)	(272～277)	(250～254)		〈464～538〉	10YR 7/3	粗砂混	
20	13	SK 88		深鉢	121～124	119～121	130～133	84～88	〈143～151〉	10YR 6/4	細砂混	磨き
21	13	SK 88		深鉢	148～157	118～120	130	95～96	200～213	10YR 7/3	細砂混	編物圧痕
22	10	SK 69		深鉢	32～39		60～64		〈91〉	10YR 7/4	細砂混	
23	11.1	ST 70	112	深鉢			87～89	54～56	〈94〉	10YR 7/3	細砂混	磨き
24	40		135	ミニチュア	(54)			22～24	60	10YR 7/4	細砂混	
25	2			ミニチュア				22～24	〈39〉	10YR 5/2	細砂混	
26	1	SK 51		深鉢			113～115	48～50	113	10YR 6/3	細砂混	木葉痕
27	41			深鉢			(94)	50～53		7.5YR 7/4	細砂混	磨き
28	11		90	深鉢	222～234	192～198	200～205	97～99	303～305	7.5YR 6/6	細砂混	磨き
29	40		59	深鉢	(163～165)	(153～156)	(142～145)		〈248～267〉	10YR 7/4	細砂混	
30	3.4	SD 130		深鉢			154	106～110	〈186〉	2.5Y 7/4	細砂混	磨き
31	41		30	深鉢	(255～263)	(245～255)	271		〈334〉	10YR 7/4	粗砂混	
32	14		124	深鉢	135～136		121～124		〈127～193〉	10YR 6/4	細砂混	
33	40		23	深鉢				120～122	〈146〉	5YR 6/8	細砂混	磨き
34	17		115	深鉢			196～200	174～177	〈172〉	10YR 7/3	細砂混	磨き
35	41		32	深鉢	(420～480)	(368～372)	(330～336)		〈470〉	10YR 6/4	粗砂混	

表9　土器観察表（2）

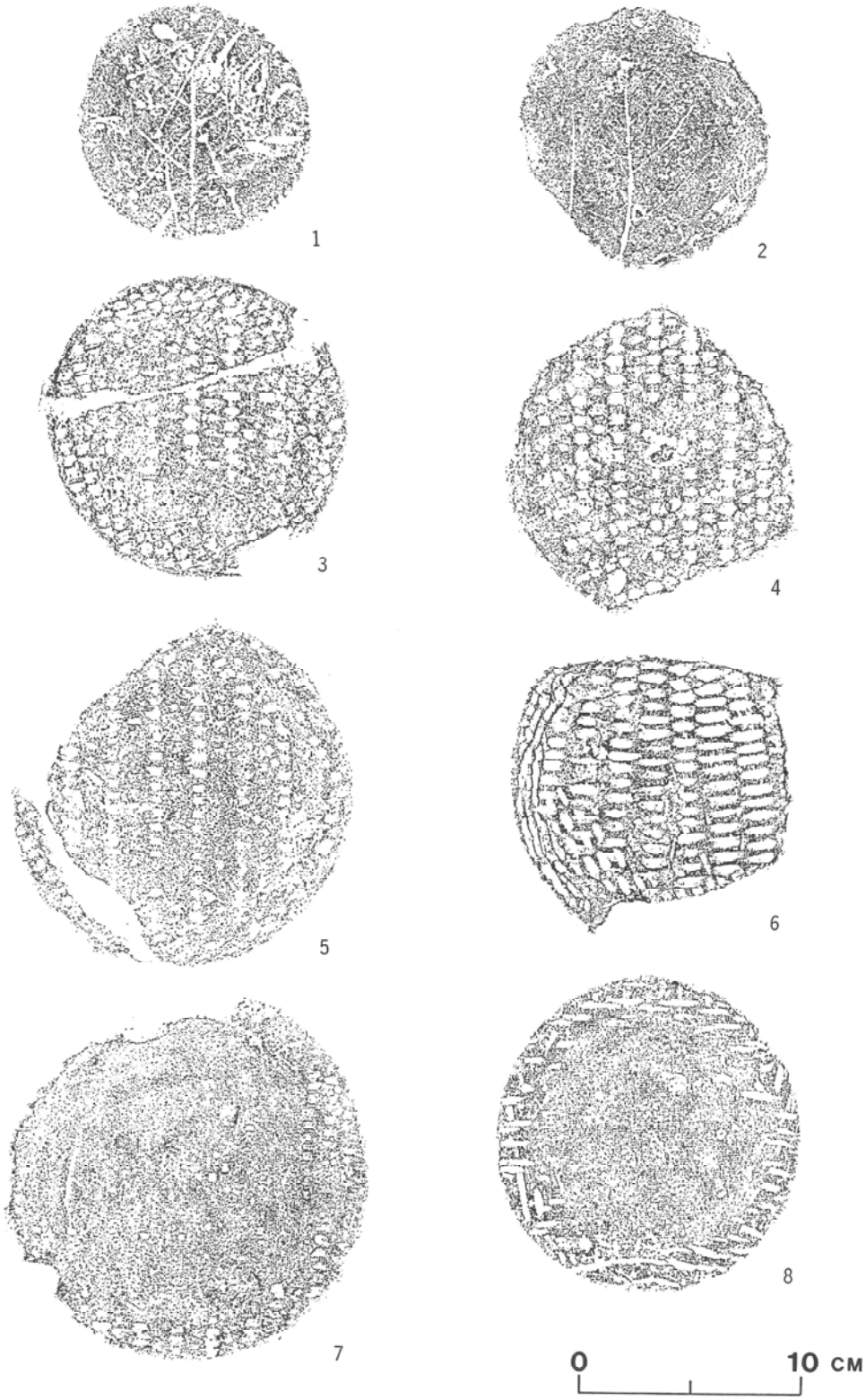
No.	出土地点		RP	器種	計測値 m/m					色調	胎土	底部
	G	遺構	No.		口径	頸径	胴径	底径	器高			
36	40		64	深鉢	(343～348)	(304～309)	(327～331)		〈358～369〉	10YR 7/4	粗砂混	
37	41		40	深鉢	(325～340)	(225～235)			〈254～281〉	2.5YR 7/3	細砂混	
38	40		9	深鉢	(410～415)		(403～410)	215～220	458～459	10YR 6/6	粗砂混	磨き
39	40.4		22	浅鉢	(334～335)			121～123	〈119〉	10YR 7/4	粗砂混	磨き
40	40.4		68	浅鉢	(232～235)			121～126	149～164	10YR 7/4	細砂混	磨き
41	40		49	深鉢	(242～244)	(213～217)	(218～223)		〈414〉	10YR 7/3	細砂混	
42	40		136	深鉢	(243)	186～188	189	116～121	274～299	5YR 4/6	粗砂混	編物圧痕
43	40		70	深鉢	124～125	95	111～114	73～75	〈149～167〉	7.5YR 6/3	細砂混	磨き
44	40		61	深鉢	(180)		202～204	91～93	〈256〉	10YR 7/3	細砂混	編物圧痕
45	40		69	深鉢				89～91	〈124〉	10YR 7/3	細砂混	磨き
46	10			深鉢	273～283	251～254	268～277	(119～123)	438～457	10YR 7/4	粗砂混	編物圧痕
47	24			深鉢	217～223	243～249	254～259	141～143	393～399	10YR 7/4	細砂混	磨き
48	40		82	深鉢	(217～220)		275		〈341〉	10YR 6/4	細砂混	
49	40		65	深鉢	275～290	287～296	302～305	143～145	472～483	10YR 6/4	細砂混	編物圧痕
50	41		96	深鉢	(187～189)	(177～182)	(213～218)		〈409〉	10YR 7/4	粗砂混	
51	40		58	深鉢	(237～240)		220～210		〈288〉	10YR 6/6	粗砂混	
52	3			ミニチュア				25～28	20	10YR 6/3	細砂混	
53	3			ミニチュア				29	〈25〉	7.5YR 4/2	細砂混	
54	40.4	SK 2	21	深鉢	(75)			36～38	86～88	10YR 8/6	細砂混	磨き
55	40			ミニチュア					20	10YR 6/1	細砂混	
56	11.1	ST 70		高台付土器				56	〈27〉	5YR 6/6	細砂混	
57	1			高台付土器				91	〈38〉	10YR 8/3	細砂混	
58	24			高台付土器					〈34〉	7.5YR 7/3	細砂混	
59	40		62	高台付土器				116	〈62〉	10YR 6/3	細砂混	
60	41	SK 4		高台付土器				62	〈29〉	10YR 7/4	細砂混	
61	41	SK 3		注口土器					〈65〉	10YR 6/4	細砂混	
62	10	SK 69	120	有孔土器	(118～121)	170～179	217～227		〈119～125〉	2.5Y 7/2	細砂混	
63	14	SK 91		有孔土器	(87)				〈58〉	10YR 8/2	細砂混	
64	9			有孔土器	(54)				〈60〉	7.5YR 8/3	細砂混	
65	3			有孔土器	(184)				〈56〉	5YR 7/6	細砂混	

表10　土器観察表（3）

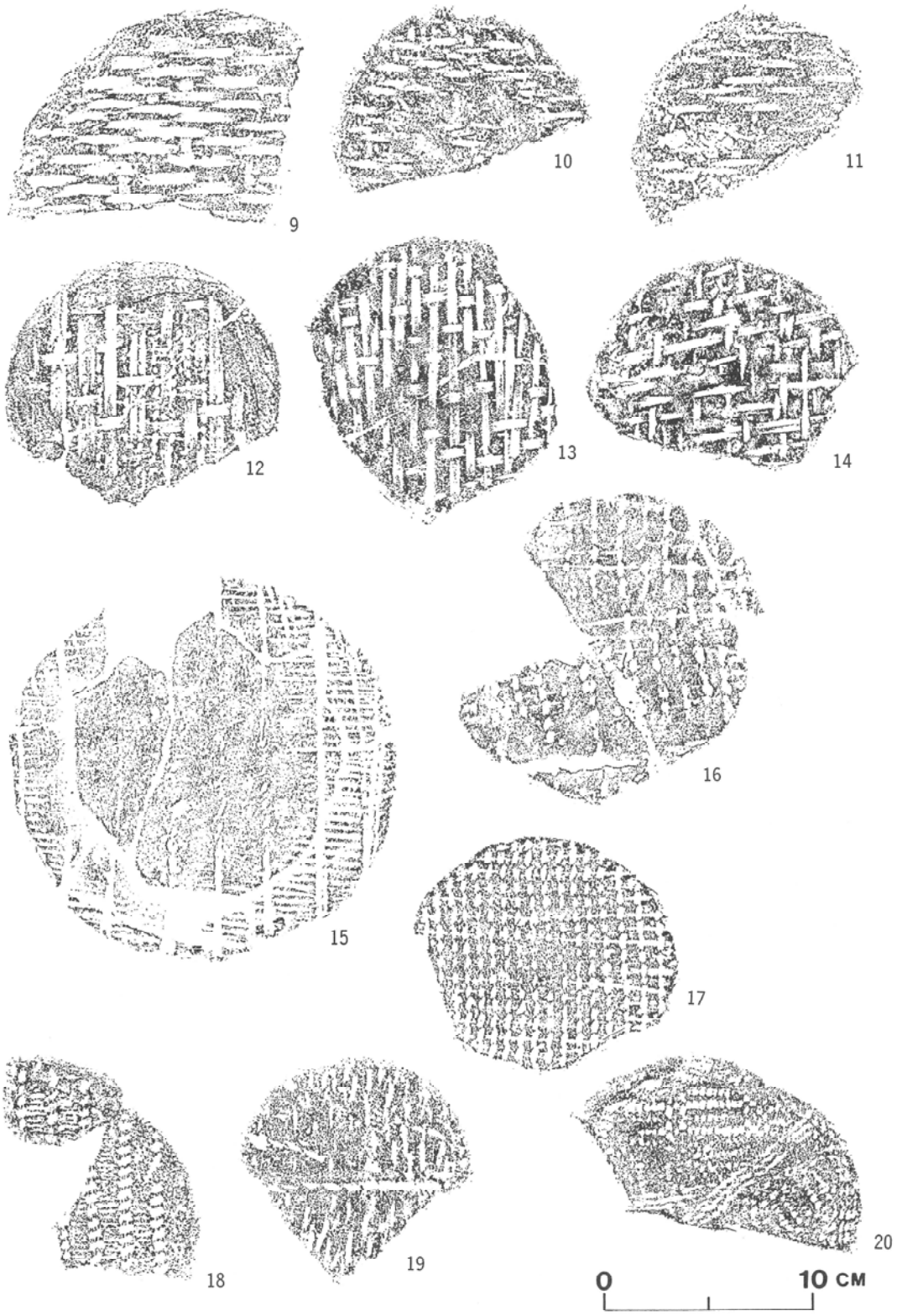
No.	出土地点G	器　種	部　位	色	調	胎　土
66	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
67	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	ち　密
68	24	深　鉢	口縁部	10YR	7/4	細砂混
69	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
70	24	深　鉢	口縁部	10YR	5/6	細砂混
71	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
72	20．23	深　鉢	口縁部	5YR	6/8	粗砂混
73	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
74	24	深　鉢	口縁部	2.5Y	7/4	細砂混
75	23	深　鉢	口縁部	10YR	6/2	細砂混
76	22	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
77	40	深　鉢	口縁部	10YR	6/3	細砂混
78	40．41	深　鉢	口縁部	7.5YR	6/3	細砂混
79	23	深　鉢	口縁部	7.5YR	6/6	細砂混
80	3	深　鉢	口縁部	7.5YR	7/6	細砂混
81	3	深　鉢	口縁部	7.5YR	4/2	粗砂混
82	3	深　鉢	口縁部	7.5YR	6/6	粗砂混
83		深　鉢	口縁部	10YR	7/3	細砂混
84	23	深　鉢	口縁部	10YR	7/3	粗砂混
85	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
86	7	深　鉢	口縁部	10YR	7/3	細砂混
87	24	深　鉢	口縁部	10YR	7/4	細砂混
88	3	深　鉢	口縁部	10YR	7/3	細砂混
89	3	深　鉢	口縁部	10YR	7/4	細砂混
90	3	深　鉢	口縁部	10YR	5/2	細砂混
91	4	深　鉢	口縁部	10YR	6/3	細砂混
92	4	浅　鉢	口縁部	7.5YR	7/4	細砂混
93	4	深　鉢	口縁部	7.5YR	6/6	細砂混
94	40	深　鉢	頚　部	10YR	7/4	細砂混
95	24	深　鉢	口縁部	2.5Y	7/4	細砂混
96	24	深　鉢	口縁部	10YR	7/4	粗砂混
97	3	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	細砂混
98	4	浅　鉢	口縁部	5YR	6/8	細砂混
99	5	深　鉢	口縁部	10YR	7/3	細砂混
100	24	深　鉢	口縁部	10YR	6/4	粗砂混

表11　土器観察表（4）

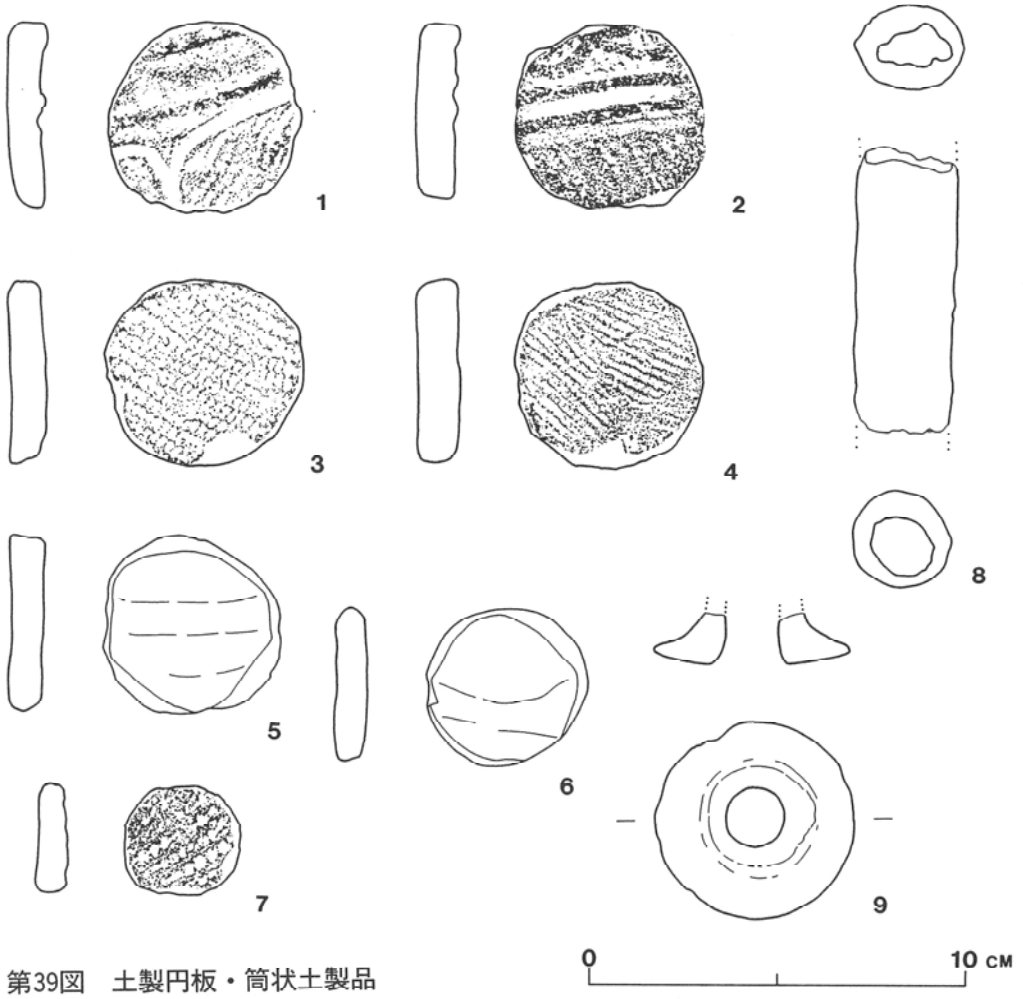
No.	出土地点G	器　種	部　位	色	調	胎　土
101	24	浅　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	粗 砂 混
102	2	深　鉢	口 縁 部	2.5YR	7/3	細 砂 混
103	24	浅　鉢	口 縁 部	10YR	6/6	粗 砂 混
104	24	浅　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	粗 砂 混
105	24	浅　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	細 砂 混
106	24	浅　鉢	口 縁 部	10YR	7/3	細 砂 混
107	4	深　鉢	口 縁 部	5YR	4/6	粗 砂 混
108	24	深　鉢	口 縁 部	7.5YR	6/3	細 砂 混
109	4	深　鉢	口 縁 部	10YR	7/3	細 砂 混
110	41	深　鉢	口 縁 部	10YR	7/3	細 砂 混
111	24	深　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	粗 砂 混
112	3	深　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	細 砂 混
113	24	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/4	細 砂 混
114	24	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/4	細 砂 混
115	3	深　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	粗 砂 混
116	7	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/6	粗 砂 混
117	40	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/3	細 砂 混
118	4	深　鉢	口 縁 部	7.5YR	4/2	細 砂 混
119	6	深　鉢	口 縁 部	10YR	8/6	細 砂 混
120	4	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/1	細 砂 混
121	3	深　鉢	口 縁 部	5YR	6/6	細 砂 混
122	40	深　鉢	口 縁 部	10YR	8/3	細 砂 混
123	3	深　鉢	口 縁 部	7.5YR	7/3	細 砂 混
124	5	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/3	細 砂 混
125	15	深　鉢	口 縁 部	10YR	7/4	細 砂 混
126	8	深　鉢	口 縁 部	10YR	6/4	細 砂 混
127	3	深　鉢	口 縁 部	2.5Y	7/2	細 砂 混
128	3	深　鉢	口 縁 部	10YR	8/2	細 砂 混
129	3	深　鉢	口 縁 部	7.5YR	8/3	細 砂 混



第37図　土器底部拓影図（1）



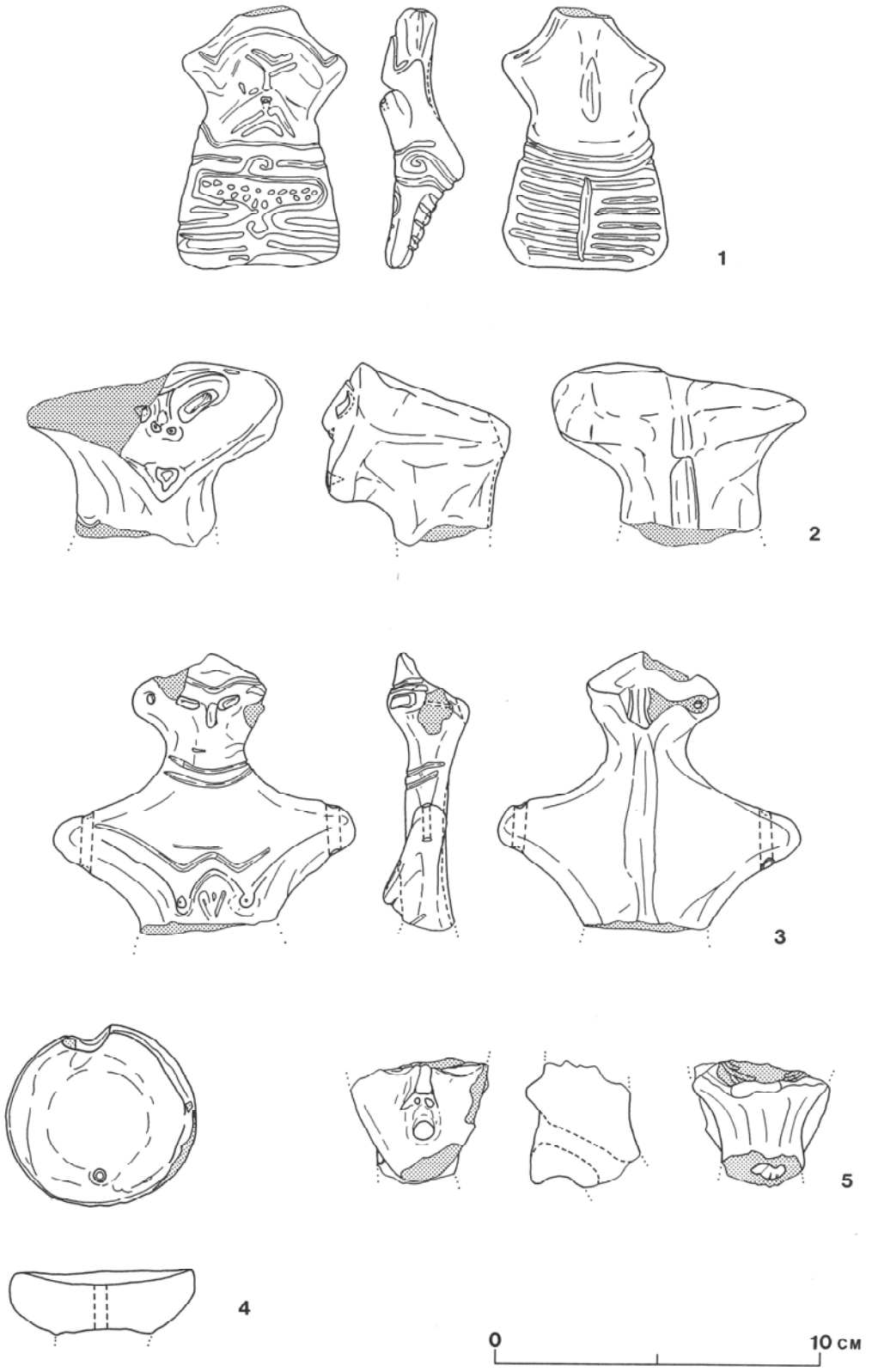
第38図　土器底部拓影図（２）



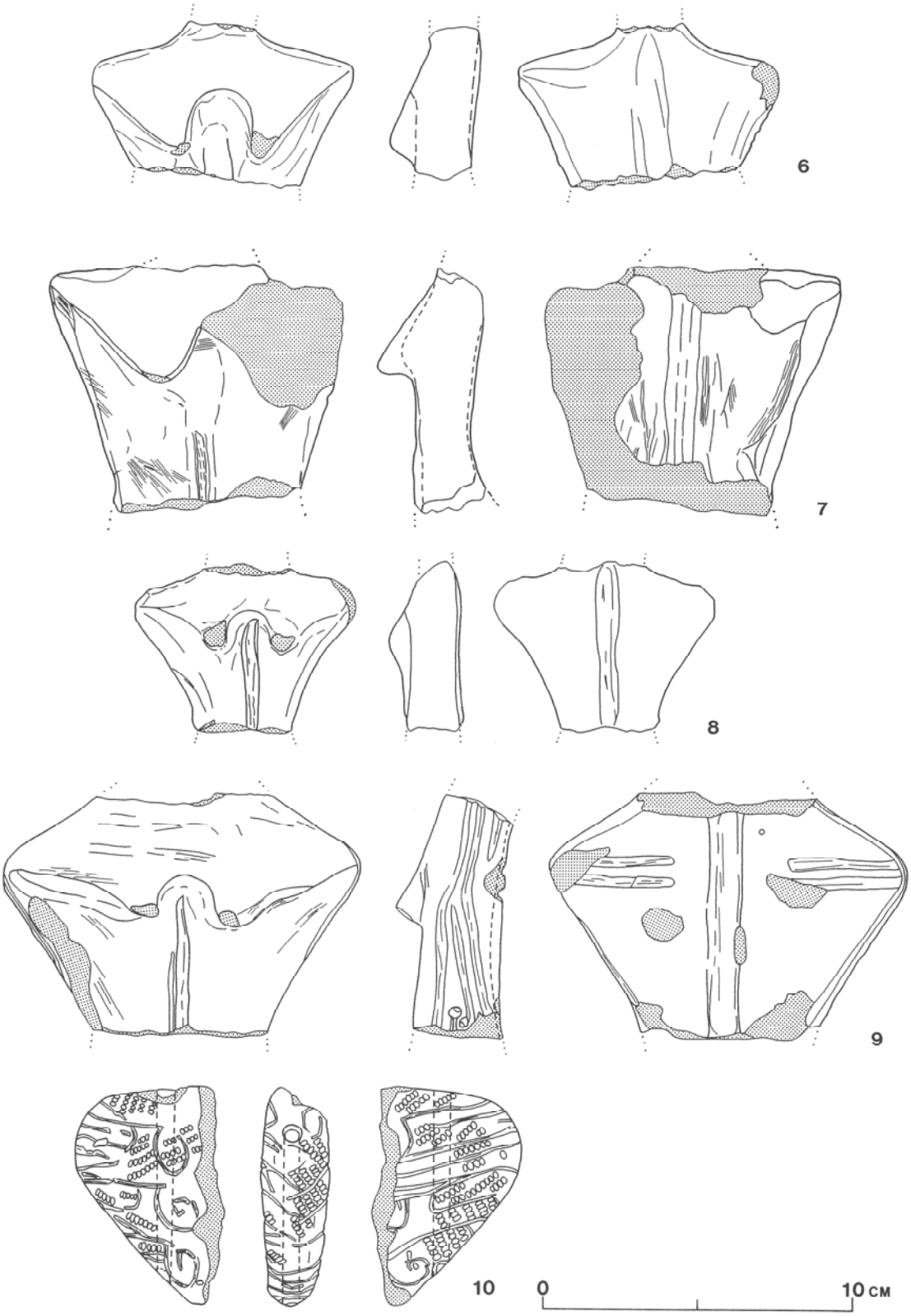
第39図　土製円板・筒状土製品

表12　土製円板筒状土製品観察表

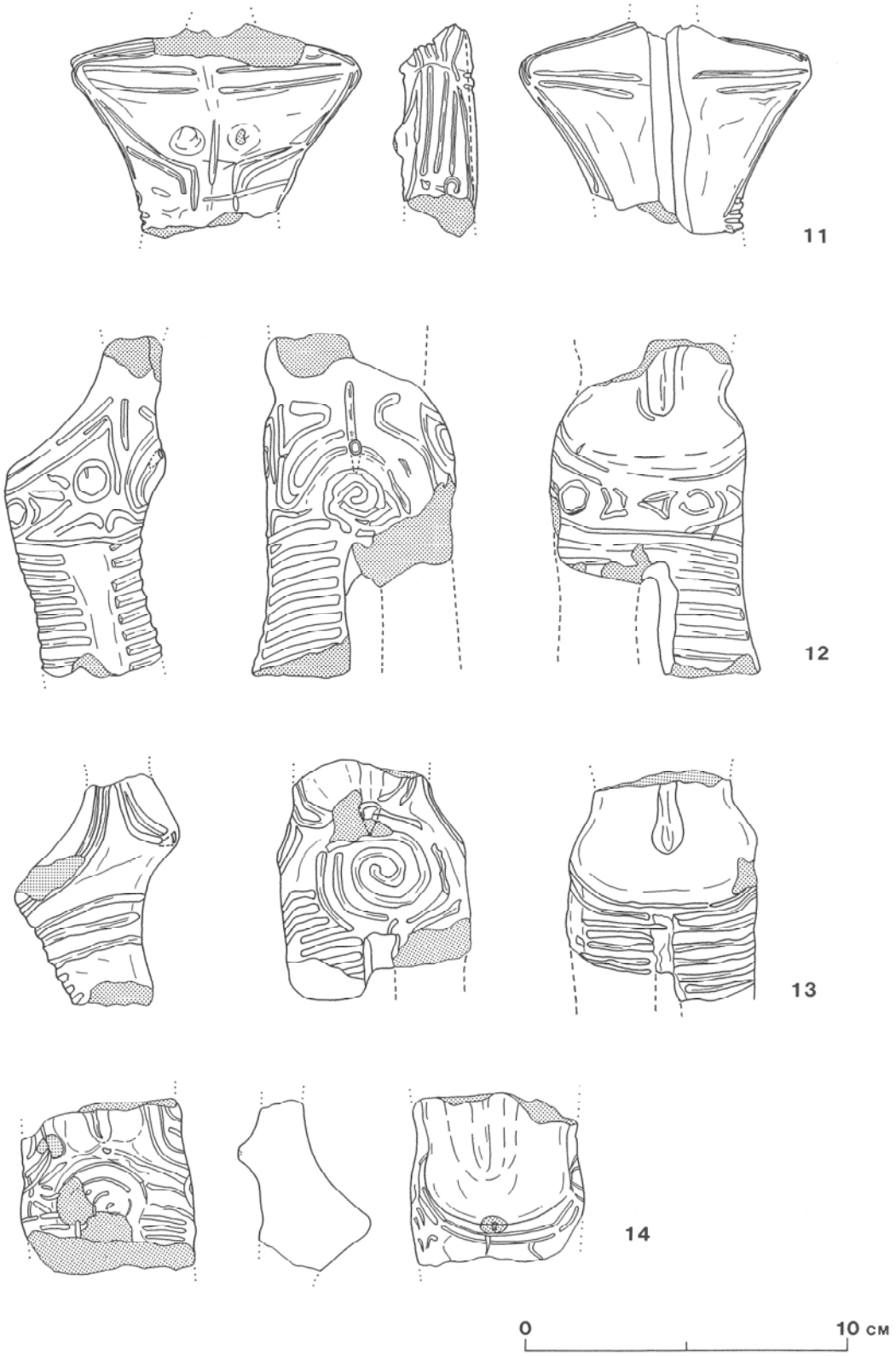
No	出土地点		計測値 m/m		色調	胎土
	G	遺構	外径	厚さ		
1	2		47.1～51.8	7.1～10.4	10YR 8/3	細砂混
2	1		47.0～52.4	9.1～11.9	10YR 8/3	細砂混
3	7		48.3～52.8	8.6～10.1	10YR 8/4	細砂混
4	40		48.4～51.6	11.6～9.8	10YR 8/3	細砂混
5	40		44.7～48.4	7.4～8.8	7.5YR 7/6	細砂混
6	41	SK 4	40.3～42.9	7.2～8.6	10YR 8/3	細砂混
7	24		28.1～31.7	7.4～8.7	10YR 8/3	細砂混
8	6	SK 86	23.7～26.8		10YR 7/4	細砂混
9	4		52		7.5YR 7/4	細砂混



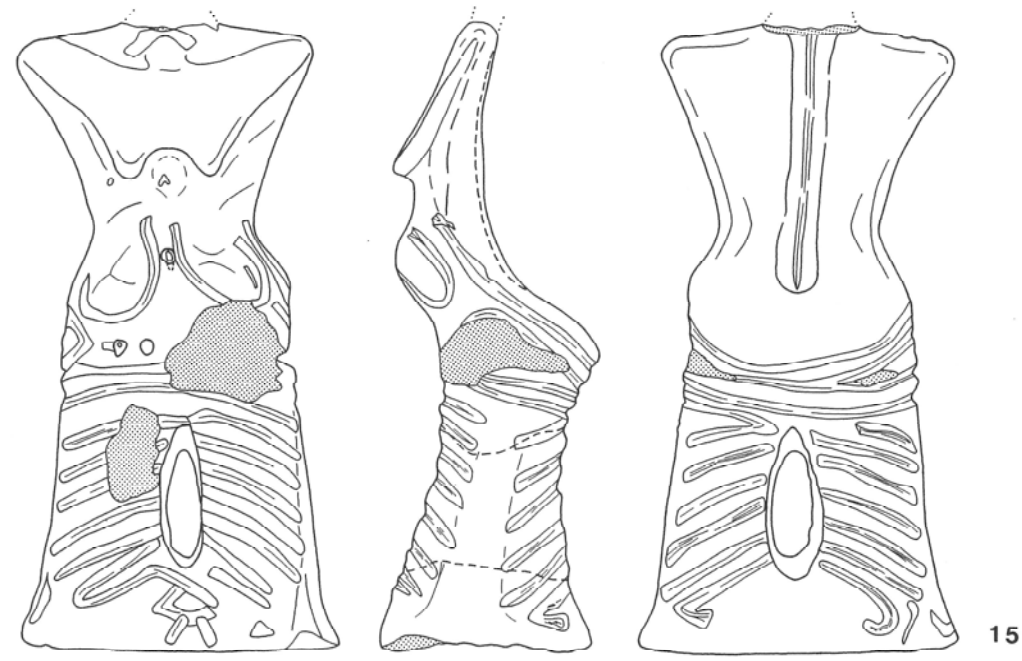
第40図　土偶（1）

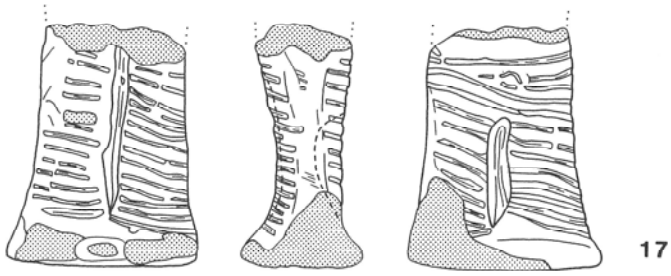


第41図　土偶（2）



第42図　土偶（3）





0 10 cm

第43図　土偶（4）

表13　土偶観察表

No.	出土地点 G	出土地点 遺構	RP No.	計測値 m/m 高さ	計測値 m/m 幅	色調	胎土
1	4			〈82〉	51	10YR 7/4	ち密
2	1	SK 44		〈52〉	79	10YR 8/4	細砂混
3	3			〈84〉	93	10YR 7/3	ち密
4	4.5			〈180〉	59	10YR 7/3	ち密
5	10	SK 69		〈37〉	41	10YR 7/3	細砂混
6	4			〈50〉	〈84〉	10YR 7/4	細砂混
7	24			〈78〉	〈93〉	10YR 7/2	細砂混
8	41		75	〈54〉	71	10YR 6/3	ち密
9	24			〈77〉	114	10YR 7/3	細砂混
10	40			〈70〉		10YR 6/4	細砂混
11	2			〈61〉	90	10YR 7/3	細砂混
12	3			〈106〉	58	10YR 7/4	細砂混
13	3			〈70〉	59	10YR 7/4	細砂混
14	4.5			〈53〉	54	7.5YR 7/4	細砂混
15	24			〈165〉	77	2.5YR 7/3	細砂混
16	24			〈115〉	83	10YR 7/4	ち密
17	1	SK 82	128	〈63〉	52	10YR 7/3	細砂混

石篦は篦状石器とも呼ばれる。46点出土している。形態変化があまりない石器である。頭部が尖り刃部に向けて広がるもの、頭部刃部とも同じ幅のもの、細長の楕円形の形状を呈すものがある。

磨製石斧は欠損品が多い。40点出土している。両側縁および頭部が研磨され、刃部面から頭部にかけて稜をつくり、断面形が矩形状を呈する定角式磨製石斧が大部分である。

凹石は348点ある。平面的に円形のものと、楕円又は細みの楕円形を呈するものがある。凹みが片面にあるものは、1箇所のものが86点、2箇所が38箇所、3箇所が7点ある。凹が両面にあるもので、各1箇所あるものが55点、1箇所と2箇所が55点、1箇所と3箇所が16点、各2箇所が40点、2箇所と3箇所が24点、各3箇所が10点、3箇所以上あるものが17点ある。

破片だが装身具と思われるリング状の石器が1点ある（図版31―15・16）。緑灰色の軟質の石で、外径は65㎜ほどであろうか。両端の割れ口外面には円形のくぼみがある。各外面には沈線が巡っている。内面は勾配があり製作時の擦痕が残る。

第Ⅴ章　調査のまとめ

原の内A遺跡の正式な登録は昭和38年の「山形県遺跡地名表」による。昭和48年度に県立博物館が簡易水道の建設工事により現地調査を実施している。また、県教育委員会では、過去２度緊急発掘調査を実施している。昭和55年度に県営ほ場整備事業で、昭和57年度には県道改良工事に伴い調査している。縄紋時代中期・晩期を中心として、縄紋時代早期から平安時代（今から約7,000年～2,500年前）まで断続的に営まれた集落跡であることが明らかにされている。

今次の調査は、国営村山北部土地改良事業に伴う丹生川左岸幹線用水路に係る、緊急発掘調査である。調査対象とした地区は昭和62・63年度事業実施地区内とした。調査面積は約1,600㎡になった。以下に調査成果の概要をまとめる。

(1)　原の内A遺跡は丹生川左岸の河岸段丘に位置し、標高235～240mを測る。今次の調査地区は台地の縁辺部に近く、南から北側に向かって傾斜している。丹生川との標高差は約10mを測る。

(2)　本調査で検出された遺構には、竪穴住居跡２棟・石囲い炉９基・地床炉38基・フラスコ状土壙16基・配石遺構３基・埋設遺構５基・土壙などがある。１～16グリッドにかけて遺物包含層（黒ボク層）が約50cmの厚さで堆積している。この上面では赤く焼けた焦土、及び石組み炉が多数検出されている。包含層中からは多数の縄紋土器が出土している。

(3)　配石遺構はこれまでの調査で検出されていない。直線上に並ぶSM６・131・132がある。SM131とSM132の間には円礫が集まっている。限定された調査区のためその全体的な規模や様相については未詳である。

(4)　フラスコ状土壙も初めての検出である。フラスコ状土壙は、竪果・根茎類の貯蔵穴と考えられているが、本遺跡では貯蔵物は出土していない。台地縁辺に掘られている存り方など、飽海郡遊佐町の吹浦遺跡で検出されたフラスコ状土壙群と似ている。

(5)　土器は整理箱にして390箱もの出土があった。遺構内より包含層出土のものが多い。時期は大木７b・８a・８b式期のものに限られる。

(6)　今次調査区は縄紋時代中期に営まれた集落の一部分である。縄紋時代中期の遺跡範囲は１・２次の調査結果も考慮すると、東西約200mの広がりがいまところ考えられる。

図　　版

図版 1

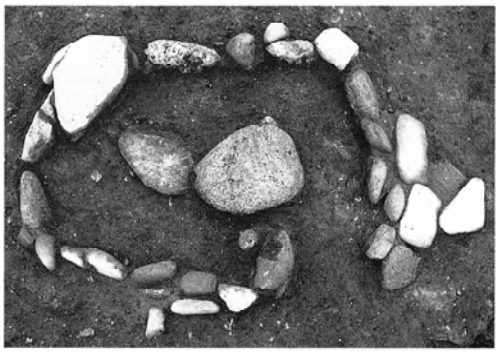
原の内A遺跡遠景（東から）　　G40・41調査状況（東から）

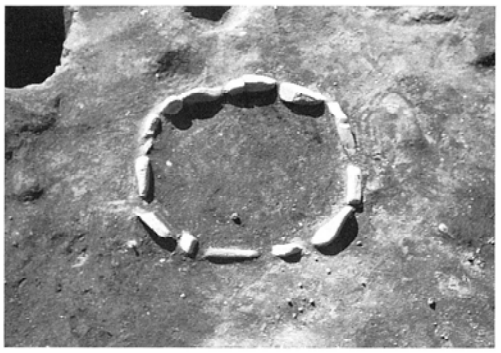
図版 2

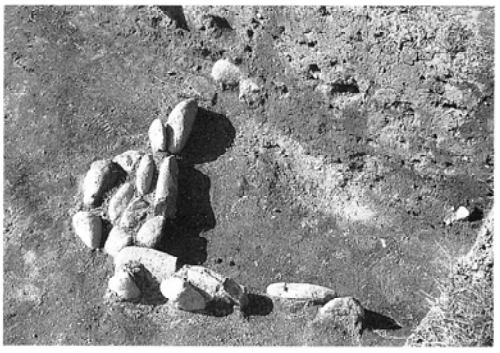
Ｇ２～８調査状況（南から）　　Ｇ１～３調査状況（北西から）

図版 3

G 3 ～ 8 調査状況（北西から）　　G 12～16調査状況（南から）

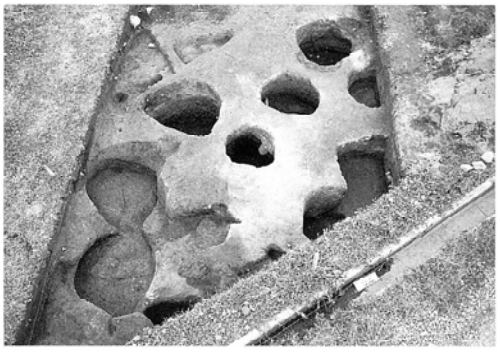






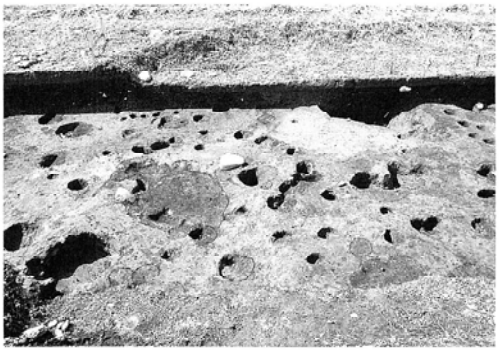
図版 4

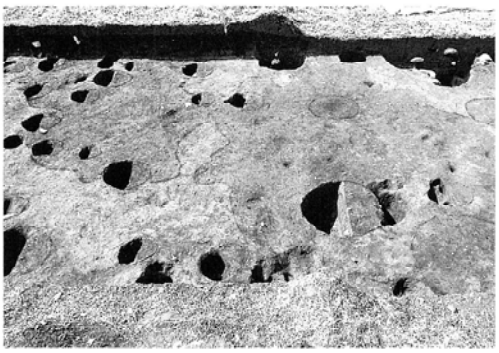
調査区近景（調査前　南から）
SM131配石遺構（G40　南から）
SM132配石遺構（G40・41　北から）
G40・41調査区北壁土層（南西から）
EL72石囲い炉(西から)
EL74石囲い炉(東から)
EL76・73石囲い炉(G14　東から)
EL77石囲い炉(南西から)



図版 5

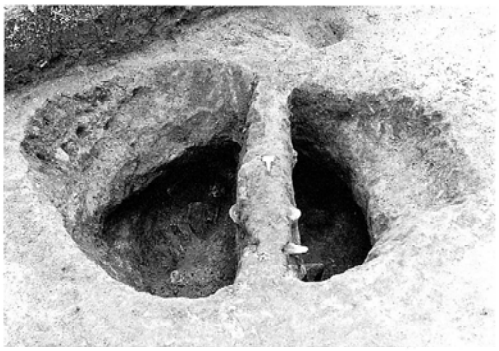
EL107石囲い炉（Ｇ３　東から）
SM６配石遺構（東から）
SD130溝跡・ST123住居跡（北西から）
SD130溝跡（西から）
ST123住居跡(西から)
Ｇ１・２遺構検出状況(南から)
Ｇ１・２フラスコ状土壙(南から)
Ｇ１フラスコ状土壙(北から)





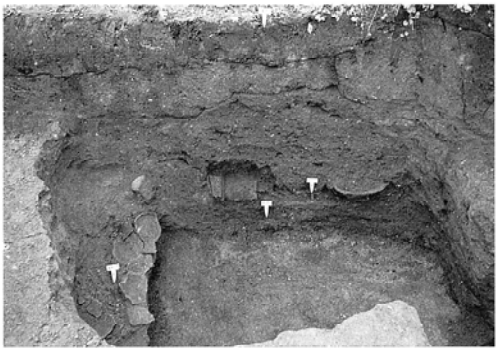
図版 6

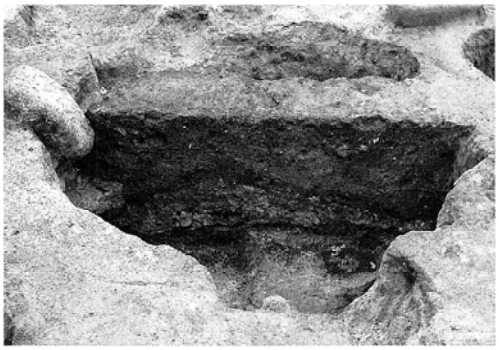
G 6 ・ 7（東から）
G 8 ・ 9 （東から）
G 13・14（南西から）
SK 2 土壙（南東から）
SK 2 土壙RP17・25出土状況（南から）
ST70住居跡（南から）
ST70住居跡（南西から）

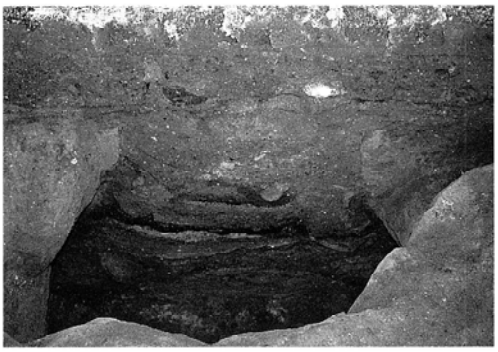


図版 7

埋設土器RP90（G11　西から）
SK13フラスコ状土壙（北から）
SK45フラスコ土壙（西から）
SK58フラスコ状土壙（南から）
SK69フラスコ状土壙(北から)
SK69フラスコ状土壙RP120出土状況(北から)
SK69フラスコ状土壙RP130出土状況(西から)
SK80フラスコ状土壙(西から)







図版 8

SK81フラスコ状土壙（南から）
SK86フラスコ状土壙（東から）
SK87フラスコ状土壙（南東から）
SK88・69フラスコ状土壙（南西から）
SK88フラスコ状土壙RP134出土状況(東から)
SK89フラスコ状土壙(東から)
SK90フラスコ状土壙(北東から)
SK92フラスコ状土壙(東から)

1

2

3

4

5

6

7

8

図版 9　土器（1）

9

10

11

13

14

15

16

図版10　土器（2）

17

18

19

20

21

22

23

25

図版11　土器（3）

26

27

28

29

30

31

32

33

図版12　土器（4）

34

35

36

37

38

39

40

41

図版13　土器（5）

42

43

44

45

46

47

48

49

図版14　土器（6）

50

51

52

53

54

55

56

57

図版15　土器（7）

58

59

60

61

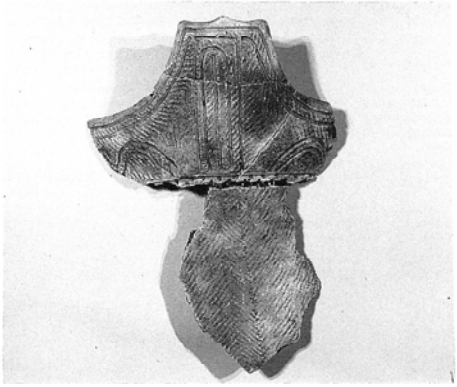
62

63

64

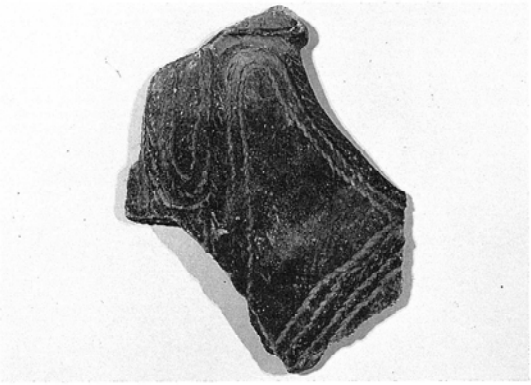
65

図版16　土器（8）



66

67

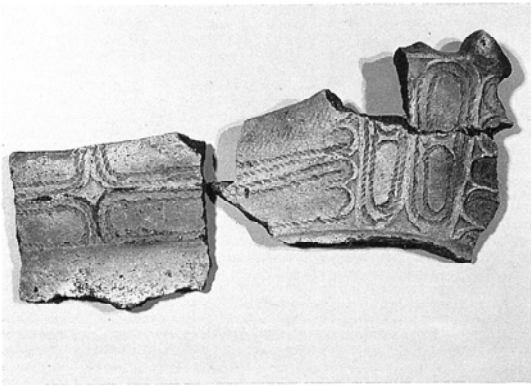


68

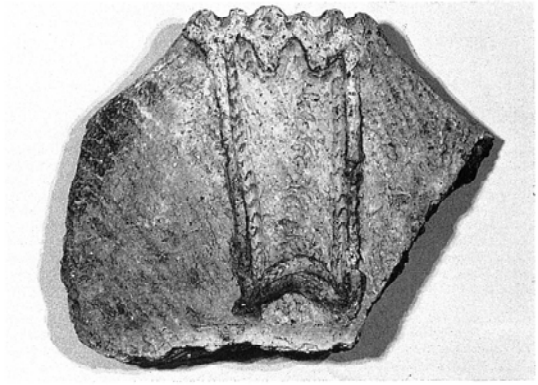
69

70

71



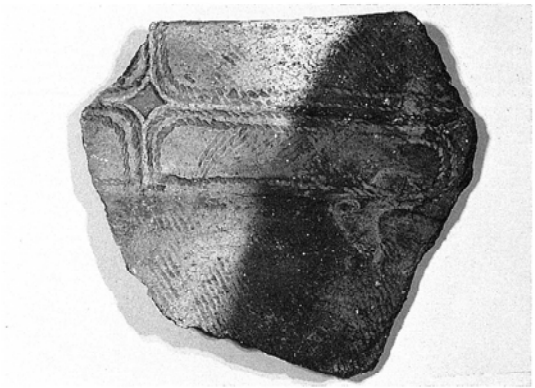
72



73

図版17　土器（9）

74



75

76

77

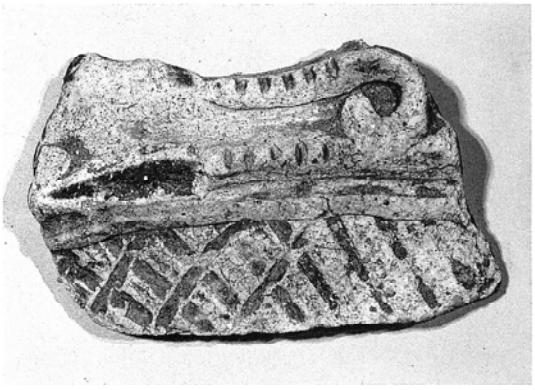
78

79

80

81

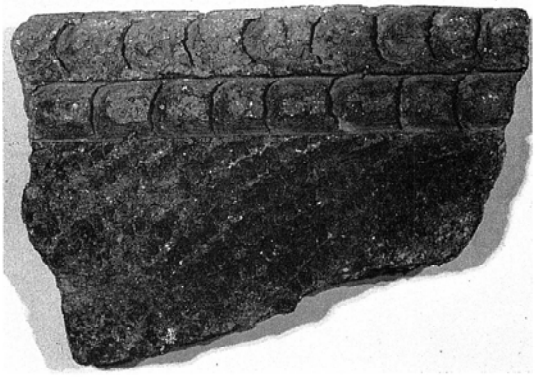
図版18　土器（10）



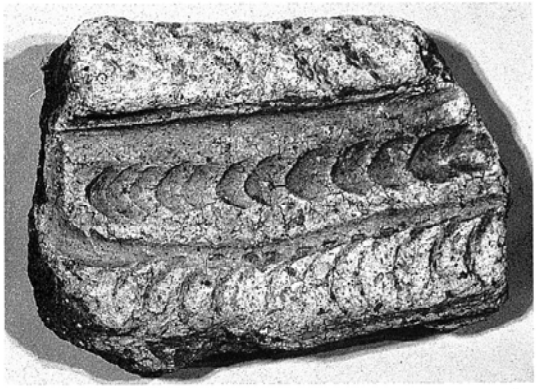
82

83

84

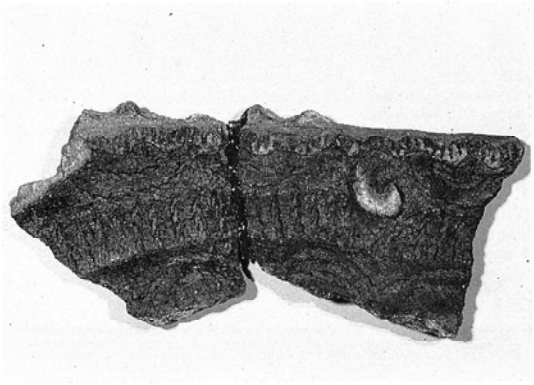


85

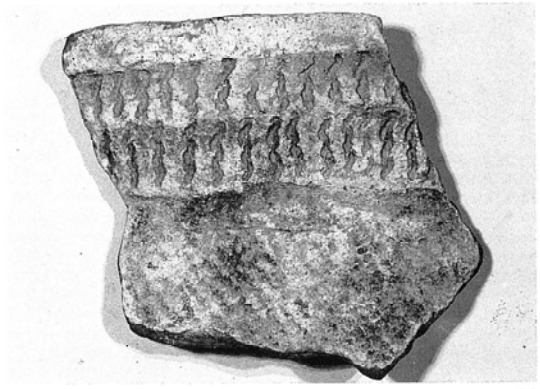


86

87



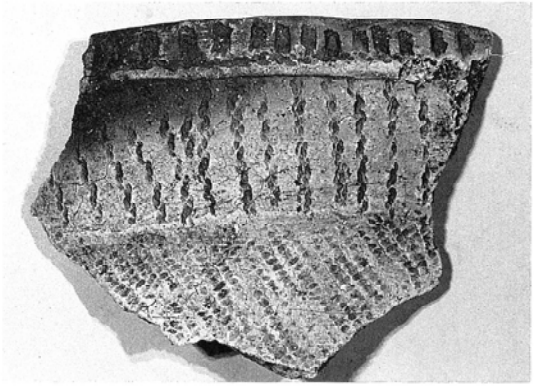
88



89

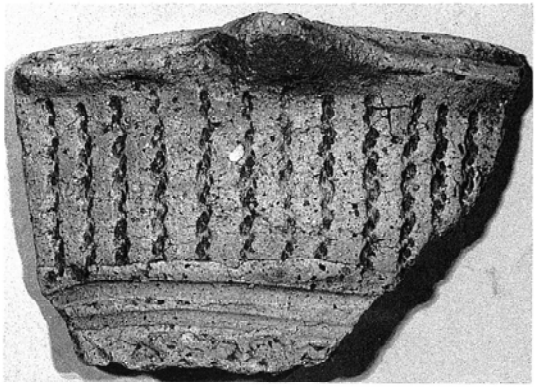
図版19　土器（11）

90

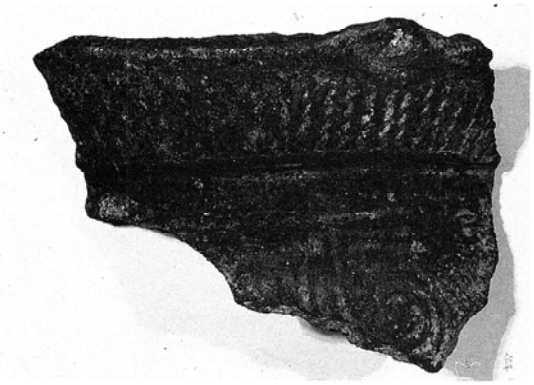


91

92



93



94

95

96

97

図版20　土器（12）

98

99

100

101

102

103

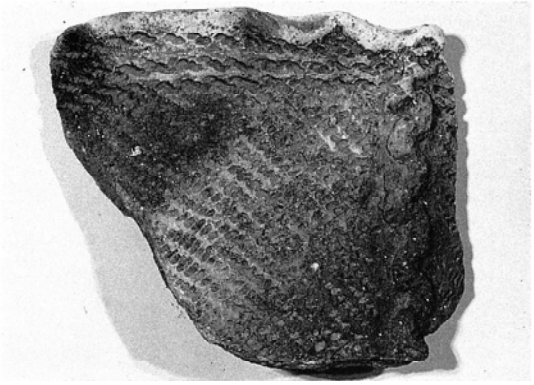
104

105

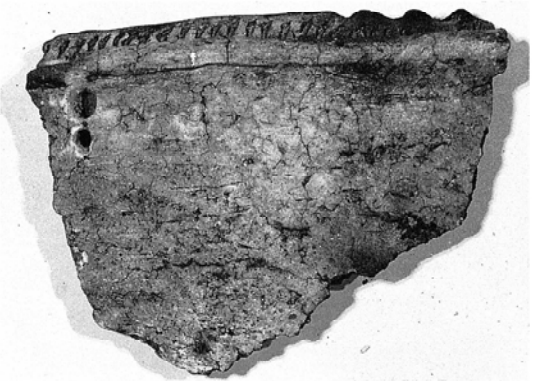
図版21　土器（13）

106

107



108

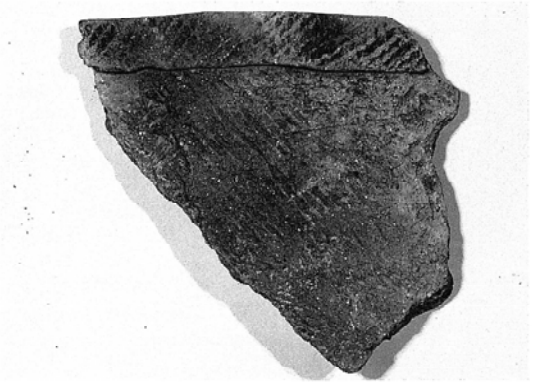


109

110

111

112



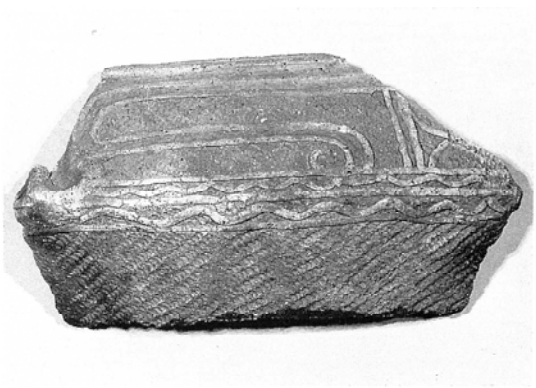
113

図版22　土器（14）

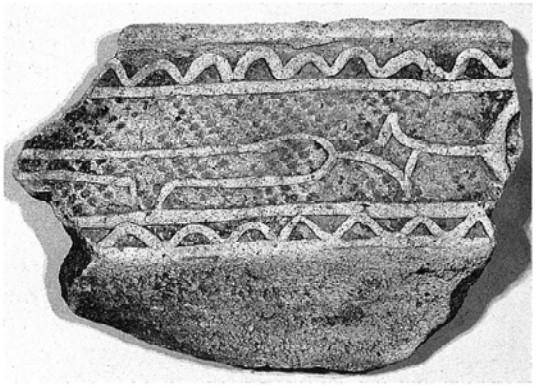
114

115

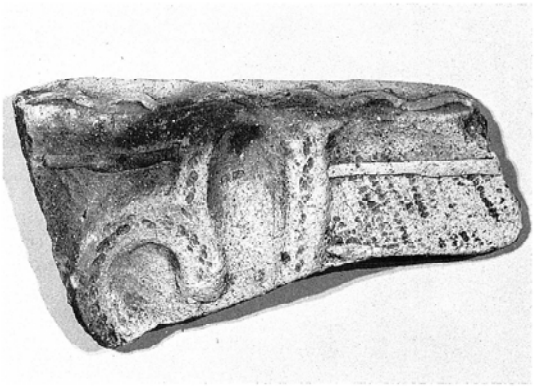
116



117



118



119

120

121

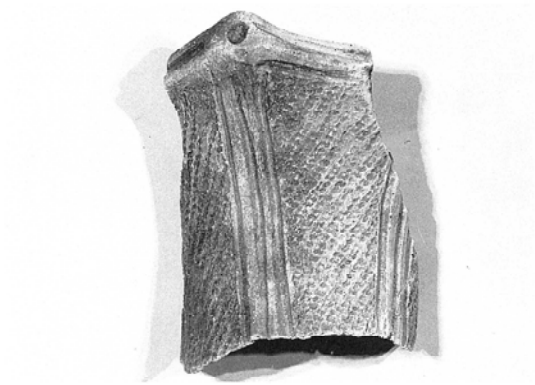
図版23　土器（15）

122

123

124

125



126

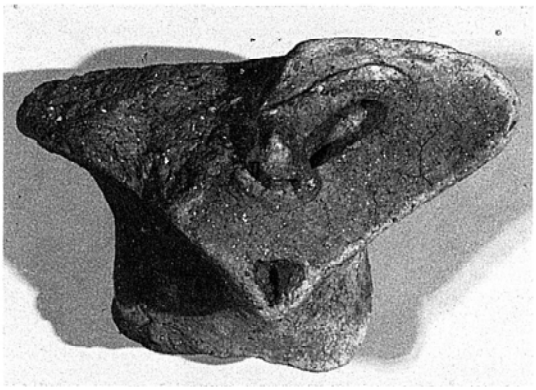
127

128

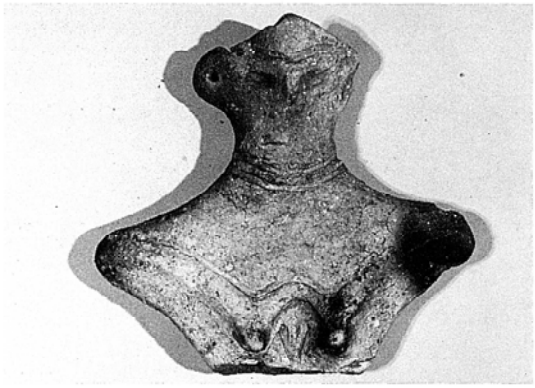
129

図版24　土器（16）

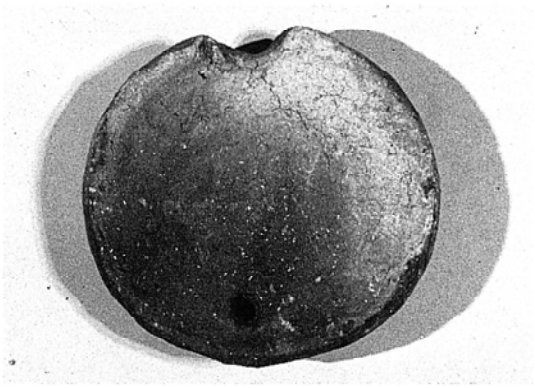
1



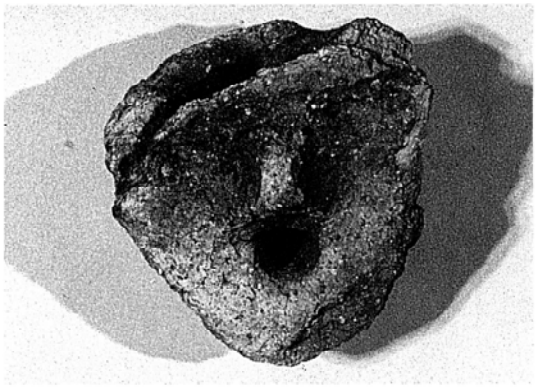
2



3

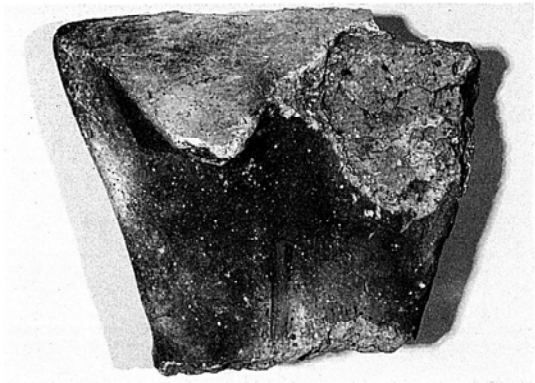


4

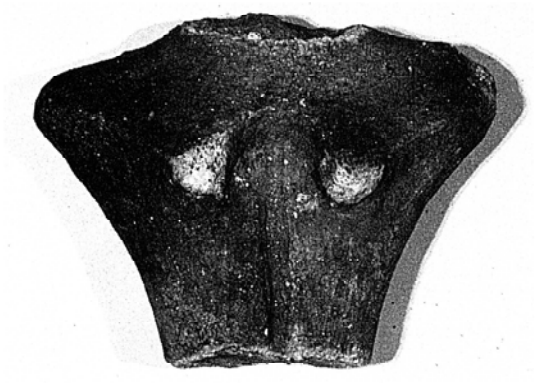


5

6

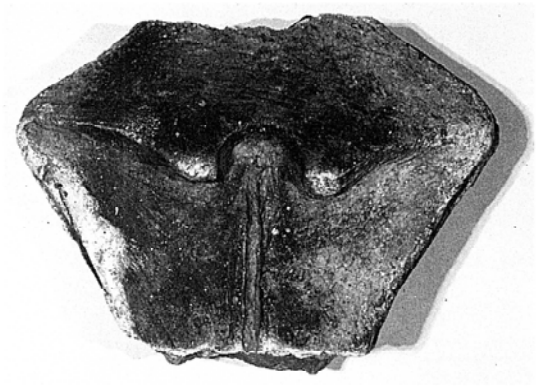


7



8

図版25　土偶（1）

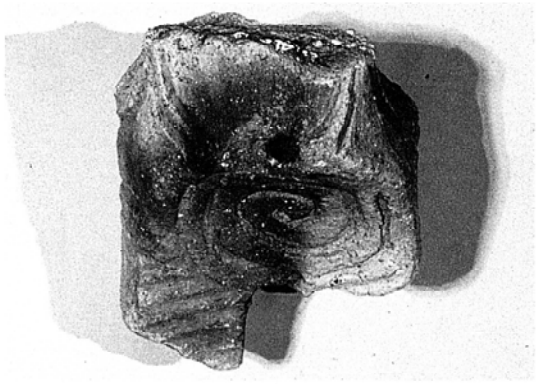


9

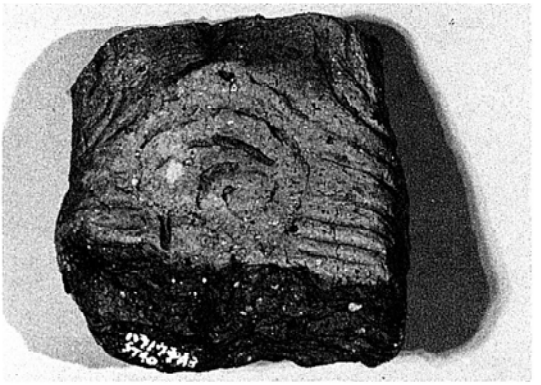
10

11

12

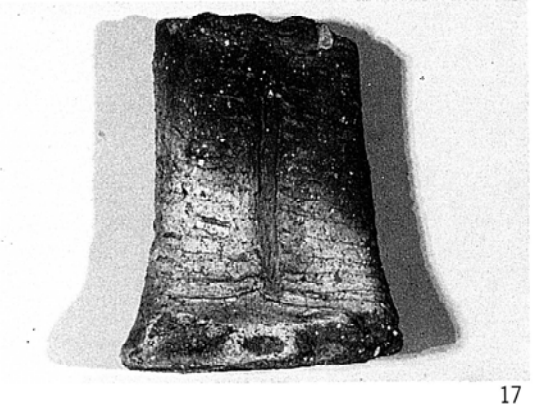


13



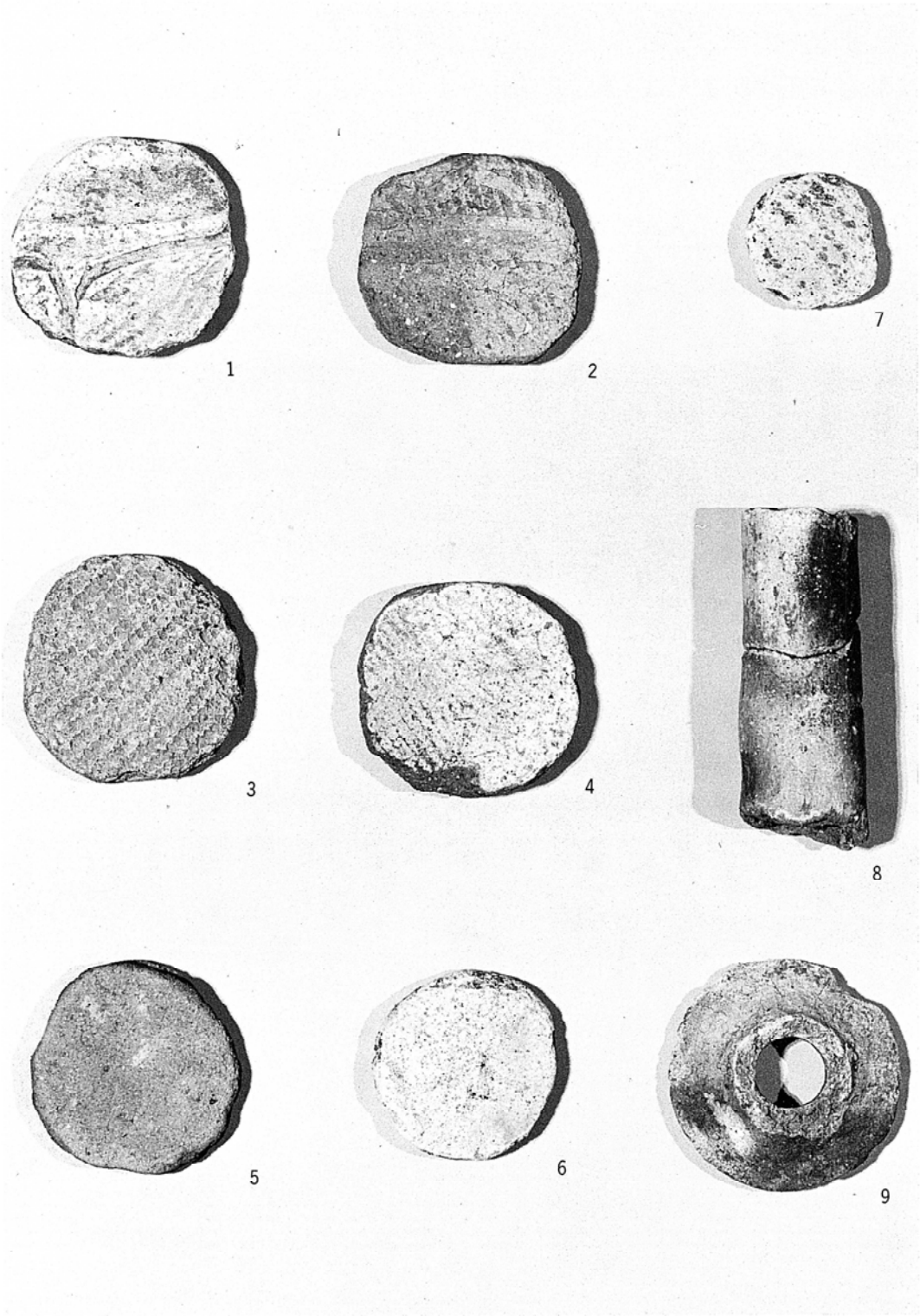
14

16

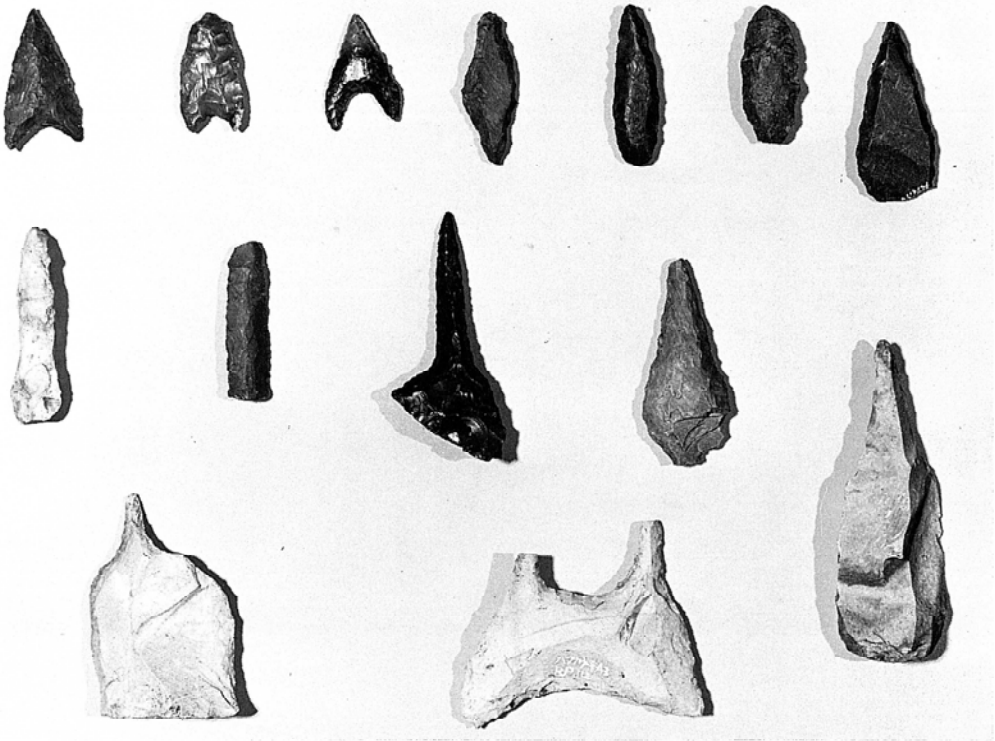


17

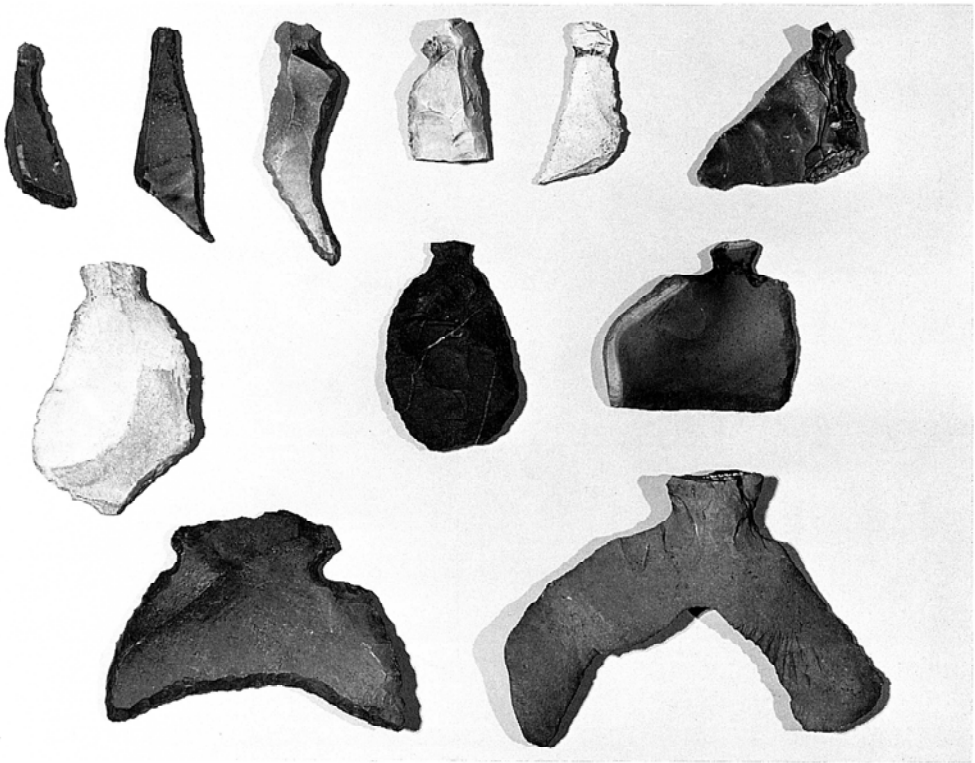
図版26　土偶（２）



図版27　土製円板・筒状土製品

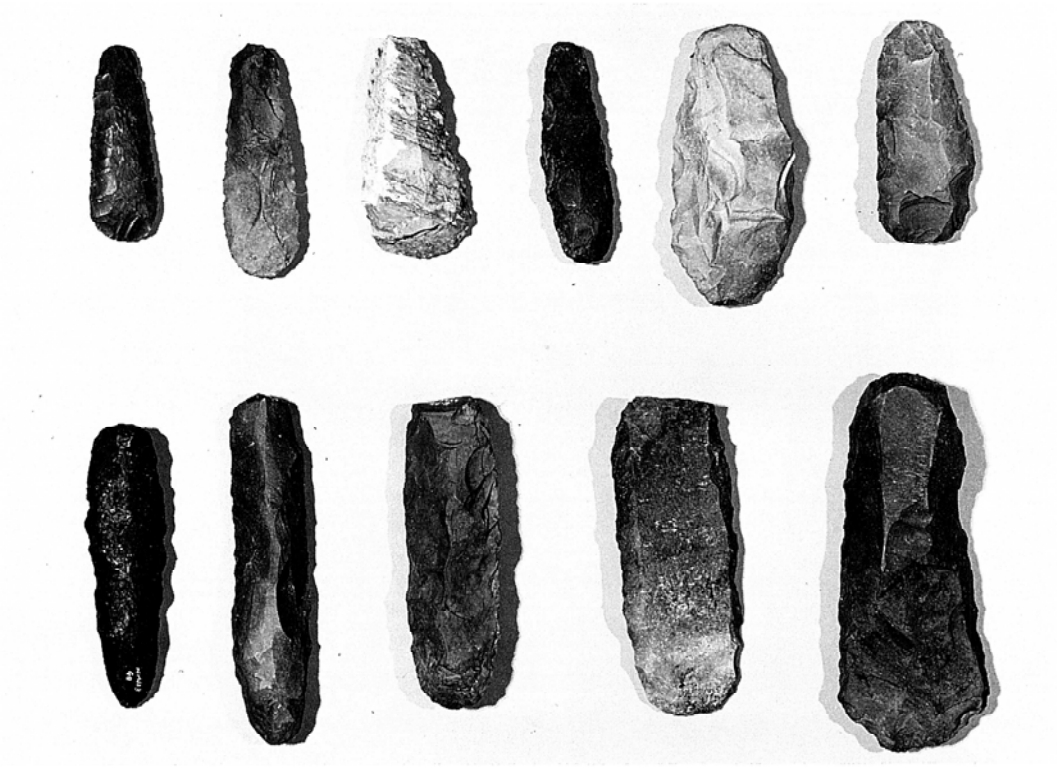


石鏃・石錐



石匙

図版28　石器（1）



石箆

磨製石斧

図版29　石器（2）

1

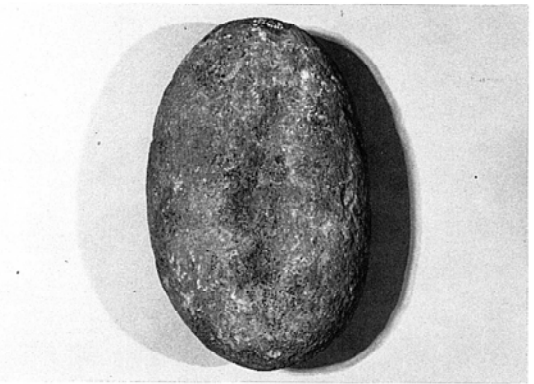
2

3

4

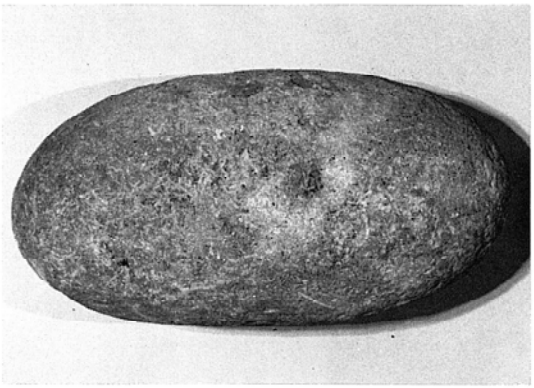
5

6

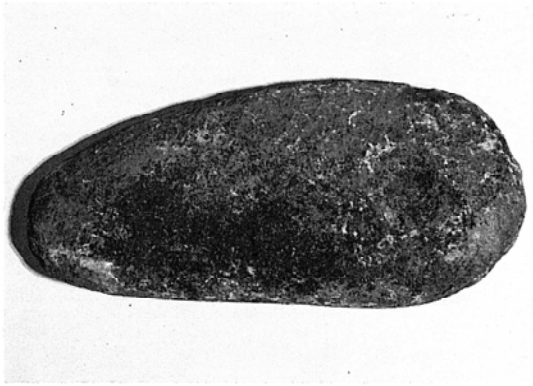

7

8

図版30　石器(3)

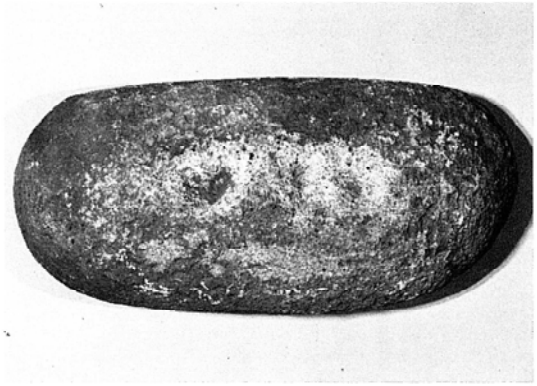


9

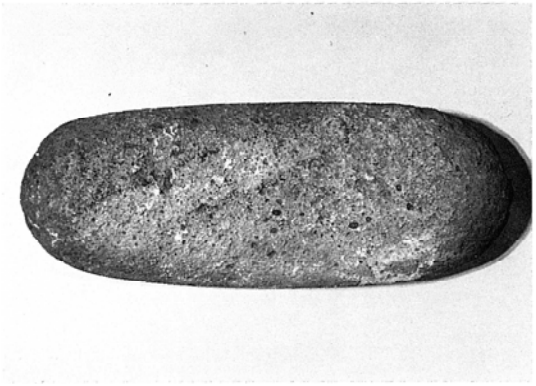


10

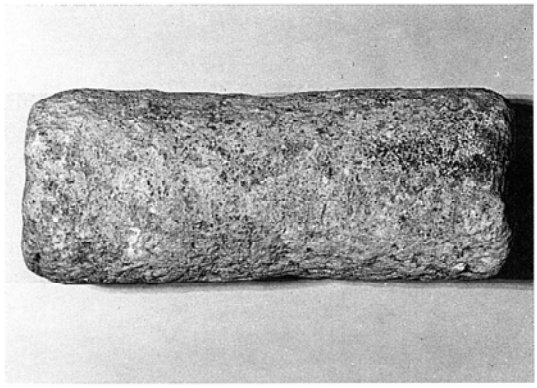
11



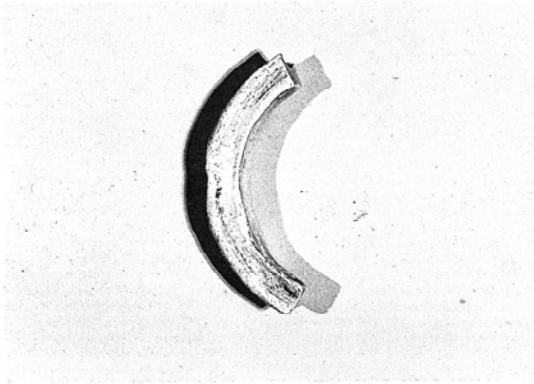
12



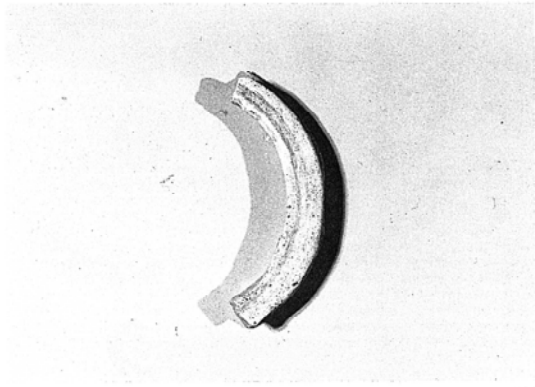
13



14



15



16

図版31　石器（4）

山形県埋蔵文化財調査報告書　第132集

原の内A遺跡
第3次発掘調査報告書

昭和63年3月23日　印刷
昭和63年3月25日　発行

発　行　山形県教育委員会
印　刷　藤庄印刷株式会社